FAX System(U)

使用説明書

FAX System(U)

使用説明書　メニュー

目次・索引から選ぶ

目的で選ぶ

送信する

受信する

目次から選ぶ　索引から選ぶ

通信を中止する

宛先を登録する

ファクスを設定する

- 簡単セットアップ（ファクスのセットアップ）
  - 回線種類
  - 受信方式
  - 自局名登録
  - 自局名登録（フリガナ）
  - 自局ファクス番号
  - 自局ファクスID
  - 自局印字位置
  - スピーカー音量
  - モニター音量
  - ベル回数（普通）
  - ベル回数（留守番電話）
  - ベル回数（ファクス/電話切替）
  - 排紙先
  - 縮小受信
  - リダイヤル回数
  - Fネット無鳴動受信
- 日付と時刻の設定
- 管理機能
- ファクス/電話自動切替受信
- ファクス/留守番電話自動切替受信
- ファクス初期設定
  - カセット/手差しトレイ設定
  - ファクススピーカー音量
  - ファクスモニター音量
  - ファクスリモート診断
  - 両面印刷
  - 2in1印刷
  - 一括印刷
  - リモート切り替えダイヤル
- 受信日時記録
- 受信用紙種類
- Fネット無鳴動受信
- ダイヤルイン
- 送受信制限
- 暗号通信

目次から選ぶ

索引から選ぶ

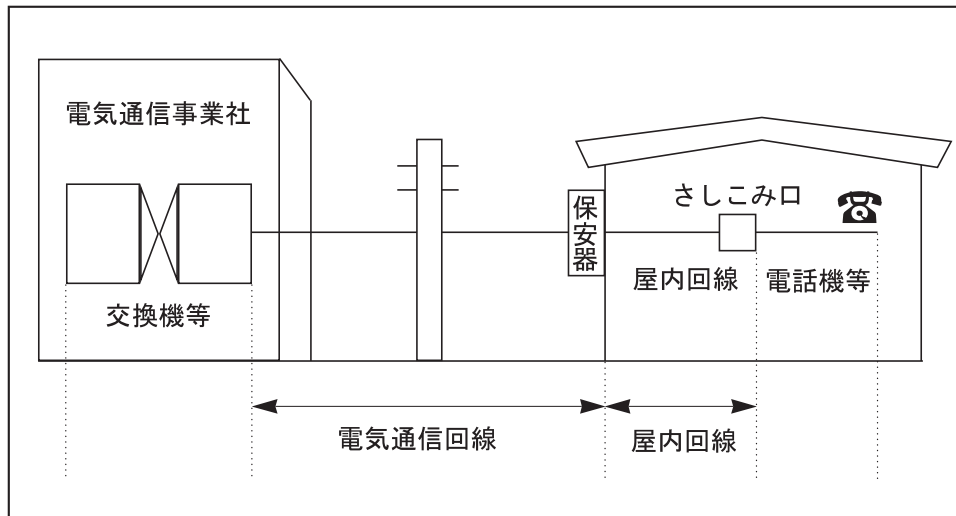
べんりな機能を使う

トラブルが発生した

リスト / レポートを表示 / 印刷する

目次から選ぶ

索引から選ぶ

［電気通信回線への接続方法］

ファクスキットについて

本FAX System(U)は京セラミタ製複合機（FS/LSシリーズ、TASKalfaシリーズ）の対応機種で使用できます。

対応機種については、複合機のカタログまたは説明書等をご確認ください。

商標について

- Microsoft、MS-DOSおよびWindowsは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- Adobe Acrobat、Adobe Reader、PostScriptは、Adobe Systems, Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
- Ethernetは、ゼロックス社の登録商標です。
- IBMおよびIBM PC/ATは、米国International Business Machines Corporationの商標です。

その他、本使用説明書中に記載されている会社名や製品名は、各社の商標または登録商標です。なお、本文中には™および®は明記していません。

本書中の注意表示について

この使用説明書は、ファクスを良好な状態でご使用いただくために、正しい操作方法・日常の手入れおよび簡単なトラブルの処置などができるようにまとめたものです。

ご使用前に必ずこの使用説明書をお読みください。

この使用説明書及び本製品への表示では、本製品を正しくお使い頂き、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

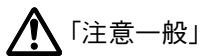
警告：この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意：この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

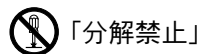
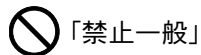
絵表示

△記号は、注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。

「注意一般」

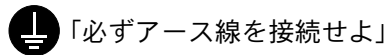
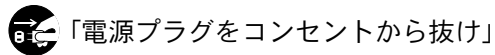
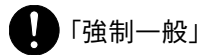
「高温注意」

⃠ 記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中に具体的な禁止内容が描かれています。

「禁止一般」

「分解禁止」

●記号は行為を規制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容が描かれています。

「強制一般」

「電源プラグをコンセントから抜け」

「必ずアース線を接続せよ」

本製品使用時の汚れなどによって本使用説明書の注意・警告事項が判読できない場合や、本使用説明書を紛失した場合には、弊社製品取り扱い店等へご連絡の上、新しい使用説明書を入手してください。（有償）

お願い

使用説明書の内容は、機械性能改善のために、予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。

目次

安全に正しくお使いいただくために

本使用説明書について

本使用説明書は、ファクス機能についての説明書です。

ご使用前には必ず本体の使用説明書と合わせてお読みください。

ご使用にあたって、次の内容については本体の使用説明書をお読みください。

設置環境について 取り扱い上のご注意 用紙のセット 清掃する トナーコンテナを交換する 廃棄トナーボックスを交換する 一般的な問題について こんな表示がでたら 紙づまりが発生したら

この装置は、クラスB 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。　VCCI-B

本書の構成・表記について

本書の構成

本説明書は、次の章で構成されています。

章		内容
1	ファクスをお使いになる前に	各部の名称とかんたんファクス設定について説明しています。
2	宛先を登録する	アドレス帳やワンタッチキーに宛先を登録する手順を説明しています。
3	相手先の入力方法	相手先のファクス番号を入力する方法を説明しています。
4	ファクスを送信する	一般的なファクスの送信方法と、送信機能について説明しています。
5	ファクスを受信する	一般的なファクスの受信方法と、受信機能について説明しています。
6	べんりなファクス機能を使う	受信した原稿をメモリー内のボックスに保存したり、受信した原稿を転送したり、ポーリング通信（受信側から電話をしてファクス受信する機能）など、べんりなファクス機能について説明してます。
7	ハンドセットや外付け電話機を使用する	オプションのハンドセットや外付け電話機を併用したべんりな機能について説明しています。
8	通信結果や登録した内容の確認	最近行われた送/受信の状況をタッチパネルで確認する方法を説明しています。また、通信結果や本機 の設定・登録状況を把握するための管理レポート類の印刷方法についても説明しています。
9	ファクスの設定	送信先や受信先を制限したり、機器の使用禁止時間を設定したり、ファクスの使用状況を管理するなど、ファクスに関する各種の設定や登録について説明しています。
10	こんなときには	エラーが表示されたときやトラブルが発生したときの対処方法を説明しています。
11	付録	文字の入力方法やファクスの仕様などについて説明しています。

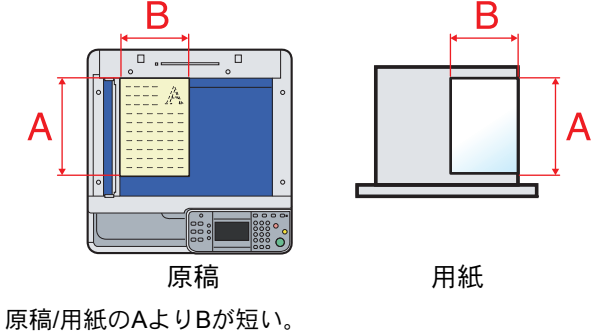
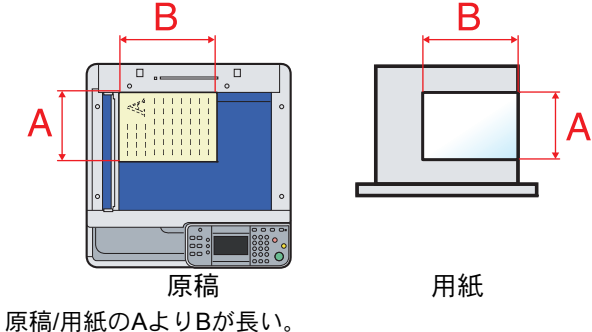
本書の読みかた

本書中では、説明の内容によって、次のように表記しています。本書中では、説明の内容によって、次のように表記しています。

表記	説明
太字キー	操作パネル上のキーを示します。
[太字]	タッチパネル上のキーおよびコンピューター画面に表示されるボタン、メッセージを示します。
「太字」	タッチパネルに表示されるメッセージを示します。
参考	補足説明や操作の参考となる情報です。
重要	トラブルを防止するために、必ず守っていただきたい事項や禁止事項です。
注意	けがや機械の故障を防ぐために守っていただきたい事項、およびその対処方法です。

タッチパネルのキーを押して操作する箇所を、赤い枠で囲んで示しています。

[ワンタッチキー]を押す。

操作パネルやタッチパネルを連続で操作する手順は、次のように番号を付けて表記しています。

[機能一覧]を押す。→[原稿サイズ]を押す。

原稿および用紙サイズについて

本書中で使用する原稿および用紙サイズの表記について説明します。
A4やB5、Letterのように、縦向きと横向きのどちらも使用できるサイズの場合、原稿/用紙の向きを区別するために、横向きのサイズには「R」を付けて表記しています。

セット向き		表記サイズ*
縦向き	B B A A 原稿 用紙 原稿/用紙のAよりBが短い。	A4、B5、A5、Letter、Statement
横向き	B B A A 原稿 用紙 原稿/用紙のAよりBが長い。	A4-R、B5-R、A5-R、Letter-R、Statement-R

*. 使用できる原稿/用紙のサイズは機能や給紙段によって異なります。詳しくは各機能または給紙段のページを参照してください。

タッチパネルのアイコン表示について

タッチパネルでは、原稿および用紙のセット方向を次のアイコンで表示します。

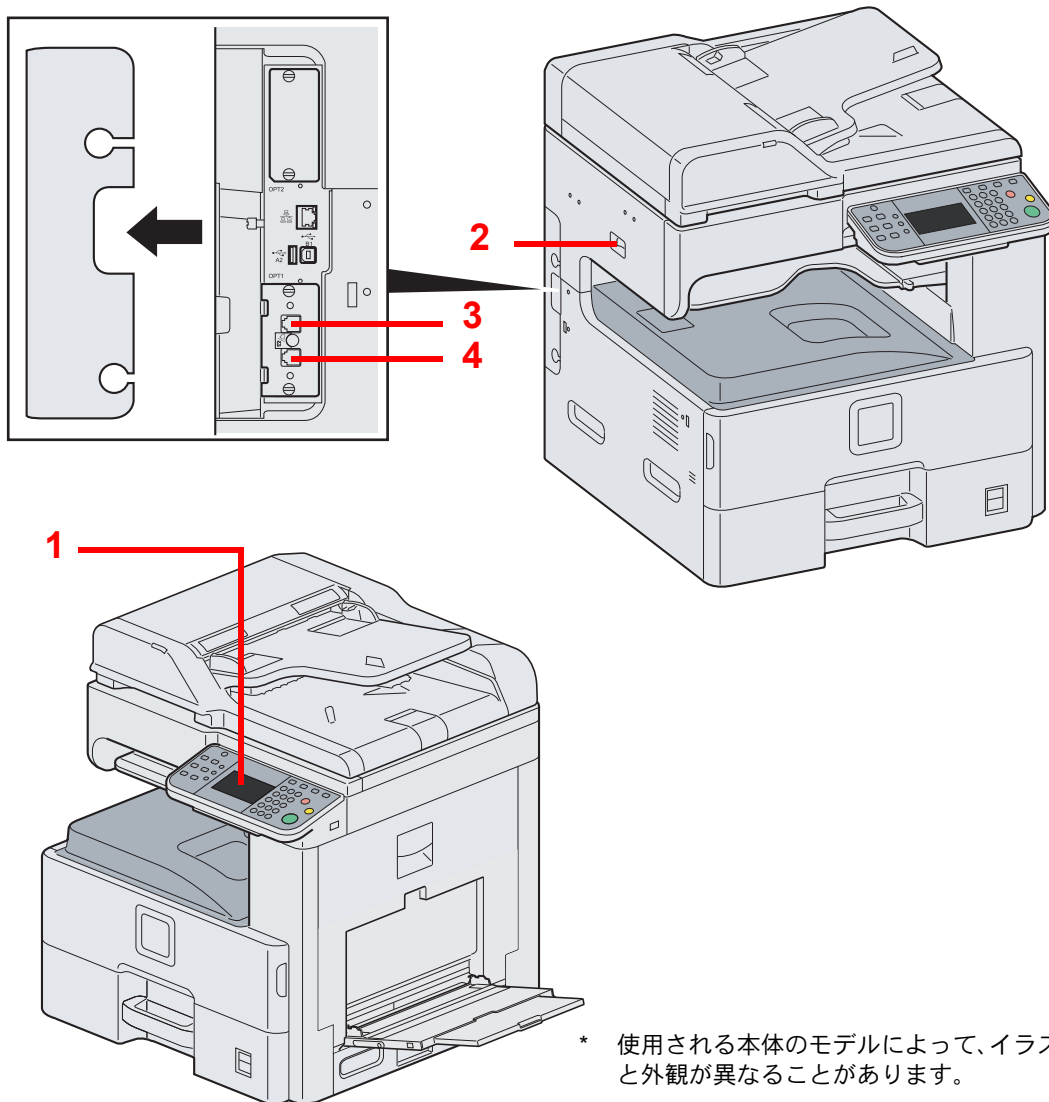
セット向き	原稿	用紙
縦向き		
横向き		

1　ファクスをお使いになる前に

この章では、次の項目について説明します。

各部の名称とはたらき

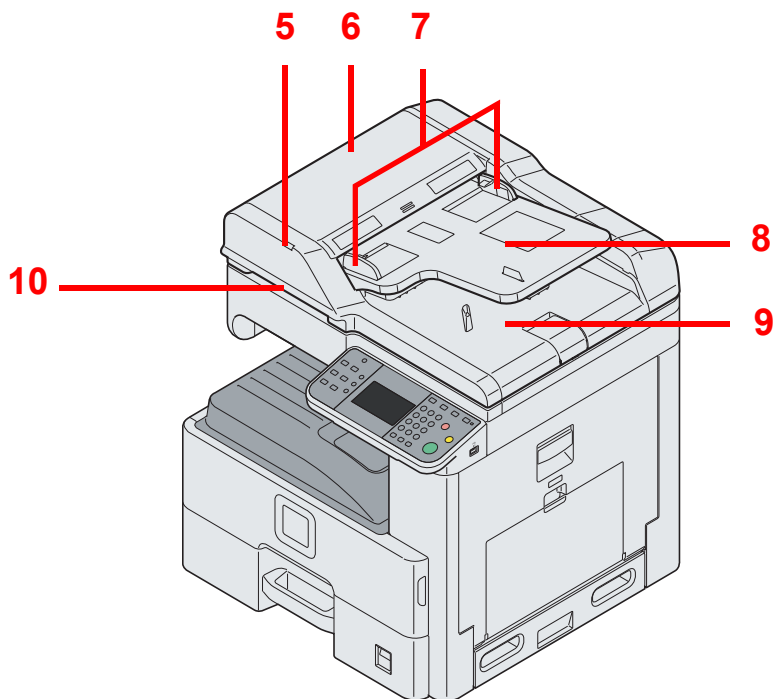
本体

本機をファクスとして利用するときに使用する部位について説明しています。ファクス以外の機能を使用するときの部位については、本体の使用説明書を参照してください。

＊ 使用される本体のモデルによって、イラストと外観が異なることがあります。

1	操作パネル	ファクスの操作はここで行います。
2	主電源スイッチ	ファクスやコピーの操作を行うときは、このスイッチをON(｜)にしてください。タッチパネルが点灯し、機械の操作が可能になります。
3	LINE 接続コネクタ(L1)	電話回線用のモジュラーコードを接続してください。
4	TEL 接続コネクタ(T1)	オプションのハンドセットや市販の電話機を併用する場合は、ここに接続してください。

重要

主電源スイッチを切ると、ファクスを自動受信できなくなりますのでご注意ください。電源を切る場合は操作パネルにある電源キーを押してください。

原稿送り装置

* 使用される本体のモデルによって、イラストと外観が異なることがあります。

5	原稿セットランプ	原稿送り装置の原稿の状態を表示します。原稿が正しくセットされていると緑色に点灯します。
6	上カバー	原稿送り装置で原稿がつまったときに開いてください。
7	原稿幅ガイド	原稿幅に合わせて調節してください。
8	原稿トレイ	ここにシート原稿を重ねてセットしてください。
9	原稿排紙テーブル	読み終わった原稿はここに排出されます。
10	開閉取っ手	原稿送り装置を開閉するときは、この取っ手を持ってください。

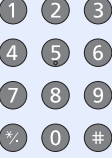
参考

原稿セットランプは、原稿の状況を表示します。

緑色点灯：原稿がセットされています。

操作パネル

キー	説明	キー	説明
システムメニュー / カウンター	システムメニュー/カウンター画面を表示します。		
状況確認/ジョブ中止	状況確認/ジョブ中止画面を表示します。	コピー	コピー画面を表示します。
お気に入り	お気に入り画面を表示します。	送信	送信の基本画面を表示します。送信の基本画面からファクス送信ができます。
文書ボックス	文書ボックス画面を表示します。	ファクス	ファクスの基本画面を表示します。

キー	説明
割り込み	割り込みコピー画面を表示します。
ログアウト	管理画面の操作を終了（ログアウト）します。
節電	本機を低電力モードにします。
電源	本機をスリープ状態にします。スリープ状態のときはスリープ状態から復帰します。
主電源ランプ	本機の主電源がONのときに点灯します。

ジョブセパレーターのトレイに用紙があると点灯します。

タッチパネルです。ここのキーに触れて各種設定を行います。

処理中：ファクスの送/受信中に点滅します。

メモリー：メモリーにアクセス中に点滅します。メモリー内に原稿がある場合に点灯します。

アテンション：エラーが発生してジョブが停止すると点灯または点滅します。

*　モデルによっては、イラストと外観が異なることがあります。

キー	説明	キー	説明	キー	説明
1 2 3 4 5 6 7 8 9 */. 0 #	テンキーです。 数字や記号を入力します。	クリア	入力した数値や文字を消去します。	リセット	設定値を初期状態に戻します。
		短縮	アドレス番号やユーザーIDなど、番号で登録内容を指定します。	ストップ	動作中の印刷ジョブを中止、または一時停止します。
		エンター	テンキーの入力や、機能設定中のタッチパネルを確定します。タッチパネル上の[OK]と連動しています。	スタート	ファクス送信動作開始や設定動作の処理を開始します。

タッチパネル

エンター、短縮キーについて

操作パネルにあるエンターキー、および短縮キーの使いかたについて説明します。

エンターキーの使いかた

エンターキーは、タッチパネルに表示される[OK]、[閉じる] などのキーと同じ働きをします。

同じ働きをするキーには、[OK ↲]や[閉じる ↲]のように、エンターのマーク(↲)が表示されます。

操作パネルのエンターキーを押すと、タッチパネルの[OK]と同じ働きをします。

短縮キーの使いかた

短縮キーは、送信するときの送り先を短縮番号で指定したり、番号を直接テンキーで入力する場合に使用します。

ワンタッチキー画面で、短縮キーを押すと番号入力の画面が表示されます。

簡単セットアップ(ファクスのセットアップ)

簡単セットアップでは、ウィザード形式で以下の設定を行います。ファクスをご使用になる前に必ず設定を行なってください。

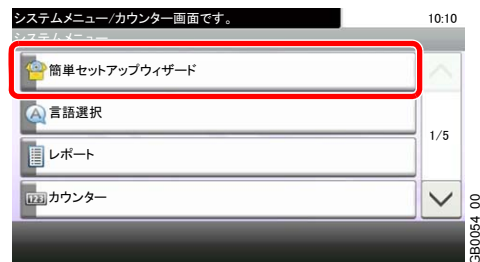
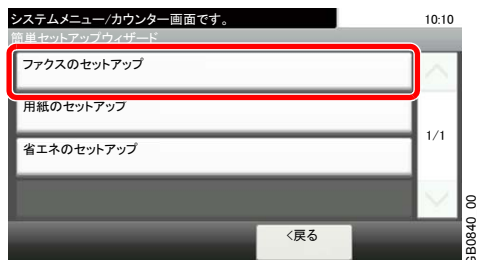
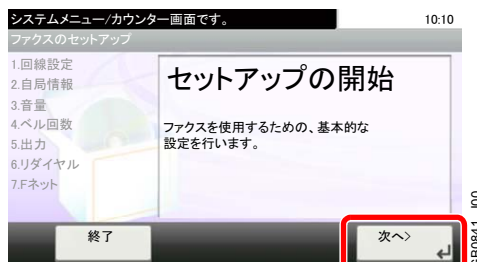
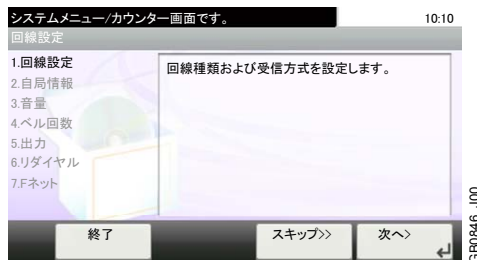
ファクスのセットアップの項目

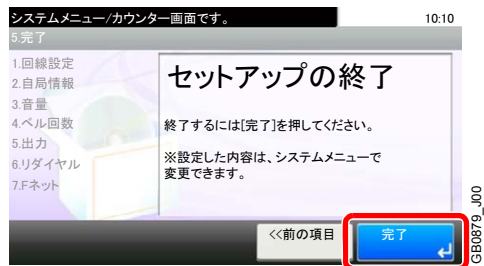
ステップ	設定項目	説明	参照ページ
1.回線設定	回線種類	契約している電話回線の種類に合わせて回線の種類を設定します。	9-7ページ
	受信方式	受信方式を選択します。	9-8ページ
2.自局情報	自局名登録	相手先の記録紙に印字する自局名を登録します。	9-6ページ
	自局名登録(フリガナ)	発信元情報に印刷する発信元の自局名(ﾌﾘｶﾞﾅ)を登録します。	9-6ページ
	自局ファクス番号	相手先の記録紙に印字する自局ファクス番号を登録します。	9-6ページ
	自局ファクスID	自局ファクスIDを登録します。自局ファクスID は通信する相手先を限定するときに使用します。登録する自局ファクスIDの番号は4桁で入力してください。	9-6ページ
	自局印字位置	自局ファクス番号を相手先の記録紙に印刷するかどうかを設定します。	9-7ページ
3.音量	スピーカー音量	オンフック時の音量を設定します。 スピーカー音量:[オンフック]を押して電話回線を接続したときに、内蔵スピーカーから聞こえる音量です。	9-5ページ
	モニター音量	モニター音量を設定します。 モニター音量:メモリー送信などで[オンフック]を押さずに電話回線を接続したときに、内蔵スピーカーから聞こえる音量です。	9-5ページ
4.ベル回数	ベル回数(普通)	相手先からの呼び出しに応答するまでのベル回数を設定します。	9-8ページ
	ベル回数(留守番電話)	ファクスと留守番電話を切り替えるまでのベル回数を設定します。	9-8ページ
	ベル回数(ファクス/電話切替)	ファクスと電話を切り替えるまでのベル回数を設定します。	9-8ページ
5.出力	排紙先	ファクスを受信したときの印刷用紙の排紙先を設定します。	9-6ページ
	縮小受信	受信サイズが用紙サイズよりも大きい場合、縮小して印刷します。	9-7ページ
6 リダイヤル	リダイヤル回数	リダイヤルする回数を設定します。	9-7ページ
7 Fネット	Fネット無鳴動受信	ファクス通信網(Fネット)を使用する場合、呼び出し音を鳴らさずにファクスを受信します。	9-8ページ

参考
各設定はシステムメニューで変更することができます。

9-2ページの**ファクス初期設定**を参照してください。

ファクスのセットアップの手順

1 画面を表示する

2 選択する

3 設定する

ウィザードを開始します。画面の指示に従って設定します。

終了	ウィザードを終了します。
<<前の項目	前の項目に戻ります。
スキップ>>	現在の項目を設定せずに次の項目に進みます。
次へ>	次の画面に進みます。
<戻る	前の画面に戻ります。

4 完了する

セットアップを完了するときは、[完了]を押します。

日付と時刻の設定

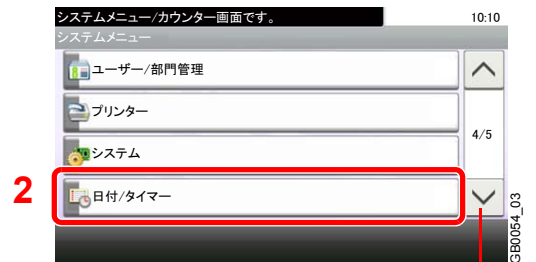
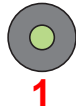
日付と時刻を設定します。ご使用の地域の日付と時刻を入力してください。
本機でファクスを送ると、本機に設定されている日付と時刻がファクスのヘッダに記録されます。ご使用の地域での日付、時刻、GMT（世界標準時）からの時差を設定してください。

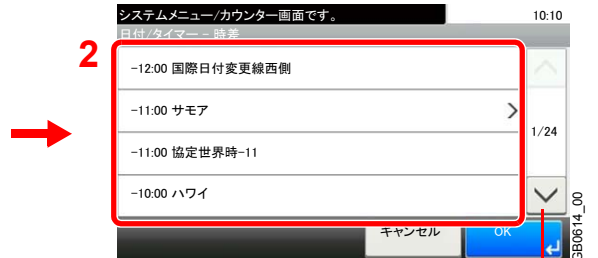
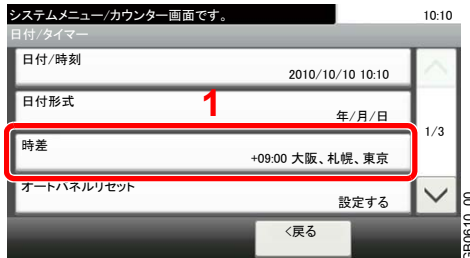
参考

ユーザー認証画面が表示されます。ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、[ログイン] を押してください。ログインユーザー名とログインパスワードの工場出荷時の値については、**本体使用説明書のユーザーの新規登録**を参照してください。

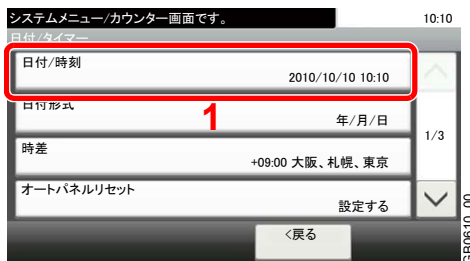
日付と時刻を設定する前に、必ず時差を設定してください。

日付と時刻の設定は、本機を設置して最初に電源を入れたときに、簡単セットアップウィザードで設定します。

1 画面を表示する

[∨]または[∧]を押すと、上下にスクロールします。

2 時差を設定する

[∨]または[∧]を押すと、上下にスクロールします。

地域を選択します。

3 日付を設定する

「年」、「月」、「日」を入力します。

4 時間を設定する

「**時**」、「**分**」、「**秒**」を入力します。

2　宛先を登録する

この章では、次の項目について説明します。

アドレス帳の登録

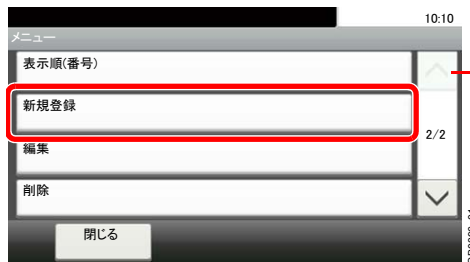
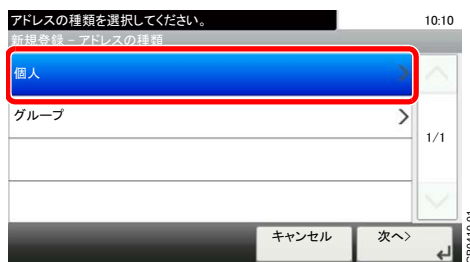
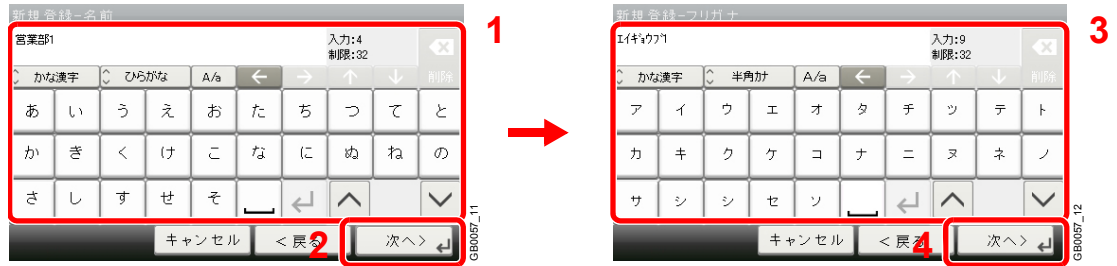
アドレス帳に宛先を登録します。アドレス帳の登録方法には、個人登録および複数の個人登録をまとめて登録するグループ登録の2種類があります。

宛先（個人）の登録

アドレス帳に新しい宛先を登録します。最大200件の宛先が登録できます。各宛先には、宛先名、ファクス番号、Fコード通信、暗号通信、送信開始速度、ECM通信が登録できます。

> **参考**
> ユーザー管理が有効の場合は、管理者の権限でログインしてください。
>
> システムメニューでも、アドレス帳に宛先を登録することができます。

1 画面を表示する

2 宛先を追加する

3 登録方法を選択する

4 名前とフリガナを入力する

32文字まで入力できます。

文字の入力方法は、11-3ページの**文字の入力方法**を参照してください。

5 アドレス番号を入力する

[－]、[＋]キーまたはテンキーを押して、アドレス番号を設定します。

アドレス番号は、宛先1件ごとの識別番号です。個人登録200件、グループ登録50件の合計250件の中から、空いている番号を選択できます。

「000」が表示されている場合は、自動的に空いている番号を割り当てます。

6 ファクス番号を入力する

ボタン	説明
ポーズ	[ポーズ]を押すとダイヤル時に約3 秒の待ち時間が挿入されます。たとえば、0発信（構内交換機を使用して内線から外線への発信）するときや、情報サービスを受けるときなどのダイヤル待ち時間の挿入に使用します。
スペース	半角スペースが入力されます。
＜　＞	カーソルが移動します。
バックスペース	文字を1文字ずつ削除します。すべて削除するときは、操作パネルのクリアキーを押してください。

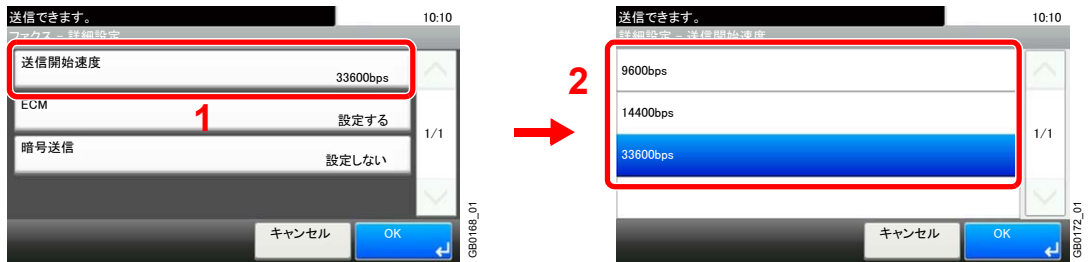
テンキーで相手先のファクス番号を入力します。

ファクス番号は32桁まで入力できます。

7 送信設定する

送信開始速度、ECM通信と暗号送信を設定します。

1 ［**詳細設定**］を押します。

2 送信開始速度を設定します。

参考
通常は初期値のままで使用してください。

3 ECM通信を設定します。

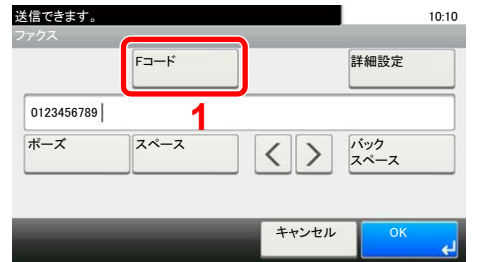
ECM通信は、送信時に電話回線上のノイズなどの影響を受けて、正しく送/受信できなかった画像を自動的に再送する機能です。

4 暗号送信を設定します。

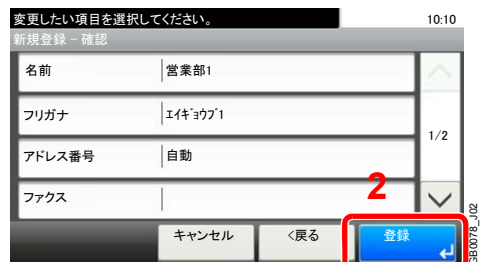
暗号通信を使って通信する場合は、暗号送信を設定します。

暗号送信の設定方法は、6-35ページの**暗号通信**を参照してください。

5 [OK]を押します。

8 Fコードを設定する

Fコード通信を使用するときは、サブアドレスとパスワードを登録します。

Fコード通信の設定方法は、6-23ページの**Fコード送信のしかた**を参照してください。

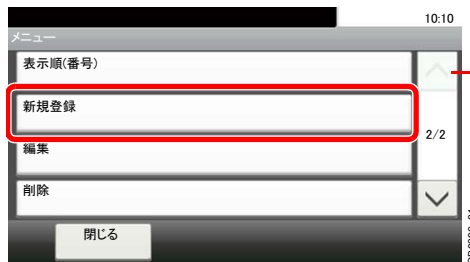
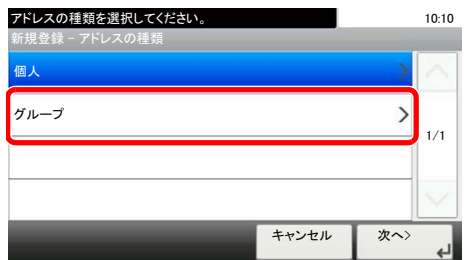
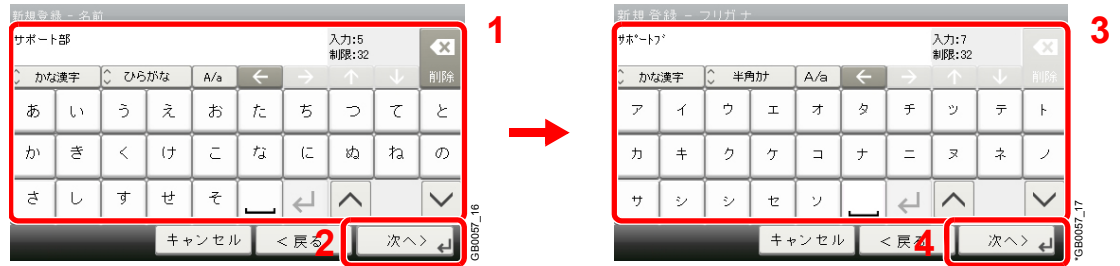
9 登録する

グループの登録

個人登録された複数の宛先をまとめて、グループとして登録します。宛先を一度に指定できるので便利です。50 件までのグループが登録できます。
グループ登録には、個人登録された宛先が必要です。あらかじめ必要な個人登録を行ってください。

参考
ユーザー管理が有効の場合は、管理者の権限でログインしてください。

システムメニューでも、グループを登録することができます。

1 画面を表示する

2 宛先を追加する

3 登録方法を選択する

4 名前とフリガナを入力する

32文字まで入力できます。

11-3ページの文字の入力方法を参照してください。

5 アドレス番号を入力する

[－]、[＋]キーを押して、アドレス番号を設定します。

アドレス番号は、グループ1件ごとの識別番号です。個人登録200件、グループ登録50件の合計250件の中から、空いている番号を選択できます。

「000」が表示されている場合は、自動的に空いている番号を割り当てます。

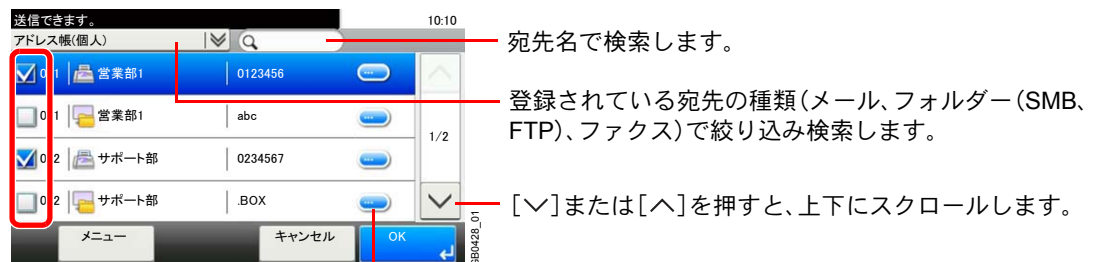
6 メンバー(宛先)を選択する

1 画面を表示します。

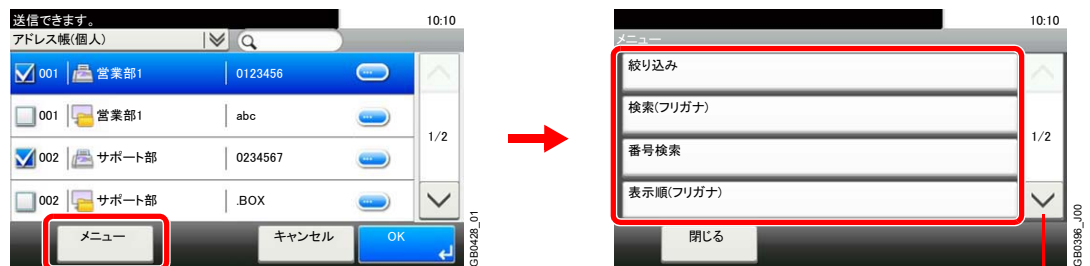
2 チェックボックスを押して宛先を選択します。選択された宛先はチェックマークがつきます。

宛先名で検索します。

登録されている宛先の種類(メール、フォルダー(SMB、FTP)、ファクス)で絞り込み検索します。

[∨]または[∧]を押すと、上下にスクロールします。

それぞれの宛先の詳細を参照します。

短縮キーを押すと、アドレス番号で宛先が指定できます。

[メニュー]を押すと、より詳しい検索ができます。

[∨]または[∧]を押すと、上下にスクロールします。

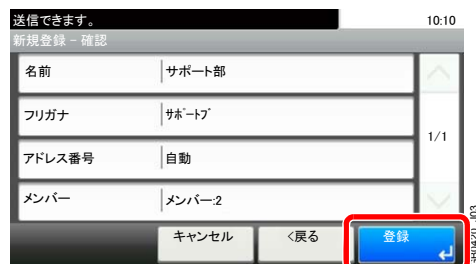
絞り込み：登録されている宛先の種類（メール、フォルダー（SMB、FTP）、ファクス）で絞り込み検索します。

検索（ふりがな）、番号検索：宛先名のフリガナ、またはアドレス番号で検索します。

表示順（フリガナ）、表示順（番号）：宛先名のフリガナ、またはアドレス番号で並べ替えます。

参考
選択を解除するときは、チェックボックスを押してチェックマークを消します。

7 メンバーを決定する

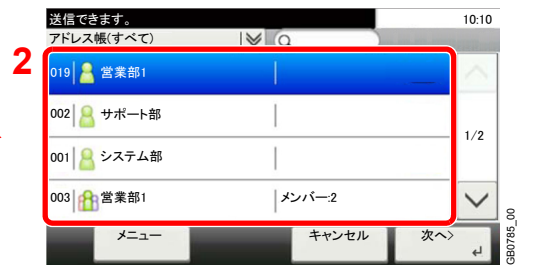
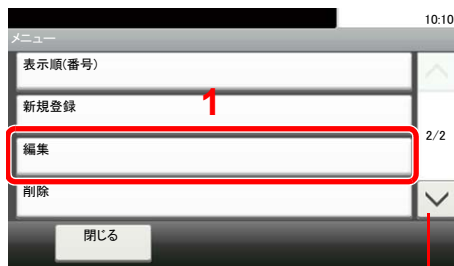
8 登録する

アドレス帳の変更/削除

登録した宛先（個人）やグループを変更/削除します。

1 画面を表示する

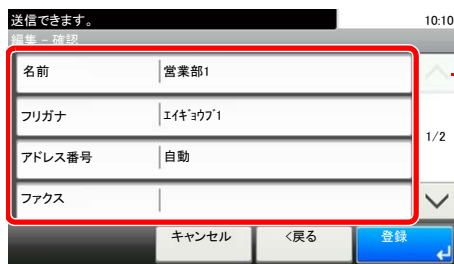
2 変更/削除する

変更する

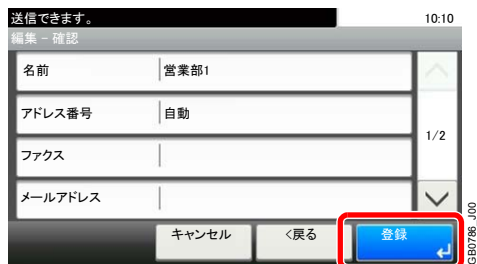
1

［∨］または［∧］を押すと、上下にスクロールします。

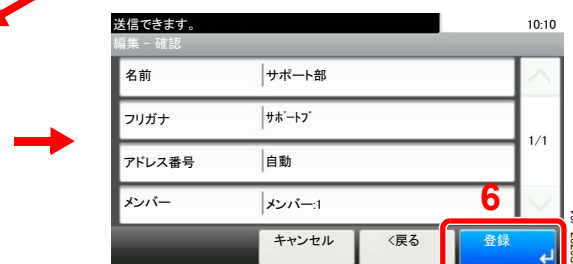
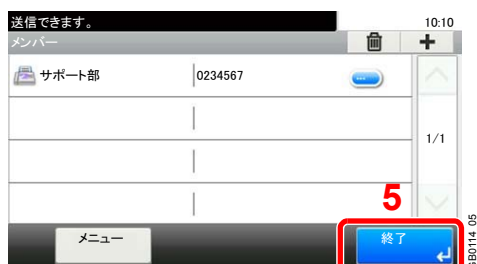
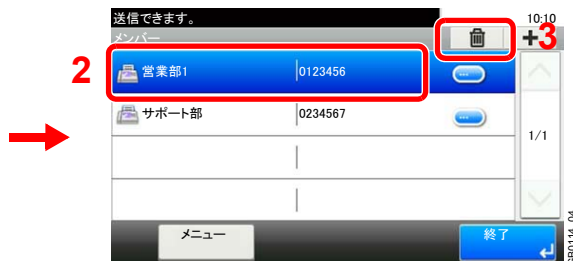
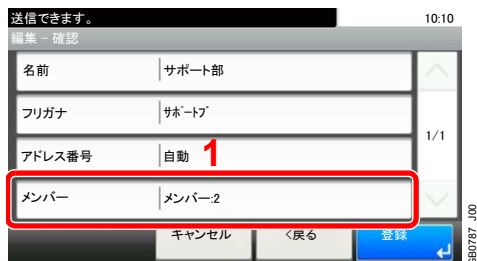
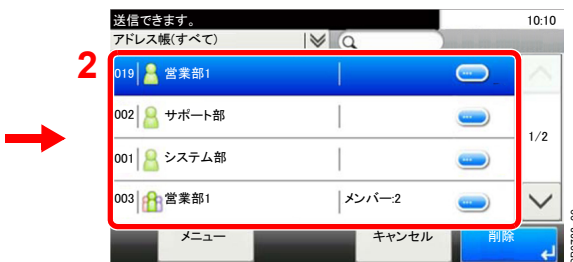
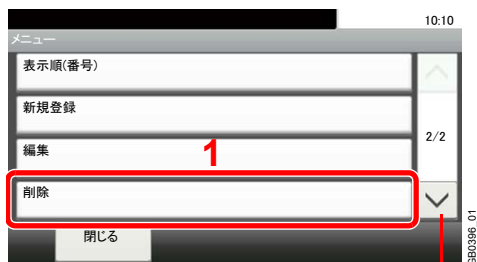
変更する宛先（個人）またはグループを選択します。

短縮キーを押すと、アドレス番号で宛先を指定できます。

2

［∨］または［∧］を押すと、上下にスクロールします。

変更する項目を選択して、変更します。

3

メンバーの削除（グループ）

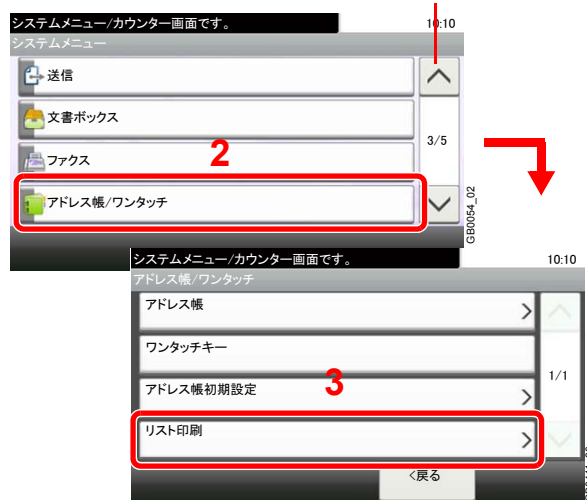
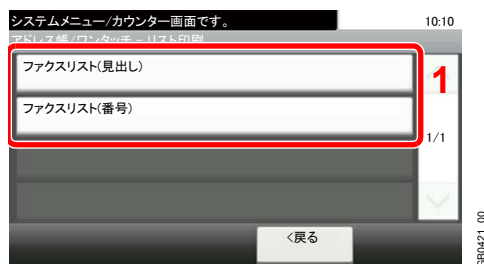
グループからメンバーを削除する場合は、削除する宛先を選択して[**(削除)**]（ゴミ箱のアイコン）を押します。

削除する

[∨]または[∧]を押すと、上下にスクロールします。

削除する宛先（個人）またはグループを選択します。

アドレス帳リストの出力

アドレス帳を登録している宛先のリストを出力できます。

リストは、宛先の見出し順とアドレス番号順から選択できます。

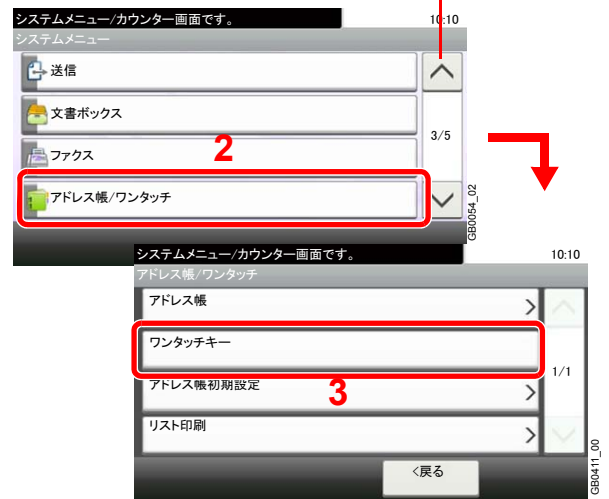
1 画面を表示する

2 印刷する

[ファクスリスト(見出し)]または[ファクスリスト(番号)]を選択します。

ワンタッチキーの登録

ワンタッチキーに宛先を登録します。

宛先の登録

ワンタッチキーに新しい宛先を登録します。100件までのワンタッチキーが登録できます。
ワンタッチキーには、アドレス帳に登録された宛先が必要です。あらかじめ必要な登録を行ってください。

1 画面を表示する

2 ワンタッチキーを追加する

登録するワンタッチキーを選択して、[+]を押します。

3 宛先を選択する

アドレス帳から、宛先（個人またはグループ）を1件選択します。

短縮キーを押すと、アドレス番号で宛先が指定できます。

[メニュー]を押すと、宛先の検索ができます。

[∨]または[∧]を押すと、上下にスクロールします。

絞り込み：登録されている宛先の種類（メール、フォルダー（SMB、FTP）、ファクス、グループ）で絞り込み検索します。

検索（ふりがな）、**番号検索**：宛先名のフリガナ、またはアドレス番号で検索します。

表示順（フリガナ）、**表示順（番号）**：宛先名のフリガナ、またはアドレス番号で並べ替えます。

4 名前を入力する

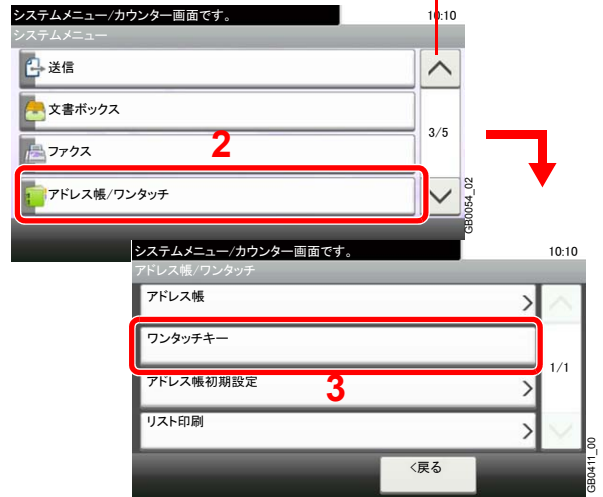
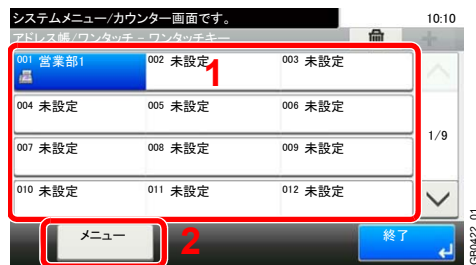
24文字まで入力できます。

11-3ページの**文字の入力方法**を参照してください。

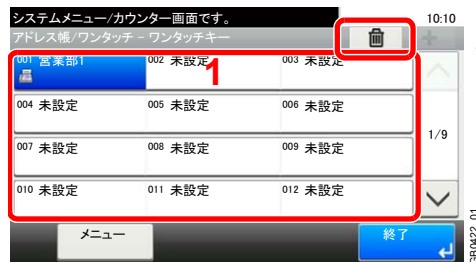
5 登録する

ワンタッチキーの変更/削除

ワンタッチキーを変更/削除します。

1 画面を表示する

2 変更/削除する

変更する

変更するワンタッチキーを選択し、[メニュー]→[編集]を押して変更します。

削除する

削除するワンタッチキーを選択して、[(削除)](ゴミ箱のアイコン)を押します。

3　相手先の入力方法

この章では、次の項目について説明します。

テンキーで相手先番号を入力する

テンキーで相手先のファクス番号を入力する方法を説明します。

1 ファクス番号の入力画面を表示する

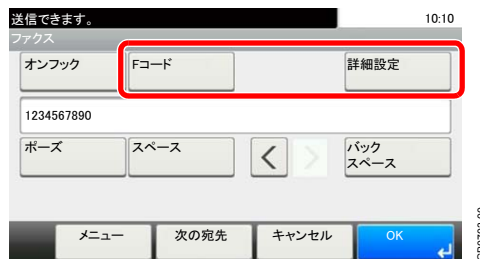
テンキーで番号を押すとファクス番号の入力画面に替わります。

2 相手先番号を入力する

ボタン	説明
ポーズ	[ポーズ]を押すとダイヤル時に約3 秒の待ち時間が挿入されます。たとえば、0発信（構内交換機を使用して内線から外線への発信）するときや、情報サービスを受けるときなどのダイヤル待ち時間の挿入に使用します。
スペース	半角スペースが入力されます。
＜　＞	カーソルが移動します。
バックスペース	文字を1文字ずつ削除します。すべて削除するときは、操作パネルのクリアキーを押してください。

テンキーで相手先のファクス番号を入力します。

ファクス番号は64桁まで入力できます。

3 送信設定する

ボタン		説明
Fコード		Fコード通信を使用するときは、サブアドレスとパスワードを入力します。設定方法は、6-23ページの**Fコード送信のしかた**を参照してください。
詳細設定	送信開始速度	送信開始速度を、9600bps、14400bps、33600bpsから選択します。
	ECM	ECM通信は、送信時に電話回線上のノイズなどの影響を受けて、正しく送/受信できなかった画像を自動的に再送する機能です。ECM通信の設定を変更することができます。
	暗号送信	暗号通信を使って通信する場合は、暗号送信を設定します。暗号通信の設定方法は、6-35ページの**暗号通信**を参照してください。

参考

[オンフック]を押すと電話回線に接続します。

ファクス番号が入力されている場合は、相手先にダイヤルを開始します。

このキーを押してから、テンキーを使って相手先にダイヤルすることもできます。詳細は、4-16ページの**手動送信**を参照してください。

4 [OK]を押す

相手先の入力が完了します。

参考

「新規宛先の入力確認画面の設定」を「設定する」に設定している場合は、入力したファクス番号を確認するための画面が表示されます。もう一度同じファクス番号を入力して[OK]を押してください。詳しくは、本体の**使用説明書**の新規宛先の入力確認画面の設定を参照してください。

[次の宛先]を押すと続けて別の宛先を入力することができます。

詳細は、3-8ページの**同報送信**を参照してください。

ファクス以外にも、メール送信、フォルダー(SMB/FTP)送信を組み合わせて一度に送信することができます。詳細は本体の**使用説明書**を参照してください。

アドレス帳から宛先を選ぶ

アドレス帳に登録されている宛先を選択します。

参考
アドレス帳に宛先を登録する方法は、2-2ページの**アドレス帳の登録**を参照してください。

拡張アドレス帳については、**京セラCOMMAND CENTER操作説明書**を参照してください。

1 画面を表示する

2 宛先を選択する

チェックボックスを押して宛先を選択します。選択された宛先はチェックマークがつきます。

宛先の検索

短縮キーを押すと、アドレス番号で宛先を指定できます。

[メニュー]を押すと、より詳しい検索ができます。

絞り込み:登録されている宛先の種類(すべて、ファクス、グループ)で絞り込み検索します。

検索(フリガナ)、**番号検索**:フリガナまたはアドレス番号で検索します。

表示順(フリガナ)、**表示順(番号)**:フリガナまたはアドレス番号で並べ替えます。

参考
宛先は複数選択できます。

選択を解除するときは、チェックボックスを押してチェックマークを消します。

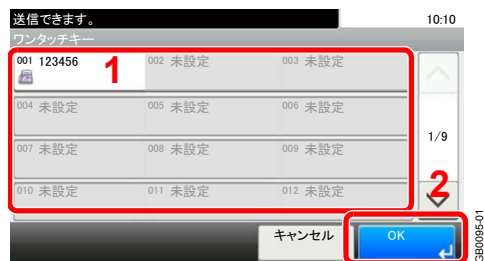
3 宛先を決定する

ワンタッチキーで選ぶ

ワンタッチキーで宛先を選択します。

参考
ワンタッチキーに宛先を登録する方法は、2-12ページの**ワンタッチキーの登録**を参照してください。

1 画面を表示する

2 宛先を選択する

宛先が登録されているワンタッチキーを押します。

短縮**キー**を押すと、ワンタッチ番号でワンタッチキーが指定できます。

短縮キーで選ぶ

3桁（001～100）のワンタッチキー番号（短縮番号）を指定して、宛先を選択できます。

参考
ワンタッチキーに宛先を登録する方法は、2-2ページの**アドレス帳の登録**を参照してください。

1 画面を表示する

2 短縮番号を入力する

テンキーでワンタッチキー番号（短縮番号）を入力してください。入力した宛先が選択されます。

3 宛先を決定する

同報送信

1回の操作で同じ原稿を複数の宛先に送ることができる機能です。本機は送信する原稿をいったんメモリーに蓄積（記憶）し、その後で指定された宛先に自動的にダイヤルと送信を繰り返します。

参考

宛先にグループを使用すれば、1回の操作で最大100ケ所の相手先に送信することができます。

Fコード通信やタイマー送信と合わせて使用できます。

ダイレクト送信が選択されている場合は、送信時にメモリー送信に切り替わります。

ファクス番号を入力する

1 宛先を追加する

[**新規宛先**]を押し、テンキーでファクス番号を入力してください。[**次の宛先**]を押すと、次のファクス番号が入力できます。

2 [OK]を押す

すべての宛先が入力できたら、[OK]を押します。

参考

「新規宛先の入力確認画面の設定」を「設定する」に設定している場合は、入力したファクス番号を確認するための画面が表示されます。もう一度同じファクス番号を入力して[OK]を押してください。詳しくは、本体の**使用説明書**の新規宛先の入力確認画面の設定を参照してください。

宛先をアドレス帳から選択する

1 宛先を選択する

すべての宛先にチェックマークをつけて、[OK]を押します。

宛先をワンタッチキーから選択する

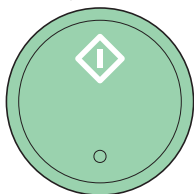
1 宛先を選択する

すべての宛先を選択して、[OK]を押します。

リダイヤルを使う

リダイヤルは、直前に入力された番号にもう一度ダイヤルする機能です。
送信しようとしても、相手先が応答しない。もう一度同じ相手先にファクスしたい。そんなときに[**再宛先**]を押すと、直前にダイヤルした相手先を宛先リストに呼び出すことができます。

1 [再宛先]を押す

2 スタートキーを押す

送信を開始します。

参考
次の条件で再宛先情報は破棄されます。

- 電源を切ったとき
- 次の送信操作を行ったとき（新しい再宛先情報が登録されます。）
- ログアウトしたとき

チェーンダイヤルを使う

チェーンダイヤルは、複数の宛先に共通する番号でチェーン番号を作成し、相手先のファクス番号をつなげてダイヤルする機能です。
国際電話や遠方の送信相手にFaxを送信する場合に、電話会社をチェーン番号として複数登録しておき、料金の安い電話会社を選択して送信することもできます。

参考
チェーン番号は、相手先のファクス番号の先頭に使用できます。

よく使用するチェーン番号は、アドレス帳またはワンタッチキーに登録しておくと便利です。

アドレス帳への登録は、2-2ページの**アドレス帳の登録**、ワンタッチキーへの登録は、2-12ページの**ワンタッチキーの登録**を参照してください。

例として、「0120」をチェーン番号に使用します。

1 チェーン番号を選択する

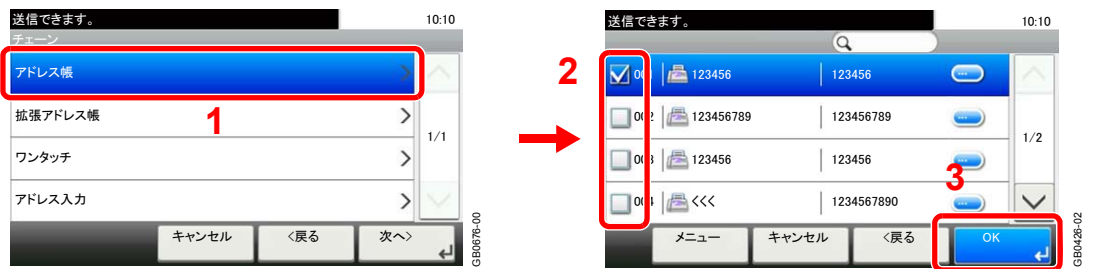
ワンタッチキーを使用する場合は、「0120」が登録された宛先を選択します。

参考
アドレス帳を使用する場合は、3-4ページの**アドレス帳から宛先を選ぶ**を参照して「0120」が登録されている宛先を選択してください。

テンキーで入力する場合は、**[新規宛先]**を押し、「0120」を入力して[OK]を押してください。

2 [チェーン]を押す

3 チェーン番号につなげるファクス番号を入力します

ファクス番号をアドレス帳から選択する

複数の宛先を選択できます。[OK]を押すと宛先にはすべて「0120」が自動的に付加されます。

アドレス帳で宛先を選択する手順については、3-4ページの**アドレス帳から宛先を選ぶ**を参照してください。

ファクス番号をワンタッチキーから選択する

複数の宛先を選択できます。[OK]を押すと宛先にはすべて「0120」が自動的に付加されます。

ファクス番号をテンキーで入力する

「0120」がすでに入力されていますので、続けてファクス番号を入力してください。[**メニュー**]→[**次の宛先**]を押すと、次のファクス番号が入力できます。すべての宛先が入力できたら、[OK]を押してください。

参考

「新規宛先の入力確認画面の設定」を「設定する」に設定している場合は、入力したファクス番号を確認するための画面が表示されます。もう一度同じファクス番号を入力して[OK]を押してください。詳しくは、本体の**使用説明書**の新規宛先の入力確認画面の設定を参照してください。

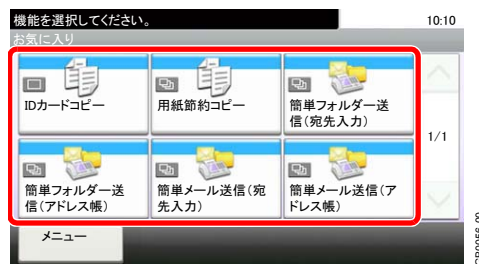
お気に入りを使う

送信する相手先や送信時刻など送信条件をお気に入りとして登録できます。登録後は、お気に入り画面から選択するだけで呼び出すことができます。また、ウィザード形式で登録しておくと各設定を確認しながら送信することができます。

お気に入りの登録のしかたは、本体の**使用説明書**を参照してください。

1 画面を表示する

お気に入り

2 お気に入りを選択する

ウィザードモードの場合

1 画面が順番に表示されますので、各設定を行います。

2 設定内容を確認して、実行します。

［∨］または［∧］を押すと、上下にスクロールします。

参考

設定を変更するときは、[<戻る]を押して、設定しなおしてください。

プログラムモードの場合

お気に入りを選択すると、登録している設定を呼び出します。

4　ファクスを送信する

この章では、次の項目について説明します。

基本的な送信のしかた

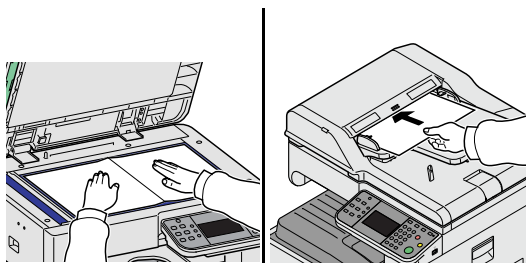
基本的なファクスの使いかたを説明します。

1 ファクスキーを押す

ファクス

ファクスの基本画面が表示されます。

参考
タッチパネルが消えているときは、**節電**キーまたは**電源**キーを押してウォームアップさせてください。

2 原稿をセットする

原稿のセットのしかたは、本体の**使用説明書**を参照してください。

3 宛先の選択

送信する宛先を指定します。

3-1ページの**相手先の入力方法**を参照してください。

4 送信方法を選択

送信方法には、メモリー送信とダイレクト送信の2つがあります。

メモリー送信:原稿をメモリーに読み込んでから通信を開始します。初期状態ではメモリー送信です。

ダイレクト送信:相手先にダイヤルし、通信を開始してから原稿を読み込みます。

[**ダイレクト**]を押すと、送信方法がダイレクト送信になり、タッチパネル上のキー表示が反転されます。キー表示が反転した[**ダイレクト**]を押すと、送信方法がメモリー送信になります。

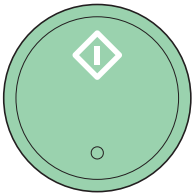
ダイレクト送信については、4-15ページの**ダイレクト送信**を参照してください。

5 機能の設定

読み込み濃度やファクス解像度などを設定します。

[機能一覧]を押すとすべての機能が表示されます。

4-7ページの**送信で設定できる機能**を参照してください。

6 ファクス送信の開始

原稿の読み込みが完了すると、送信を開始します。

原稿を原稿送り装置にセットしている場合

原稿送り装置にセットした原稿を読み込み、メモリーに記憶した後に相手先にダイヤルします。

原稿を原稿ガラスにセットしている場合

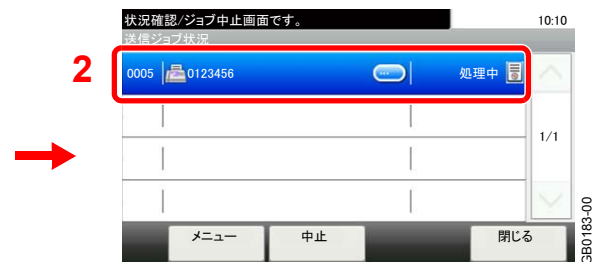
原稿ガラスにセットした原稿をメモリーに記憶した後に相手先にダイヤルします。

参考
連続読み込みが設定されている場合は、原稿ガラスの原稿をメモリーに記憶した後、続けて次の原稿を読み込むことができます。1ページ読み込むごとに、読み込み継続の操作を行い、すべての原稿をメモリーに記憶した後に相手先にダイヤルします。

4-14ページの**連続読み込み**を参照してください。

送信状況の確認する

1 状況確認/ジョブ中止キーを押す。

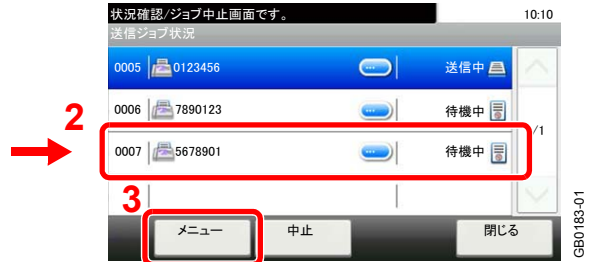
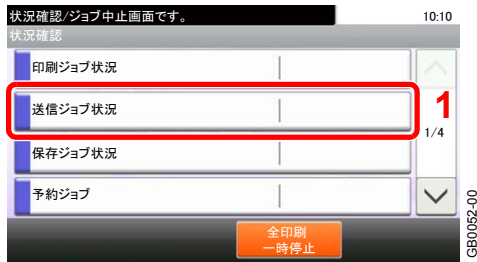
2 送信ジョブ状況確認画面を表示する

受付時刻や宛先、状況がジョブごとに一覧表示されます。

優先送信する

送信待ちのファクス送信ジョブを優先して送信できます。

1 状況確認/ジョブ中止キーを押す。

状況確認/
ジョブ中止

2 優先送信するジョブを選択する

優先して送信したいファクス送信ジョブを選択して、[メニュー]→[優先送信]を押します。

[はい]を押すと、選択したファクス送信ジョブを優先して送信し、その他のファクス送信ジョブの送信優先順位を下げます。

> **参考**
> 送信中のファクス送信ジョブがある場合は、送信中のジョブが終了してから優先送信を設定したファクス送信ジョブを送信します。

送信中のファクス送信ジョブが同報送信のときは･･･

送信中のファクス送信ジョブが複数の宛先への送信(同報送信)の場合、通信中の宛先への送信が終わった後に優先送信を設定したファクス送信ジョブを送信します。優先送信が終われば残りの宛先への送信を再開します。

ただし、優先送信するファクス送信ジョブが同報送信の場合は、送信中の同報送信が終わってから送信します。

送信を中止する

本機で通信を中止する方法は、送信方法（メモリー送信またはダイレクト送信）や通信形態によって異なります。ここでは、さまざまなケースでの中止方法を説明します。

メモリー送信（原稿読み込み中）の中止

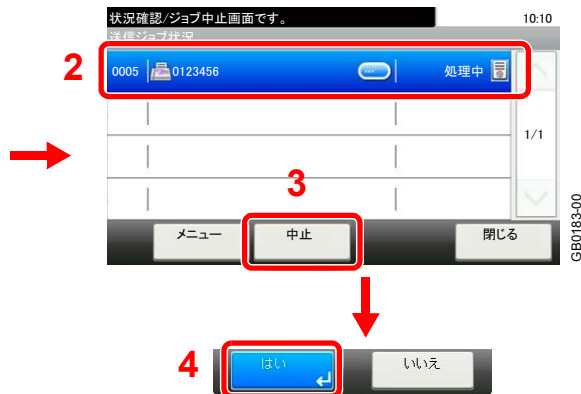
1 ストップキーを押す

メモリー送信で、原稿の読み込みを中止するには、操作パネルの**ストップキー**または、タッチパネルの[**キャンセル**]を押してください。原稿の読み込みを中止し、原稿を排出します。原稿送り装置に原稿が残っているときは、原稿排紙テーブルから取り出してください。

メモリー送信（通信中）の中止

1 状況確認/ジョブ中止キーを押す。

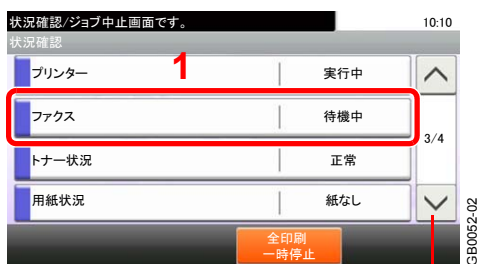
状況確認/
ジョブ中止

2 送信を中止する

送信を中止するジョブを選択して、[中止]を押します。[はい]を選択すると送信を中止します。

送/ 受信の中止（通信の切断）

現在通信している回線を切り、送/受信を中止します。

1 状況確認/ジョブ中止キーを押す。

2 通信を切断する

［∨］または［∧］を押すと、上下にスクロールします。

通信を切断した時点で送信を中止します。

参考
ダイレクト送信、タイマー送信、ポーリング送信の中止方法はそれぞれの項目を参照してください。

ダイレクト送信の中止方法は、4-15ページの**ダイレクト送信の中止**を参照してください。
タイマー送信の中止または即時送信方法は、4-18ページの**タイマー送信（待機中）の中止と即時送信**を参照してください。
ポーリング送信の中止方法は、6-26ページの**ポーリング通信**を参照してください。

送信で設定できる機能

送信でよく使用する機能は、送信画面の下側に表示されています。
また[**機能一覧**]を押すと、その他の機能が表示されます。[▲][▼]を押して画面を切り替えます。

やりたいこと	参照ページ
原稿のサイズを指定したい。	原稿サイズ選択 ▶ 4-8ページ
原稿の向きを正しく指定したい。	原稿セット向き ▶ 4-9ページ
サイズの異なる原稿を一度に送信したい。	原稿サイズ混載 ▶ 4-10ページ
両面の原稿を自動的に読み込みたい。	両面/見開き原稿 ▶ 4-10ページ
送信する画像のサイズを選びたい。	送信サイズ選択 ▶ 4-11ページ
原稿をどのくらい細かく読み込むか設定したい。	ファクス解像度の選択 ▶ 4-12ページ
読み込む濃度を調整したい。	読み込み濃度 ▶ 4-13ページ
原稿に合わせて送信する画像の画質を選びたい。	画質の選択 ▶ 4-13ページ
送信サイズに合わせて、原稿を自動的に縮小/ 拡大したい。	縮小/拡大 ▶ 4-14ページ
大量の原稿を一度にまとめて読み込みたい。	連続読み込み ▶ 4-14ページ
送信する原稿にファイル名を付けたい。	文書名/ファイル名の入力 ▶ 4-23ページ
送信が終わったらメールで知らせてほしい。	ジョブ終了通知 ▶ 4-22ページ
時刻を指定して送信したい。	タイマー送信 ▶ 4-17ページ
相手先と接続してから原稿の読み込みをしたい。	ダイレクト送信 ▶ 4-15ページ
通信中に別の原稿の送信予約をしたい。	送信予約 ▶ 4-20ページ
別の原稿を優先して送信したい。	割り込み送信 ▶ 4-21ページ
Fコードを使った通信がしたい。	Fコード送信のしかた ▶ 6-23ページ
受信側の操作でファックスを受信したい。	ポーリング通信 ▶ 6-26ページ
原稿を暗号化して、安全に通信したい。	暗号通信 ▶ 6-35ページ

原稿の読み取り設定

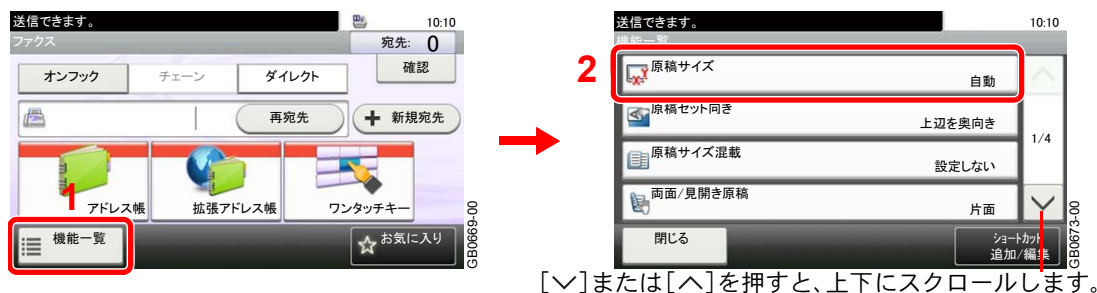
原稿サイズ選択

原稿の読み込みサイズを選択します。

自動	原稿を自動で検知します。
A系/B系	A3、A4、A4-R、A5、A5-R、A6、B4、B5、B5-R、B6、B6-R、Folio、216×340 mmから選択します。
インチ系	Ledger、Letter、Letter-R、Legal、Statement、Statement-R、11×15"、Oficio IIから選択します。
その他	8K、16K、16K-R、はがき、往復はがき、カスタム*から選択します。
サイズ入力	サイズを入力します。 センチ—よこ:50～432 mm（1 mm単位）、たて:50～297 mm（1 mm単位） インチ—よこ:2～17"（0.01"単位）、たて:2～11.69"（0.01"単位）

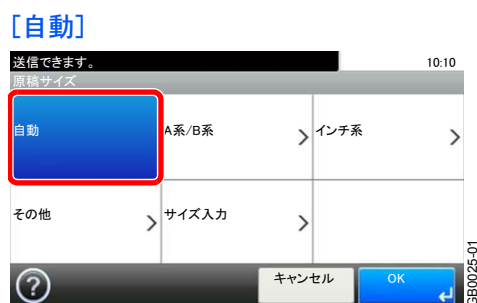
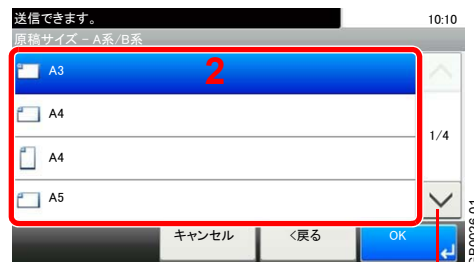
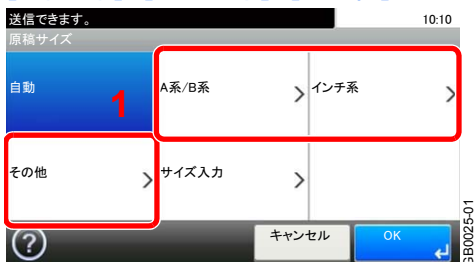
* ［**カスタム原稿サイズ登録**］を設定してください。本体の**使用説明書**を参照してください。［**カスタム原稿サイズ登録**］が［**設定しない**］である場合は表示されません。

参考
不定形サイズの原稿を使用する場合は、必ず原稿サイズを設定してください。

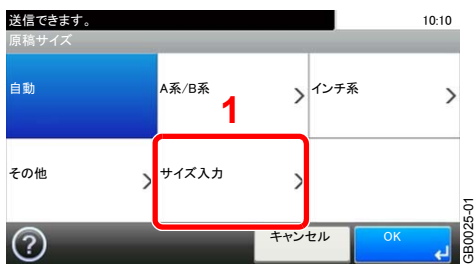
1 画面を表示する

［∨］または［∧］を押すと、上下にスクロールします。

［機能一覧］→［原稿サイズ］を押します。

2 原稿サイズを選択する

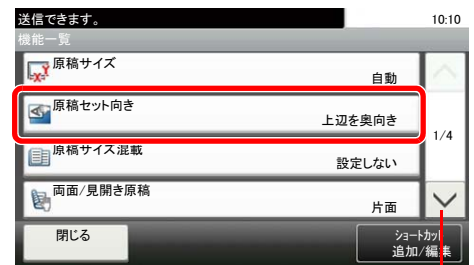
［自動］

[A系/B系]、[インチ系]、[その他]

[∨]または[∧]を押すと、上下にスクロールします。

使用するサイズを選択します。

[サイズ入力]

テキストボックスを押し、[－][＋]またはテンキーで数値を入力します。

原稿セット向き

文書を正しい向きで読み込むため、原稿の上部の向きを指示します。両面/見開き原稿を設定する場合は、セットした原稿の向きを設定する必要があります。

1 画面を表示する

[∨]または[∧]を押すと、上下にスクロールします。

詳しい内容は、本体の**使用説明書**を参照してください。

原稿サイズ混載

原稿送り装置を使用し、サイズの違う原稿を一度に読み込み、送信します。原稿サイズ混載で原稿送り装置にセットできる枚数は最大30 枚です。

1 画面を表示する

[∨]または[∧]を押すと、上下にスクロールします。

詳しい内容は、本体の**使用説明書**を参照してください。

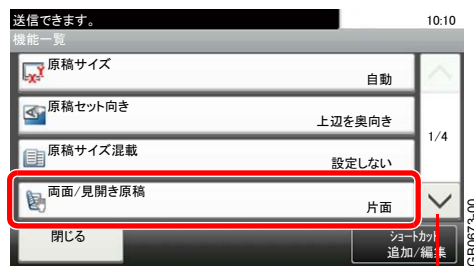
両面/見開き原稿

原稿に合わせて、原稿の種類ととじ方向を選択します。

片面			片面のシート原稿のときに設定します。
両面*			左または右でとじる両面のシート原稿のときに設定します。
見開き			左でとじられた雑誌や本などの見開きの原稿のときに設定します。
その他	両面/見開き原稿	片面	片面のシート原稿のときに設定します。
		両面（とじ方向左/右とじ）*	左または右でとじる両面のシート原稿のときに設定します。
		両面（とじ方向上とじ）*	上でとじる両面のシート原稿のときに設定します。
		見開き（とじ方向左とじ）	左でとじられた雑誌や本などの見開きの原稿のときに設定します。
		見開き（とじ方向右とじ）	右でとじられた雑誌や本などの見開きの原稿のときに設定します。
	原稿セット向き**		文書を正しい向きで読み込むため、原稿の上部の向きを指示します。

*　原稿送り装置が必要です。
**　[片面]を選択した場合は表示されません。

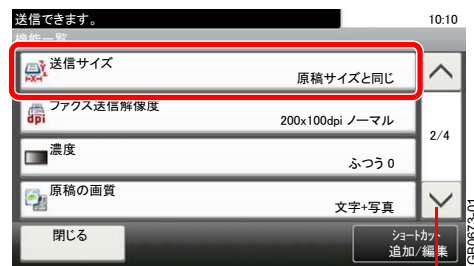
参考
ダイレクト送信時は、**[両面原稿]**と**[見開き原稿]**を使用できません。

1 画面を表示する

[∨]または[∧]を押すと、上下にスクロールします。

詳しい内容は、本体の**使用説明書**を参照してください。

送信サイズ選択

送信する画像のサイズを選択します。

1 画面を表示する

[∨]または[∧]を押すと、上下にスクロールします。

詳しい内容は、本体の**使用説明書**を参照してください。

ファクス解像度の選択

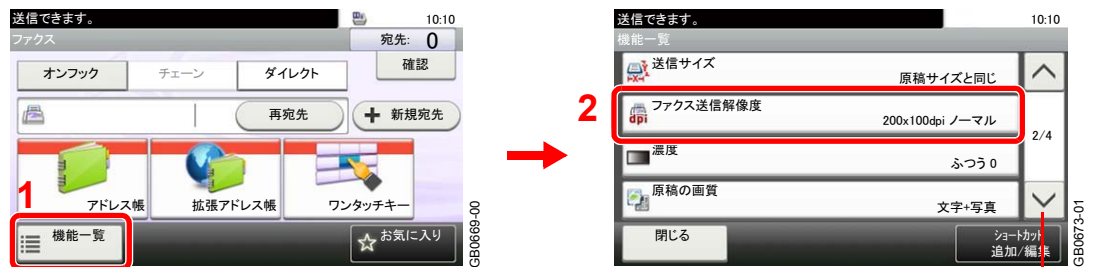
ファクスで送信する際の画像の細かさを設定します。数値が大きいほど、きめが細かくなりますが、ファイルサイズが大きくなり、送信時間が長くなります。

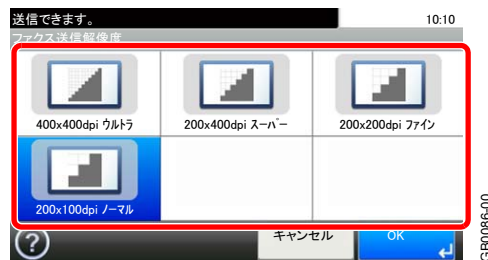
項目	詳細	
200 × 100 dpiノーマル	普通の大きさの文字の原稿を送るとき	文字の大きさの目安：10.5 ポイント （サンプル：解像度　解像度）
200 × 200 dpiファイン	比較的小さい文字や細い線のある原稿を送るとき	文字の大きさの目安：8 ポイント （サンプル：解像度　解像度）
200 × 400 dpiスーパー（スーパーファイン）	微細な文字や線のある原稿を送るとき	文字の大きさの目安：6 ポイント （サンプル：解像度　解像度）
400 × 400 dpiウルトラ（ウルトラファイン）	微細な文字や線のある原稿をさらにきれいに送るとき	文字の大きさの目安：6 ポイント （サンプル：解像度　解像度）

参考

工場出荷時は200 × 100 dpi（ノーマル）に設定されています。解像度を高くすると画像は鮮明になりますが、ファクスの送信時間は長くなります。

読み込み解像度はファクス送信解像度と等しいか、ファクス解像度より高く設定する必要があります。ファクス送信解像度を読み込み解像度より高く設定した場合、読み込み解像度が自動的に、ファクス送信解像度と同じ設定に変更されます。

1 画面を表示する

［∨］または［∧］を押すと、上下にスクロールします。

2 解像度を選択する

読み込み濃度

濃度を自動または手動で調整します。

1 画面を表示する

[∨]または[∧]を押すと、上下にスクロールします。

詳しい内容は、本体の**使用説明書**を参照してください。

画質の選択

原稿の画質に合わせて、画像を処理します。

項目	詳細
文字＋写真	文字と写真が混在している原稿に適しています。
文字	えんぴつや細線をくっきり再現します。
写真	写真原稿に適しています。
文字（OCR用）	OCR処理に適した画像で読み込みます。

1 画面を表示する

[∨]または[∧]を押すと、上下にスクロールします。

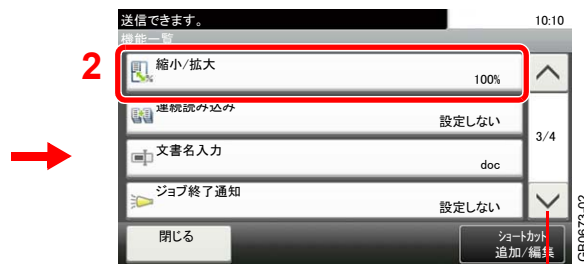
詳しい内容は、本体の**使用説明書**を参照してください。

縮小/拡大

原稿を送信サイズに合わせて縮小/拡大します。

100％	原稿と同じサイズで処理します。
自動	送信サイズに合わせて縮小または拡大します。

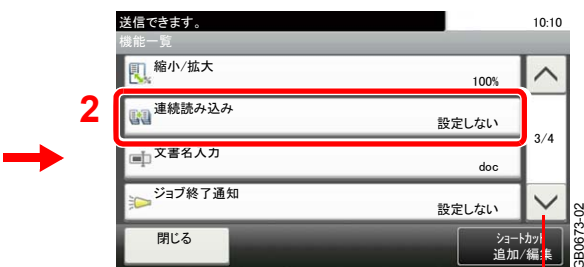
参考
縮小／拡大する場合は、送信サイズを選択してください。

1 画面を表示する

[∨]または[∧]を押すと、上下にスクロールします。

2 設定する

連続読み込み

原稿を数回に分けて読み込み、一括して処理します。[読み込み終了]を押すまで、原稿を読み込み続けます。

1 画面を表示する

[∨]または[∧]を押すと、上下にスクロールします。

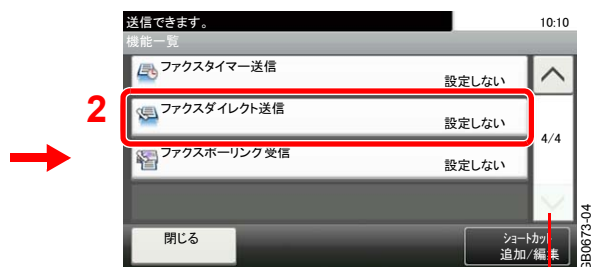
詳しい内容は、本体の**使用説明書**を参照してください。

ダイレクト送信

原稿をメモリーに読み込まずに直接送信します。相手先と回線がつながってから原稿の読み込みを開始しますので、ファクスが確実に送信されているか確認したい場合に使用します。

ダイレクト送信設定	詳細
設定する	ダイレクト送信します。 相手先にダイヤルし、通信を開始してから原稿を読み込みます。
設定しない	メモリー送信します。 原稿をメモリーに読み込んでから通信を開始します。

参考
ダイレクト送信は、1回の送信で指定できる宛先は1件です。

1 画面を表示する

［∨］または［∧］を押すと、上下にスクロールします。

2 設定する

参考
ファクスの基本画面で[**ダイレクト**]を押すと、タッチパネル上のキー表示が反転され、ダイレクト送信が設定されます。

ダイレクト送信の中止

ダイレクト送信で、送信中に中止するときは、操作パネルのストップキー、またはタッチパネルの[**中止**]を押してください。読み込み中の原稿を排出し、送信の初期画面に戻ります。原稿送り装置に原稿が残っているときは、原稿送り装置から取り出してください。

手動送信

相手先との回線がつながったことを確認した後、スタートキーを押して送信する方法です。

参考
本機にオプションのハンドセットあるいは電話機（市販品）を接続すれば、原稿を送信する前に相手と電話で話すことができます。

ハンドセットまたは外付け電話機からの手動送信にしかたについては、7-8ページの**手動送信**を参照してください。

1 ファクスキーを押す

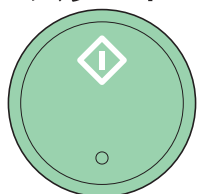
2 原稿をセットする

3 [オンフック]を押す

4 相手先にダイヤルする

相手先の番号をテンキーで入力してください。

参考
操作を途中で中止するときは、**[回線を切る]**を押してください。

5 スタートキーを押す

「ピー」という音が聞こえたら、相手先のファクスとつながっています。スタートキーを押してください。送信が開始します。

タイマー送信

送信する時刻を指定します。同報送信などの機能と併用することができます。

ここでは、1件の宛先に開始時刻を指定して送信する方法を説明します。

重要
タッチパネル上に表示されている現在時刻が合っていないと、指定時刻に正しく通信できません。表示されている現在時刻が合っていないときは正しく調整してください。詳細は、1-9ページの日付と時刻の設定を参照してください。

参考
ダイレクト送信は選択できません。

時刻は、00：00～23：59までの1分単位で指定できます。

タイマー送信は、30件まで宛先を指定できます。

指定時刻が同じタイマー送信が2つ以上ある場合、指定された順に通信が開始されます。ただし指定順が逆でも、同じ宛先へは、異なる宛先よりも先に送信されます。

タイマー送信は、指定時刻の前にキャンセルできます。また、指定時刻の前に送信することもできます。詳細は、4-18ページの**タイマー送信（待機中）の中止と即時送信**を参照してください。

一括送信機能

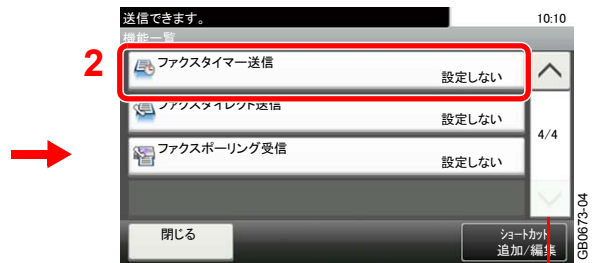
タイマー送信を使用して、同じ宛先のファクスを同じ送信開始時刻にセットすると、10件までを一度にまとめて送信します。同じ宛先に通信を繰り返すといったムダがなくなり、通信コストの削減につながります。

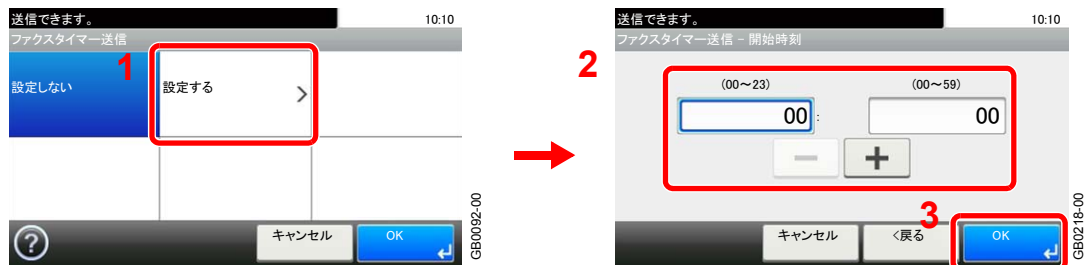
参考
ダイレクト送信は一括送信されません。

同報送信を使用して同じ送信開始時刻のファクスを2件以上セットしたときに、それぞれの宛先の中に同じ相手先番号がある場合は一括送信されません。

送信開始時刻に、同じ相手先に対してリダイヤル待機中のファクスがある場合は、リダイヤル待機原稿もあわせて一括送信されます。

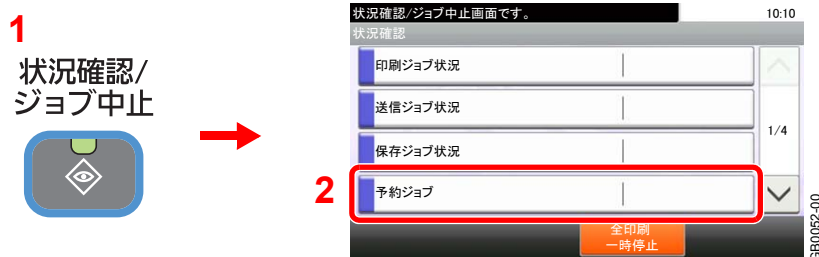
部門管理を有効にしているときは、同じ部門コードでタイマー送信を使用した原稿だけが一括送信されます。

1 画面を表示する

［∨］または［∧］を押すと、上下にスクロールします。

2 設定する

[+]、[－]またはテンキーで、送信の開始時刻を入力してください。

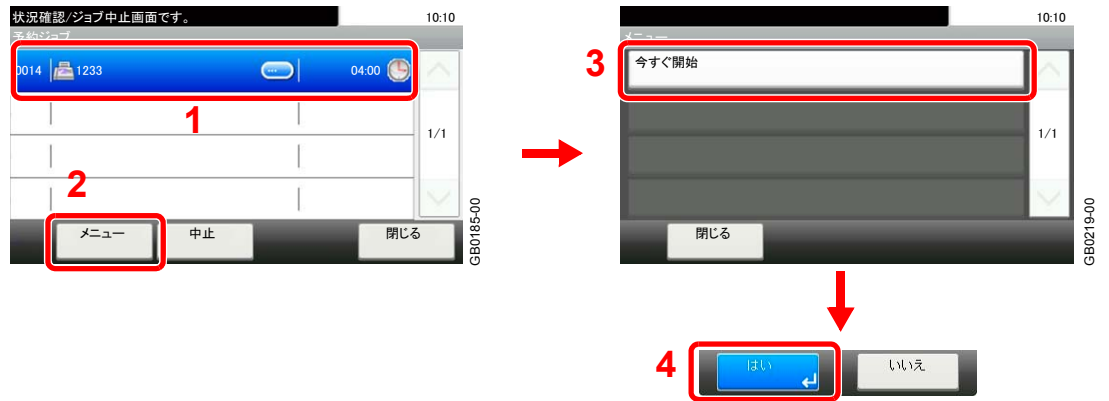
タイマー送信（待機中）の中止と即時送信

タイマー送信で待機中のジョブを中止する、または指定時刻を待たずに今すぐ送信するには、次の手順で行ってください。

1 画面を表示する

2 ジョブの中止と即時送信

ジョブを中止する場合

中止するジョブを選択し、[中止]を押してください。

即時送信する場合

即時送信するジョブを選択し、[**メニュー**]画面で[**今すぐ開始**]を押してください。

送信予約

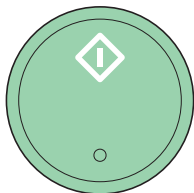
通信中に原稿を読み込んで、次の送信を予約できます。通信が終わると、自動的に予約した送信を開始します。送信予約を使用すれば、同報送信などで通信が長引くときに待つ必要がなくなります。

> **参考**
> タイマー送信や割り込み送信と合わせて35件まで予約することができます。
>
> 同報送信などの機能を使用できます。

1 ファクス**キーを押す**

2 **原稿をセットする**

3 **宛先を選択し、使用する送信機能がある場合は設定する**

4 スタート**キーを押す**

原稿の読み込みを開始して、次の送信を予約します。

> **参考**
> 「送信前の宛先確認画面の設定」を「設定する」に設定している場合は、スタートキーを押したときに、宛先確認画面が表示されます。詳しくは8-12ページの**宛先確認画面について**を参照してください。

5 **通信が終わると、予約した送信が開始します。**

割り込み送信

通信中にダイレクト送信を選択して原稿を読み込むと、割り込み送信ができます。同報送信などで通信が長引く場合や、次の送信が予約されている場合でも、割り込み送信を使用した原稿を先に送信します。

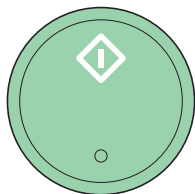
参考
送信予約とタイマー送信の合計がすでに35件ある場合は、割り込みできません。

1 **ファクスキーを押す**

2 **割り込み送信する原稿をセットする**

3 **ダイレクト送信を設定する**

ダイレクト送信の操作については、4-15ページの**ダイレクト送信**を参照してください。

4 **宛先を指定し、スタートキーを押す**

原稿は待機中になり、送信できる状態になれば送信が開始します。

参考
「送信前の宛先確認画面の設定」を「設定する」に設定している場合は、スタートキーを押したときに、宛先確認画面が表示されます。詳しくは8-12ページの**宛先確認画面について**を参照してください。

割り込み送信の待機中に送信を中止するときは、操作パネルのストップキーまたは、タッチパネルの[中止]を押してください。

5 **割り込み送信が終了すると、中断していた通信や送信予約が自動的に開始します。**

ジョブ終了通知

ジョブが終了したことをメールで通知します。

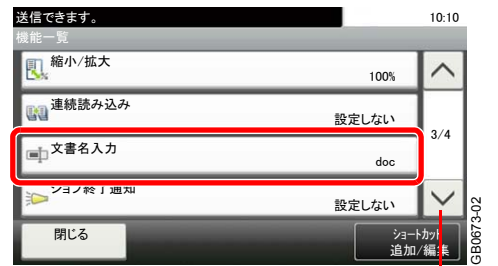
1 画面を表示する

[∨]または[∧]を押すと、上下にスクロールします。

詳しい内容は、本体の**使用説明書**を参照してください。

文書名/ファイル名の入力

文書に名前を付けます。ジョブ番号、日時の付加情報も設定できます。

1 画面を表示する

［∨］または［∧］を押すと、上下にスクロールします。

詳しい内容は、本体の**使用説明書**を参照してください。

5　ファクスを受信する

この章では、次の項目について説明します。

ファクスの受信について

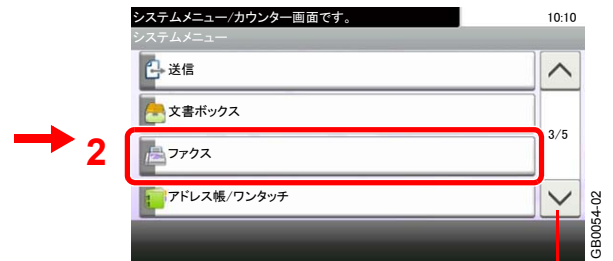
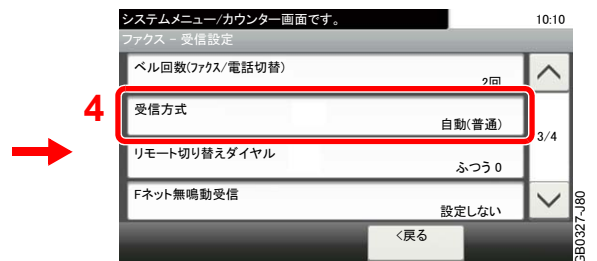
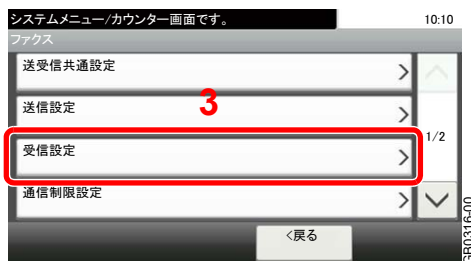
本機で電話を受けずにファクス専用として使用する場合は、ファクス専用自動受信にしてください。受信時には特に操作の必要はありません。

受信方法の種類

本機の受信方法は、次のとおりです。

受信方法	設定値	説明	参照
ファクス専用自動受信	自動（普通）	自動でファクスを受信します。	5-4ページ
ファクス/電話自動切替受信	自動（ファクス/電話）	1 回線で電話とファクスの両方を使用するときに便利な受信方法です。ファクス原稿が送られてくれば自動的に受信し、相手先が電話のときは本機で呼び出し音が鳴り、応答を促します。	7-4ページ
ファクス/留守番電話自動切替受信	自動（留守番電話）	留守番電話機とファクスを併用するときに便利な方法です。ファクス原稿が送られてくれば自動的に受信し、相手先が電話のときは接続された留守番電話機の機能にしたがうため、不在の場合には相手先からのメッセージを留守番電話に残すことができます。	7-6ページ
手動受信	手動	相手先との回線がつながったことを確認した後、[**手動受信**]を押して受信する方法です。本機にオプションのハンドセットまたは電話機（市販品）を接続すれば、相手と話した後に原稿を受信することができます。	5-7ページ

受信方法の確認と変更

1 画面を表示する

2 受信方法を選択する

ファクス専用自動受信を行なうときは、[**自動(普通)**]を選択してください。

ファクス専用自動受信

本機で電話を受けずにファクス専用として使用する場合は、ファクス専用自動受信にしてください。受信時には特に操作の必要はありません。

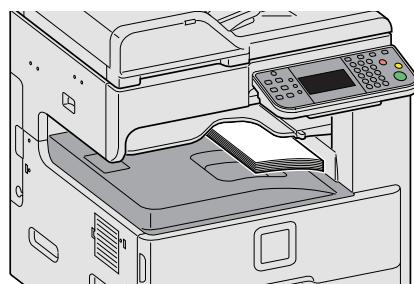
受信のながれ

1 受信の開始

ファクスが送られてくると、登録された回数の呼び出し音が鳴った後、受信を開始します。

受信が始まると、処理中ランプが点滅します。

参考
呼び出し音が鳴る回数は変更することができます。(9-6ページの**ファクス設定**を参照)

2 受信印刷

受信した原稿は、印刷された面を下にして内部トレイまたはジョブセパレータートレイに排出されます。内部トレイの収納枚数は普通紙(80g/m²)で250枚、ジョブセパレータートレイの収納枚数は普通紙(80g/m²)で100枚までです。ただし、使用用紙の状態により収納枚数は変わります。

重要
収納可能な枚数は、排出先によって異なります。本体の使用説明書を参照してください。収納可能な枚数を超えるときは、内部トレイまたはジョブセパレータートレイの用紙をすべて取り出してください。用紙切れや紙づまりなどで本機が印刷できない状態であっても、受信は行われます。(代行受信)

参考
受信した原稿の排出先を設定することができます。詳しくは、本体の**使用説明書**を参照してください。

代行受信とは

用紙切れや紙づまりなどで印刷できない場合、本機は送られてきた原稿をいったん画像メモリーに記憶します。そして印刷可能な状態になると、印刷を行います。

代行受信が行われると、状況確認画面の印刷ジョブにファクス受信印刷ジョブが表示されます。受信原稿を印刷するときは、用紙を補給するか、紙づまりを解除してください。

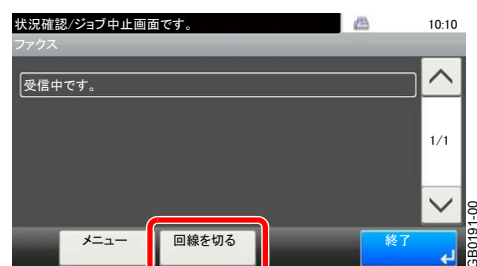
状況確認画面については本体の**使用説明書**を参照してください。

受信を中止する（通信の切断）

通信中の回線を切って、受信を中止するときは、次の手順で行ってください。

1 状況確認/ジョブ中止キーを押す。

状況確認/
ジョブ中止

2 通信を切断する

[∨]または[∧]を押すと、上下にスクロールします。

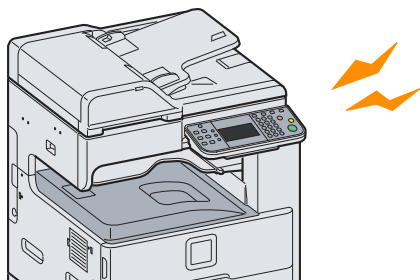
通信を切断した時点で受信を中止します。

手動受信

相手先との回線がつながったことを確認した後、[手動受信]を押して受信する方法です。

> **参考**
> 手動受信を使用するには、受信方式を手動受信に変更する必要があります。受信方式の変更については、9-6ページの**ファクス設定**を参照してください。
>
> 本機にオプションのハンドセットまたは電話機（市販品）を接続すれば、相手と話した後に原稿を受信することができます。

受信のながれ

1 **本体に着信する**

着信すると、本体から呼び出し音が鳴ります。

2 **[オンフック]キーを押す**

[オンフック]キーを押すと、回線が接続されます。

3 **[手動受信]キーを押す**

受信を開始します。

受信で設定できる機能

受信方法やファクスの印刷方法を設定できます。

やりたいこと	参照ページ
受信した原稿を両面に印刷したい	両面印刷 ▶ 5-9ページ
2枚の原稿を1枚にまとめて受信したい	2in1印刷 ▶ 5-9ページ
受信した原稿一括で印刷したい	一括印刷 ▶ 5-9ページ
用紙サイズより大きい原稿を縮小して受信したい	縮小受信 ▶ 5-9ページ
受信した日時や情報などを印刷したい	受信日時記録 ▶ 5-9ページ
使用する用紙の種類を限定したい	受信用紙種類 ▶ 5-10ページ
ファクス通信網(Fネット)を使用したい	Fネット無鳴動受信 ▶ 5-11ページ
ダイヤルインサービスを使用したい	ダイヤルイン ▶ 5-11ページ
受信した原稿を別のファクスやパソコンに転送したい	メモリー転送 ▶ 6-2ページ
受信した原稿を出力せずにファクス内に保存したい	Fコードボックス機能 ▶ 6-13ページ
受信側の操作で通信を開始したい	ポーリング通信 ▶ 6-26ページ
原稿を暗号化して安全に通信したい	暗号通信 ▶ 6-35ページ

ファクス受信設定

両面印刷

複数ページの受信データが、すべて同じ幅であるとき、受信データと同じ幅の用紙に両面で印刷します。

設定する	両面で印刷する。
設定しない	両面で印刷しない。

設定方法は、9-2ページの**ファクス初期設定**を参照してください。

2in1印刷

A5サイズで複数ページの原稿を受信したときに、2ページをA4 の用紙1 枚にまとめて印刷します。2in1印刷と両面印刷を両方設定すると2in1印刷は機能しません。

設定する	2in1印刷する。
設定しない	2in1印刷しない。

設定方法は、9-2ページの**ファクス初期設定**を参照してください。

一括印刷

受信した原稿が複数枚あるときに、全てのページの受信が完了してから一括で出力します。

設定する	全てのページの受信が完了してから一括で出力します。
設定しない	受信したページごとに出力します。

設定方法は、9-2ページの**ファクス初期設定**を参照してください。

縮小受信

受信サイズが用紙サイズよりも大きい場合、縮小して印刷できます。

設定する	用紙サイズに合わせて、受信データを縮小して印刷します。
設定しない	受信データを100%のまま、複数枚の用紙に分割して印刷します。

設定方法は、9-2ページの**ファクス初期設定**を参照してください。

受信日時記録

受信日時記録は、ファクスが印刷されるときに、受信した日時、相手先の情報、ページ数を本機側で付加し、各ページの先頭に印刷する機能です。時差がある地域から送られてきた原稿を、いつこちらが受信したか確認できます。

参考
受信データが複数ページに分割されるときは、最初の1ページに受信日時記録が印刷され、次のページ以降には印刷されません。メモリー転送時に、転送された受信データには、受信日時記録は付加されません。

設定する	受信日時記録を印刷する。
設定しない	受信日時記録を印刷しない。

設定方法は、9-2ページの**ファクス初期設定**を参照してください。

受信用紙種類

ファクスが印刷されるときに使用する用紙を、用紙の種類で限定できます。

選択できる用紙種類	全用紙種類、普通紙、薄紙、再生紙、ボンド紙、カラー紙、厚紙、上質紙、カスタム1～8

設定方法は、9-2ページの**ファクス初期設定**を参照してください。

ファクス受信出力をするカセットを設定する

用紙種類を限定することで、用紙種類を設定した該当のカセットからファクス受信が可能となります。また、設定された用紙サイズで自動的に縮小されます。

1 画面を表示する

システムメニュー / カウンター

[∨]または[∧]を押すと、上下にスクロールします。

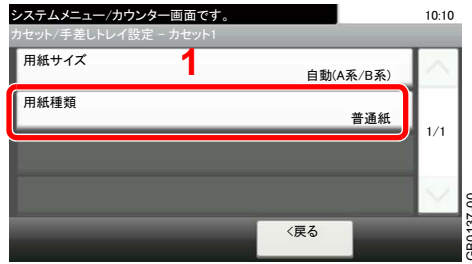
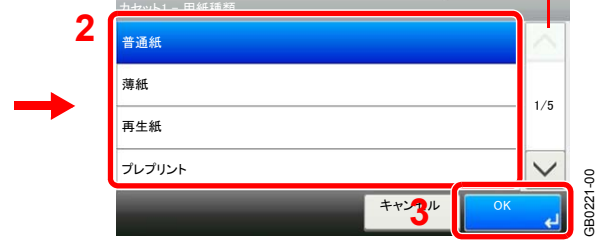
ファクス受信で使用するカセットを選択してください。

2 用紙サイズを設定する

重要

ファクス受信で使用するカセットの用紙サイズは、次の設定にしてください。

[自動]→[A系/B系]を押します。

3 用紙種類を設定する

［∨］または［∧］を押すと、上下にスクロールします。

4 受信用紙種類を設定する

ファクスの受信用紙の設定を行ないます。用紙種類の選択では手順3で選択したものと同じ用紙種類を選択してください。

設定方法は、9-2ページの**ファクス初期設定**を参照してください。

Fネット無鳴動受信

電気通信事業社が提供するファクス通信網（Fネット）に接続してファクス通信をする場合は、「Fネット無鳴動受信」を［設定する］にしてください。

設定方法は、9-2ページの**ファクス初期設定**を参照してください。

ダイヤルイン

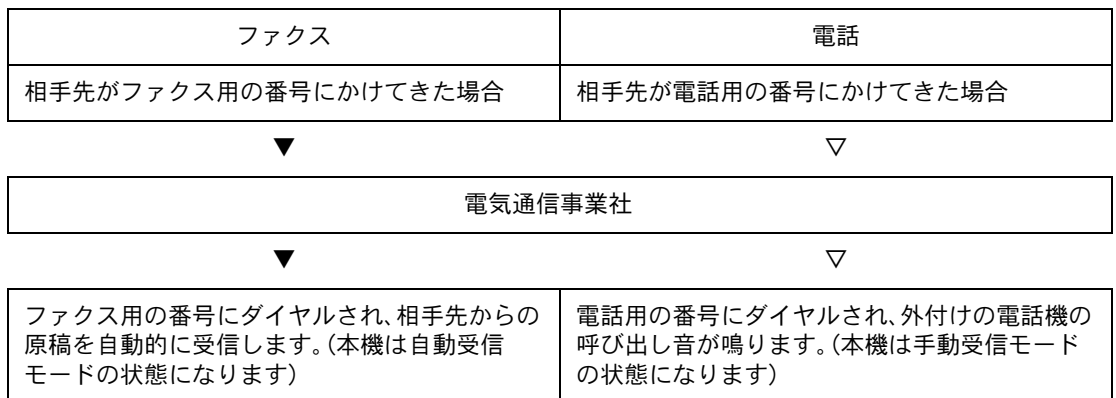
電気通信事業社のダイヤルインサービスを利用することにより、1回線で電話とファクスとの併用を可能にする機能です。

ダイヤルインサービスでは、契約時に電気通信事業社から電話用とファクス用の2つの番号が与えられます。相手先に対して、電話用とファクス用にそれぞれ別の番号を伝えておけば、相手側では、電話をかけるときは電話用の番号を使い、ファクスを送るときはファクス用の番号を使います。

本機側では、それらの番号を事前に電話用とファクス用に登録しておくため、電話かファクスかを区別して受信することができます。

参考
ダイヤルインサービスのサービス内容や契約方法については、電気通信事業社の営業窓口にお問い合せください。また、サービスをお受けになるときは、ダイヤルイン番号を4桁送出でお申し込みください。ファクス/電話自動切替受信やファクス/留守番電話自動切替受信との併用はできません。電話を受けるためには、電話機（市販品）を接続することが必要です。

受信の流れ

ファクス	電話
相手先がファクス用の番号にかけてきた場合	相手先が電話用の番号にかけてきた場合
▼	▽
電気通信事業社	
▼	▽
ファクス用の番号にダイヤルされ、相手先からの原稿を自動的に受信します。（本機は自動受信モードの状態になります）	電話用の番号にダイヤルされ、外付けの電話機の呼び出し音が鳴ります。（本機は手動受信モードの状態になります）

設定する	ダイヤルインを設定します。 電話番号として使用する番号(4桁)とファクス番号として使用する番号(4桁)を登録してください。
設定しない	ダイヤルインを設定しない。

設定方法は、9-2ページの**ファクス初期設定**を参照してください。

6　べんりなファクス機能を使う

この章では、次の項目について説明します。

メモリー転送

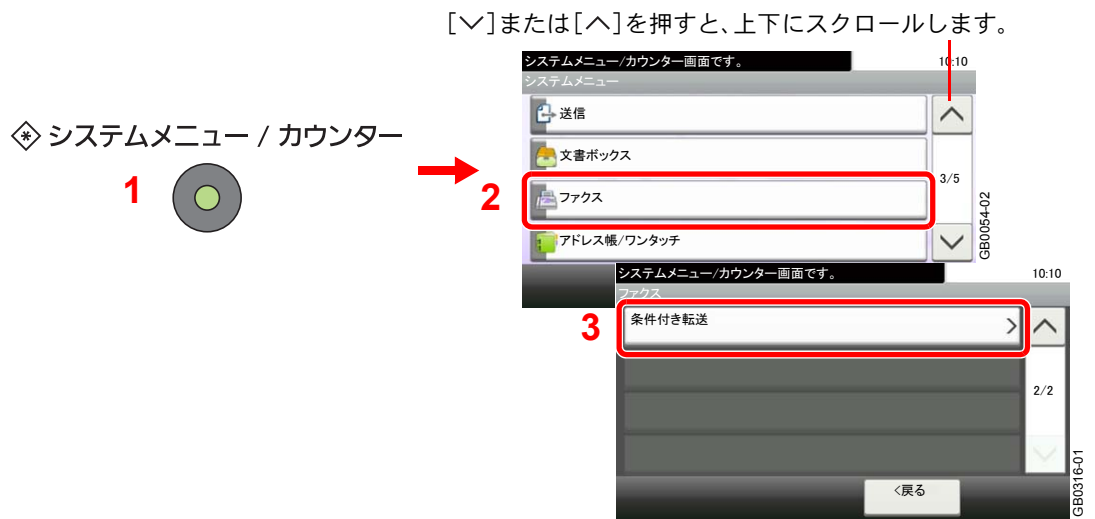
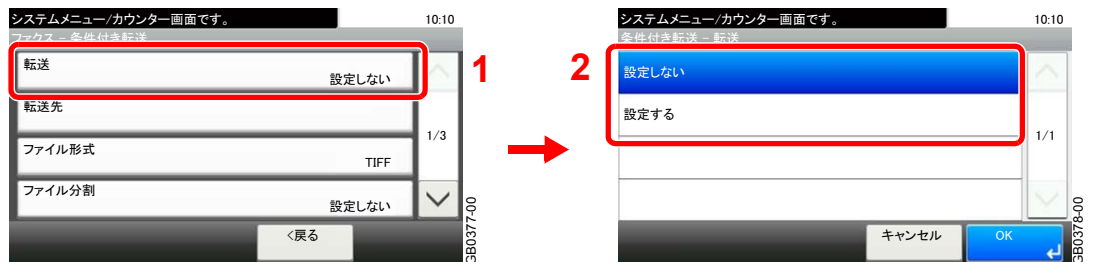
ファクスを受信したとき、受信画像を他のファクスやコンピューターに転送したり、印刷を設定したりできます。

転送先の種類

転送先に指定できるのは1件です。転送を［設定する］に設定すると、受信したすべての原稿を指定先に転送します。

他のファクス、メール送信、フォルダー（SMB）送信、フォルダー（FTP）送信に転送することができます。

転送を設定する

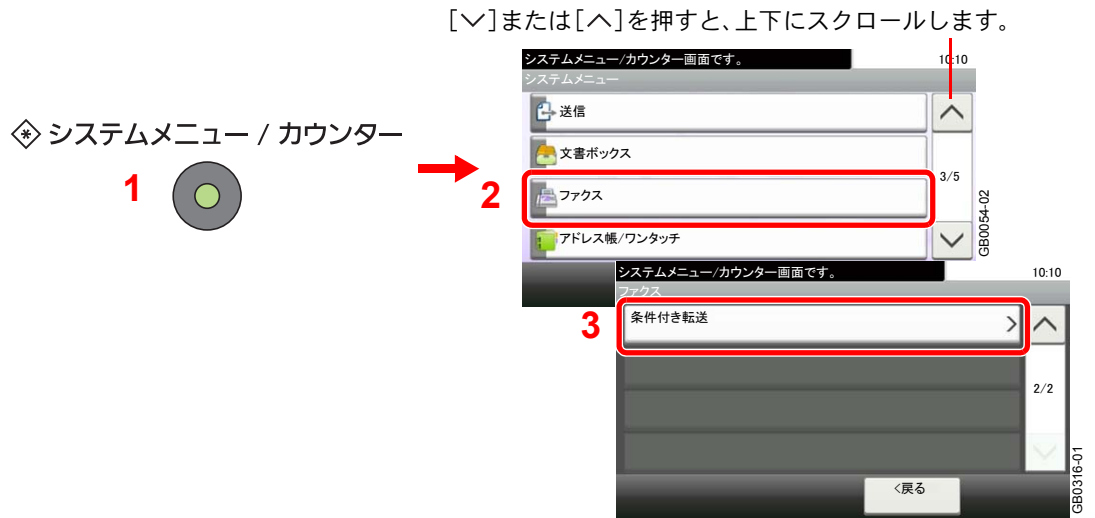
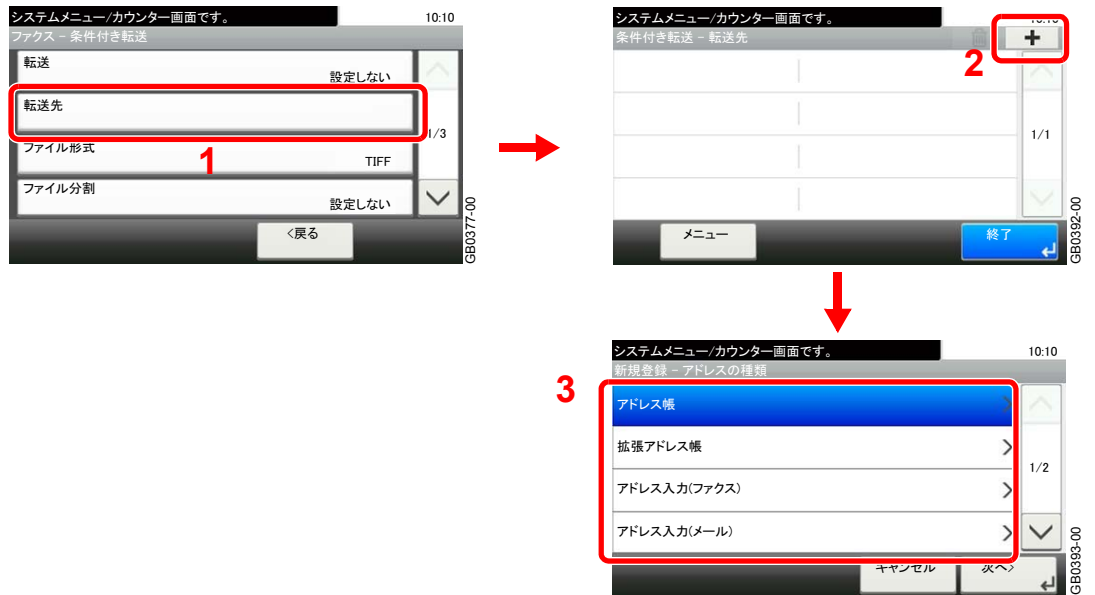
転送を設定するときは、次の手順を行ってください。

1 画面を表示する

2 設定する

転送する場合は［設定する］を、また転送しない場合は［設定しない］を選択してください。

転送先を登録する

転送先を登録するときは、次の手順を行ってください。

1 画面を表示する

2 設定する

宛先の追加画面を表示し、以下の手順で転送先を登録してください。登録できる転送先は 1 件です。

転送先をアドレス帳から選択するとき

1 [アドレス帳]または[拡張アドレス帳]を押してください。

2 転送する宛先（個人）を選択してください。

転送先を直接入力するとき

1 [アドレス入力（ファクス）]、[アドレス入力（メール）]または[アドレス入力（フォルダー）]を押してください。

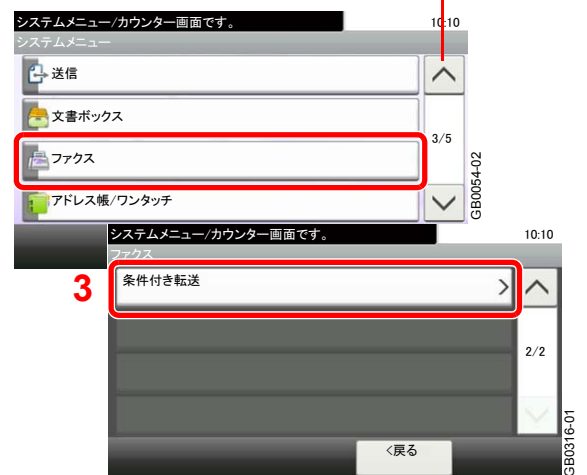
2 転送先に登録するアドレスを入力してください。

転送先に[アドレス入力(メール)]または[アドレス入力(フォルダー)]を選択した場合は、本体の使用説明書を参照してアドレスを入力してください。

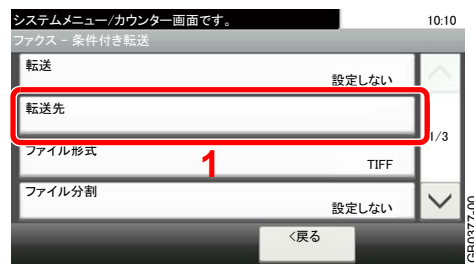
参考
文字の入力方法は、11-3ページの**文字の入力方法**を参照してください。

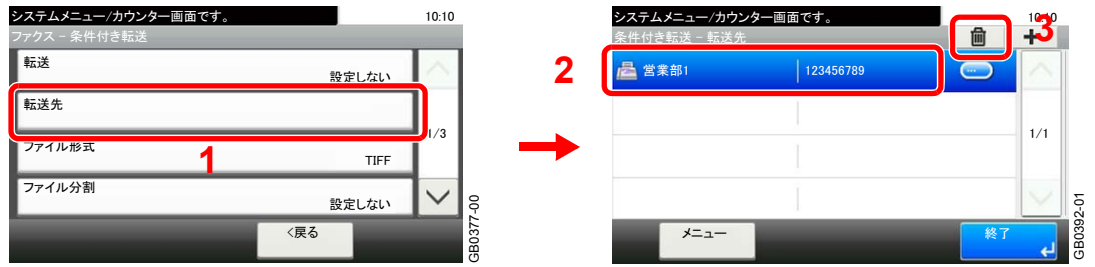
3 [終了]を押す

登録内容の変更と削除

登録内容の変更と削除をするときは、次の手順を行ってください。

1 画面を表示する

2 変更/削除する

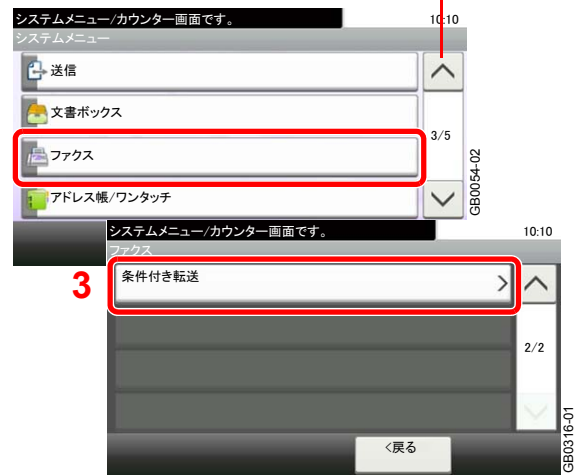
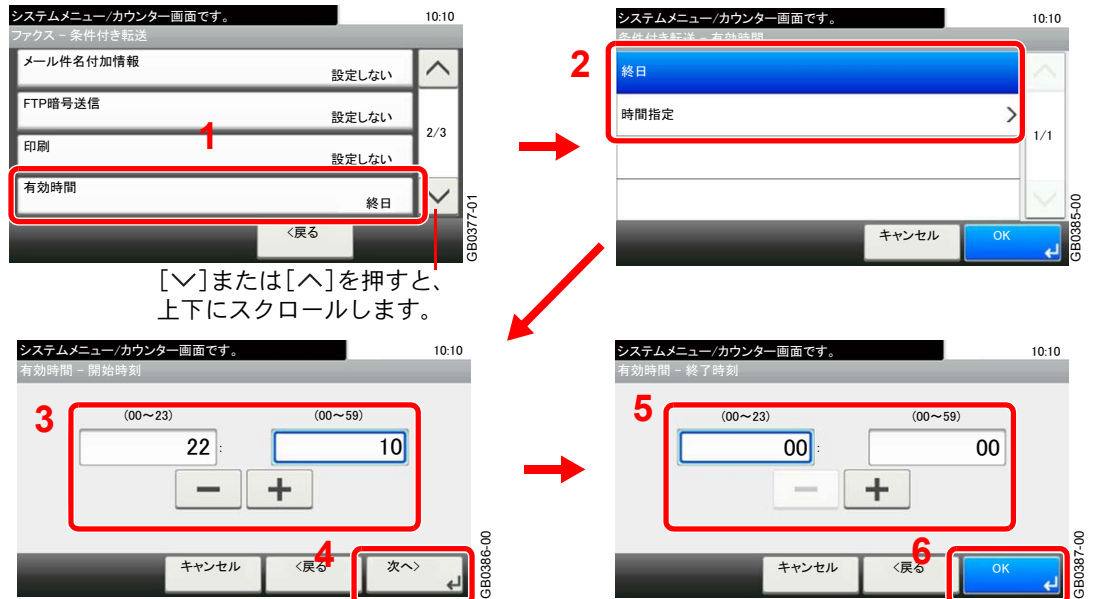
変更する

[...]を押して、変更します。

削除する

転送先を選択して、[(削除)](ゴミ箱のアイコン)を押します。

3 [終了]を押す

転送時刻設定

転送が有効になる開始時刻と終了時刻を登録します。

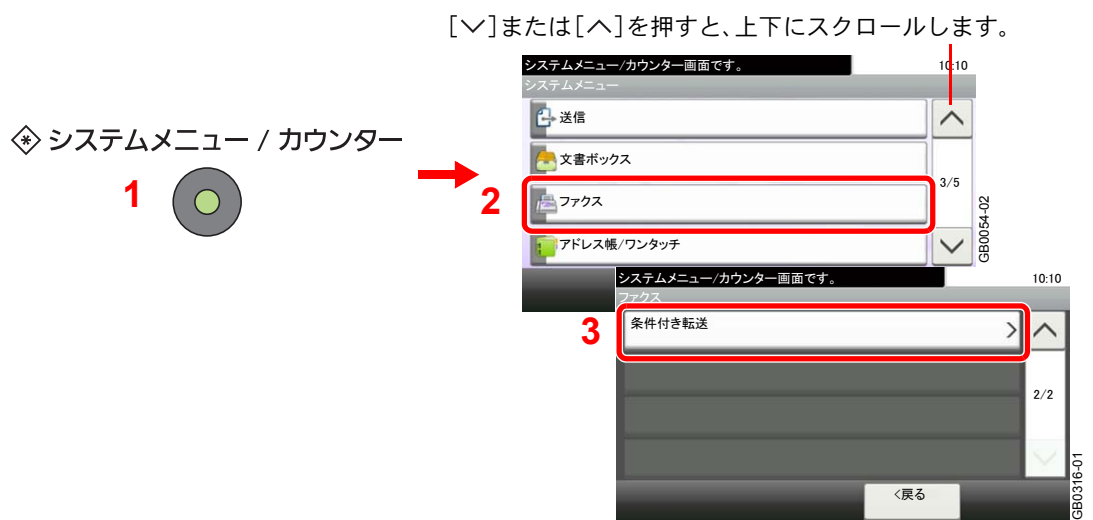
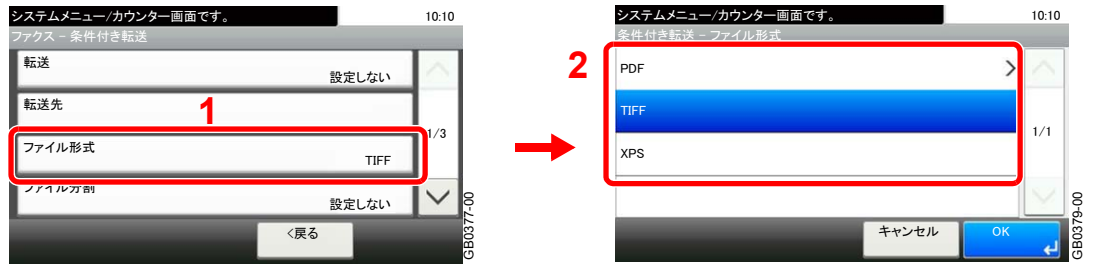
1 画面を表示する

2 設定する

[終日]または[時間指定]を選択てください。[時間指定]を選んだ場合は開始時間と終了時間を入力してください。

参考
時刻は24 時間制で入力してください。

ファイル形式設定

メール送信、フォルダー(SMB)送信、またはフォルダー(FTP)送信する場合に、ファイル形式をPDF、TIFFまたはXPS から選択します。

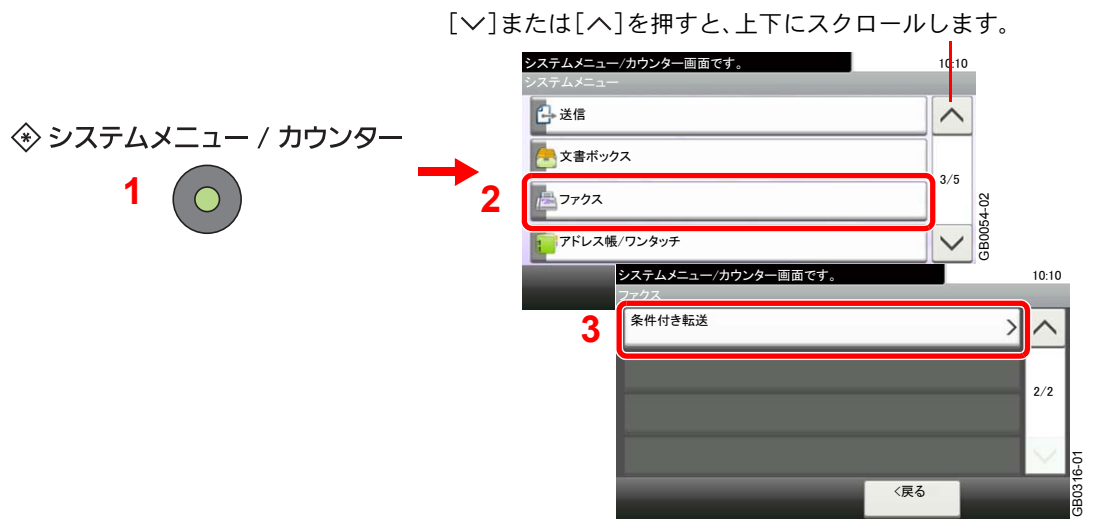
1 画面を表示する

2 **設定する**

[PDF]、[TIFF]または[XPS]を選択してください。

[PDF]を選択した場合は、[設定しない]、[PDF/A-1a]または[PDF/A-1b]を選択してください。

ファイル分割設定

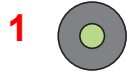
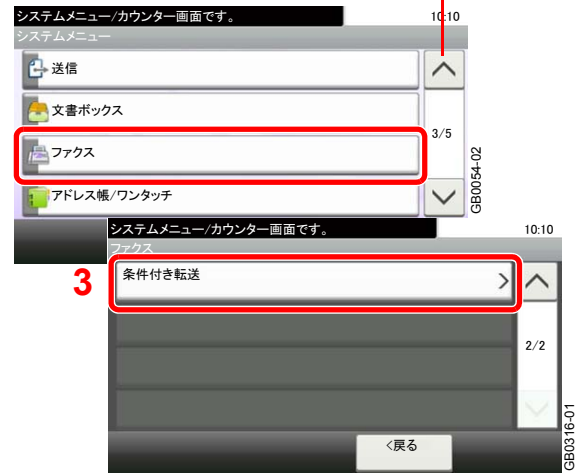
メール送信、フォルダー（SMB）送信、またはフォルダー（FTP）送信する場合に、ページ分割するかどうか設定します。

1 **画面を表示する**

2 **設定する**

ページごとにファイルを作成する場合は、[ページごと]を選択します。

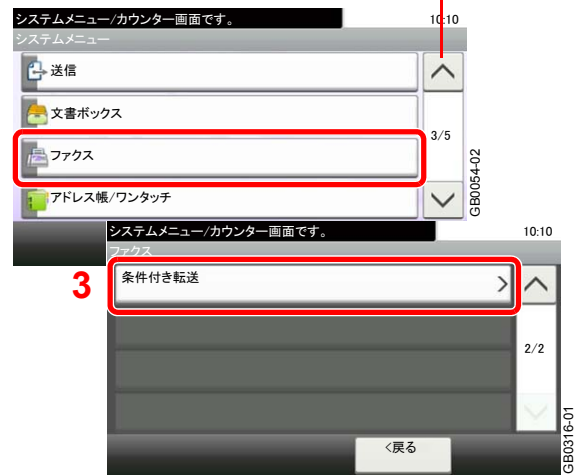
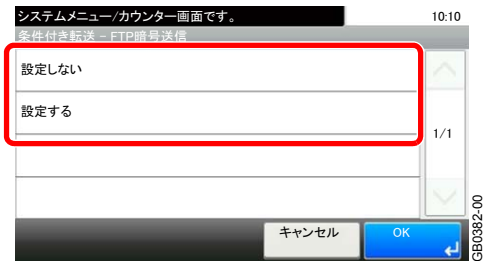
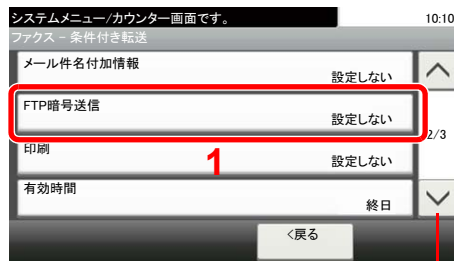
メール件名付加情報設定

メールの件名に情報を付加するかどうか設定します。情報を付加する場合は、送信元名または送信元ファクス番号から選択します。

1 画面を表示する

2 設定する

FTP暗号送信設定

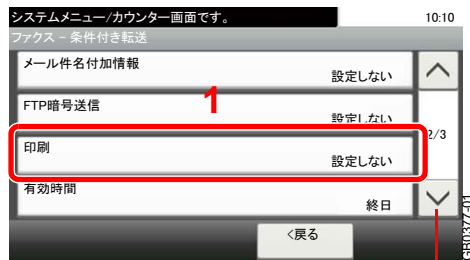
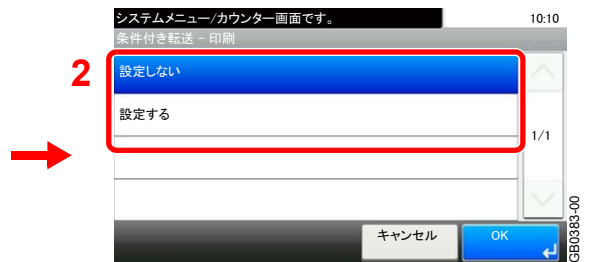
転送するときにFTP暗号送信をするかどうか設定します。

> **参考**
> FTP暗号送信機能を使用する場合、セキュアプロトコル設定の「SSL」の設定を［使用する］にしてください。詳しくは本体の使用説明書を参照してください。

1 画面を表示する

2 設定する

［∨］または［∧］を押すと、上下にスクロールします。

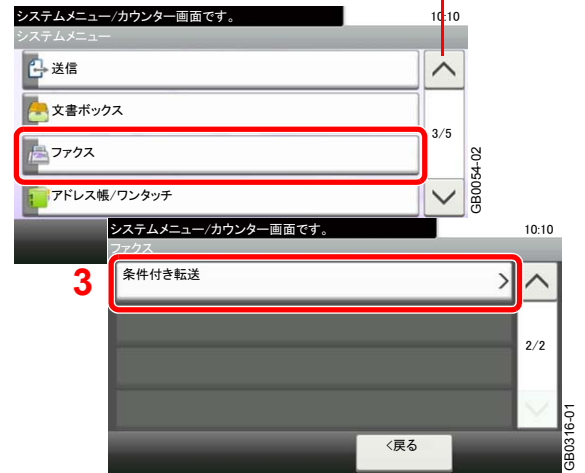
印刷の設定

転送するときに本機で印刷するかどうか設定します。

1 画面を表示する

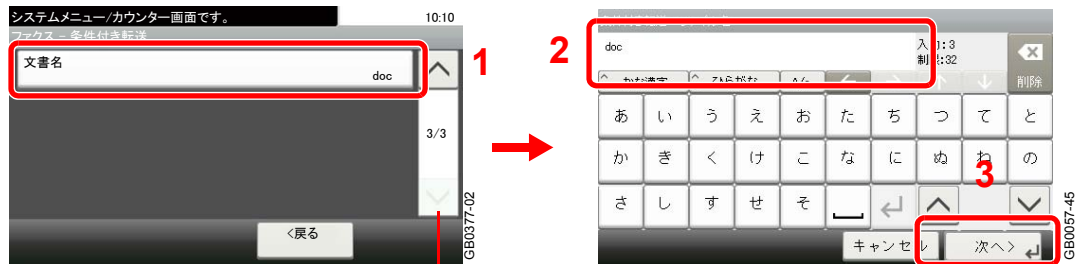
2 設定する

文書名登録

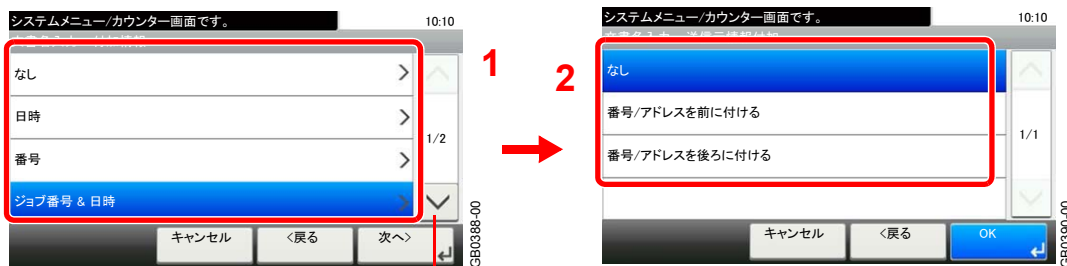
転送時に作成するファイルの文書名を設定します。その他、日時やジョブ番号、またはファクス番号の情報も付加できます。

1 画面を表示する

2 設定する

1 ファイル名を入力する。

参考

文字の入力方法は、11-3ページの**文字の入力方法**を参照してください。

付加情報を入れていない場合、ファイル名が同じになり、フォルダー（SMB）送信やフォルダー（FTP）送信で転送するとファイルを上書きしますので注意してください。

2 付加情報を設定する。

［∨］または［∧］を押すと、上下にスクロールします。

文書名に付加情報を入れないときは、［なし］を選択し、送信元情報付加の［なし］または［ファクス番号］を設定してください。文書情報を入れるときは、［日時］、［番号］、［ジョブ番号＆日時］または［日時＆ジョブ番号］を選択し、送信元情報付加の［なし］、［番号/アドレスを前に付ける］または［番号/アドレスを後ろに付ける］を設定してください。

文書名のサンプル

例）doc00352720100826181723.pdf

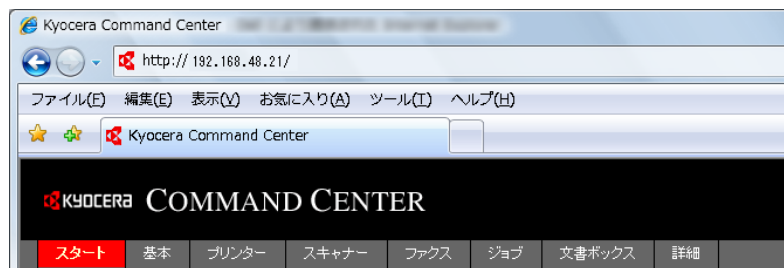
doc（ファイル名）＋ ジョブ番号6ケタ ＋ 年月日時分秒 ＋ ファイル形式（工場出荷初期値は.pdf）

COMMAND CENTER からのメモリー転送設定（転送設定）

本機にネットワーク接続されたコンピューターからCOMMAND CENTER を使ってメモリー転送の設定を行えます。

ネットワークの設定については、本体の使用説明書を参照してください。

COMMAND CENTERへのアクセス

1 COMMAND CENTERの表示

1 Web ブラウザーを起動します。

2 アドレスバーまたはロケーションバーに本機のIPアドレスを入力します。

例）192.168.48.21/

本機およびCOMMAND CENTER に関する一般情報と現在の状態が、Web ページに表示されます。

2 COMMAND CENTERで設定する

画面左のナビゲーションバーから項目を選択します。項目によっては、別途、設定が必要になります。

COMMAND CENTER に制限がかけられている場合、スタートページ以外のページにアクセスするためには、ユーザー名とパスワードを入力する必要があります。

詳細は京セラCOMMAND CENTER 操作手順書を参照してください。

Fコードボックス機能

Fコードボックスとは

受信原稿を保存するボックスをFコードボックスと呼びます。Fコード通信機能を使って、受信した原稿をF コードボックスに保存することができます。

Fコードボックスの操作方法は、次の項目を参照してください。

- Fコードボックスの登録のしかた ▶ 6-14ページ
- Fコードボックスの変更/削除のしかた ▶ 6-16ページ

Fコードボックスに保存されている受信原稿の操作方法は、次の項目を参照してください。

- Fコードボックスからの印刷のしかた ▶ 6-18ページ
- 詳細情報の確認のしかた ▶ 6-19ページ
- Fコードボックス印刷後原稿の削除 ▶ 6-21ページ
- Fコードボックスからの削除のしかた ▶ 6-21ページ
- Fコードボックスリストの印刷のしかた ▶ 6-22ページ

Fコードボックスに送信する方法は、次の項目を参照してください。

- Fコード送信のしかた ▶ 6-23ページ

F コード通信とは

F コード通信とは、ITU-T（国際電気通信連合）の勧告に準拠したサブアドレスやパスワードを付加して送/受信する通信をいいます。Fコードを使用することにより、本来弊社機間でしかできなかった親展通信（受信側機に設けられた原稿受け渡しボックスに送る通信）やポーリング通信（受信側から操作して送信側の原稿を受信する通信）などの通信が他社機との間でも可能になります。本機では、Fコード通信を使って、受信した原稿をFコードボックスに保存するなど、高度な通信ができます。

参考
Fコード通信を行うためには、相手機にも同様のFコード通信機能が備わっている必要があります。

Fコードを使った通信は、各種機能通信とも併用することができます。また、FコードサブアドレスやFコードパスワードをアドレス帳やワンタッチキーに登録しておけば、送信時に入力を省略することができます。詳しくは、各通信方法や登録方法の手順内の記述を参照してください。

F コードについて

本機では、FコードサブアドレスとFコードパスワードがFコードにあたります。

F コードサブアドレス

F コードサブアドレスは0～9までの数字とスペース、「#」、「＊」を使って20桁まで入力することができます。本機で受信する場合は、FコードサブアドレスはFコードボックスの指定に使用します。

F コードパスワード

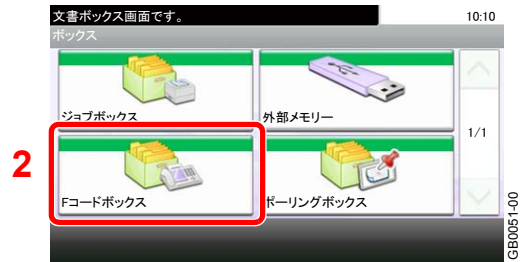
F コードパスワードは0～9までの数字とスペース、「#」、「＊」の文字を使って20桁まで入力することができます。本機で受信する場合はFコードパスワードを使用しません。

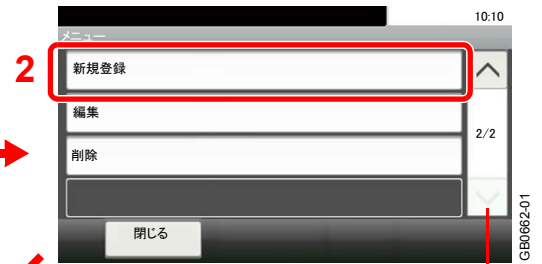
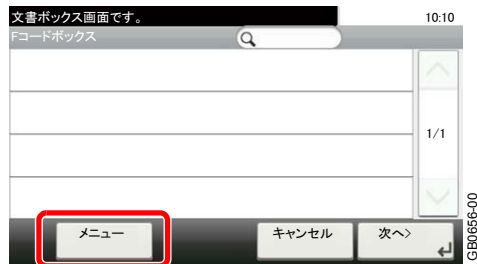
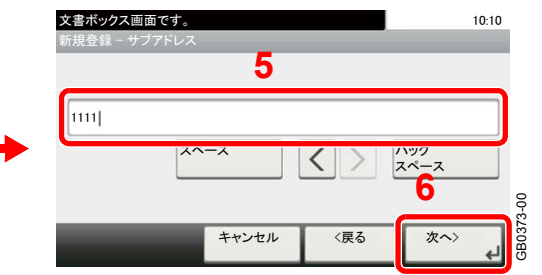
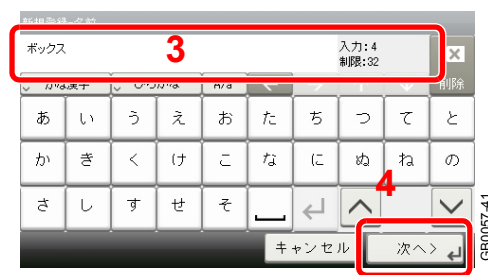
Fコード送信の操作方法は、6-23ページの**Fコード送信のしかた**を参照してください。

Fコードボックスの登録のしかた

Fコードボックスは20個まで登録することができます。

参考
ユーザー管理が有効の場合は、管理者の権限でログインしてください。
システムメニューでも、Fコードボックスを登録することができます。

1 画面を表示する

2 設定する

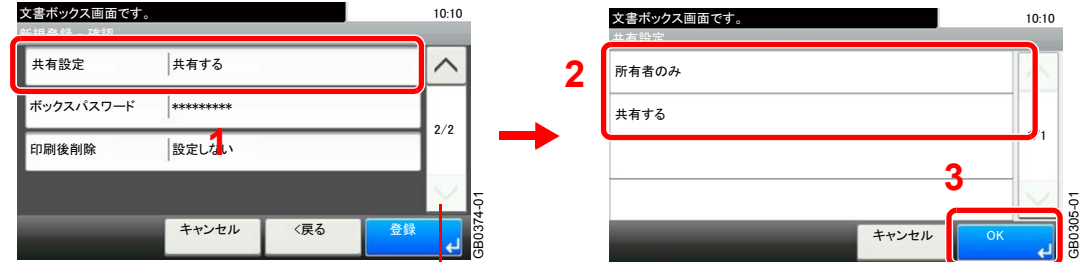
1 ボックス名称とサブアドレスの入力

参考
サブアドレスは、0～9の数字とスペース、「#」、「＊」の文字を使って、20桁まで入力できます。

文字の入力方法は、11-3ページの**文字の入力方法**を参照してください。

2 所有者の設定

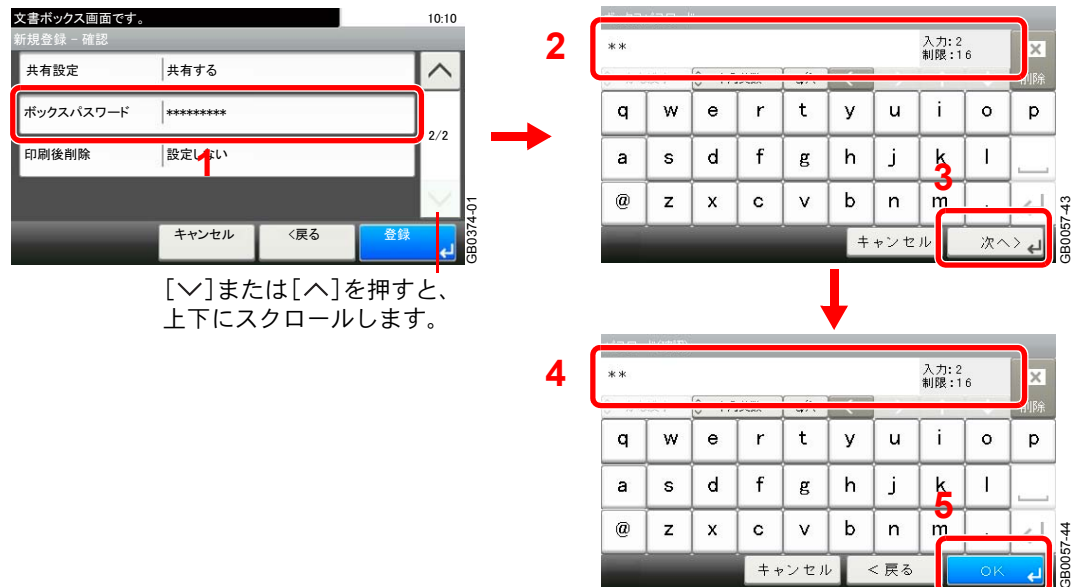
ボックスの所有者を選択してください。

> **参考**
> 所有者は、ユーザー管理を設定しているときに表示されます。

3 共有設定の設定

[∨]または[∧]を押すと、上下にスクロールします。

ボックスを個人で使用する場合は[所有者のみ]を、他のユーザーと共有する場合は[共有する]を設定してください。

> **参考**
> 共有設定は、ユーザー管理を設定し、所有者を設定しているときに表示されます。

4 ボックスパスワードの設定

[∨]または[∧]を押すと、
上下にスクロールします。

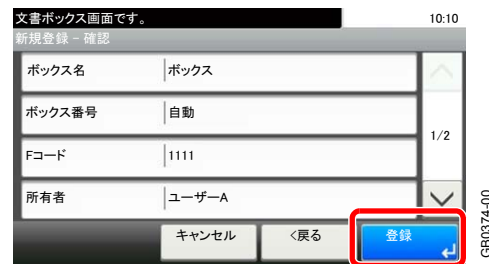
ボックスパスワードは0～9までの数字、半角アルファベットとスペース、「#」、「＊」の文字を使って、16桁まで入力できます。確認のため2回パスワードを入力してください。ボックスパスワードを設定すると、印刷の際にパスワードが必要になります。

参考
ユーザー管理を設定し、所有者を設定していないとき、または、ユーザー管理と所有者を設定して、共有設定をしていないときはボックスパスワードが表示されません。

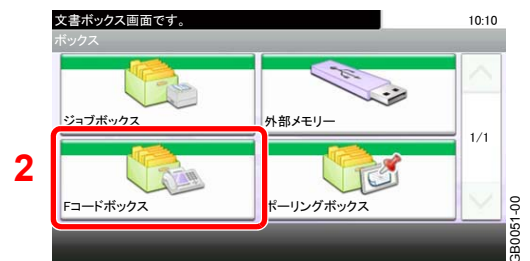
5 印刷後削除の設定

［∨］または［∧］を押すと、上下にスクロールしま

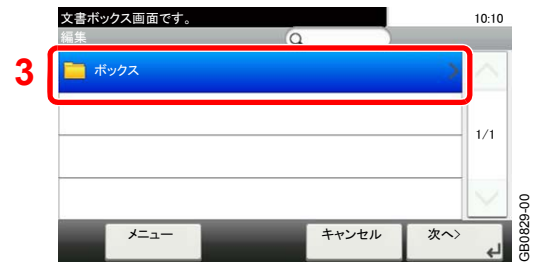
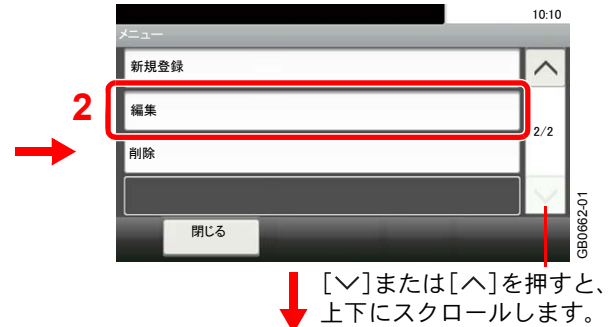
ボックスから原稿を印刷した後、原稿を削除する場合は［設定する］を、原稿を削除しない場合は［設定しない］を設定します。

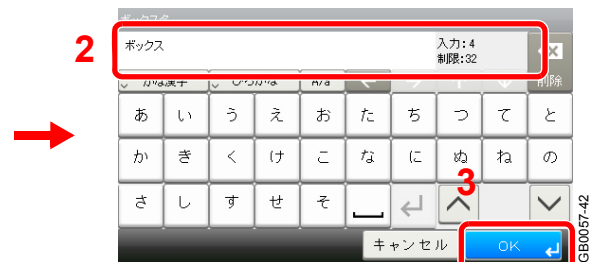
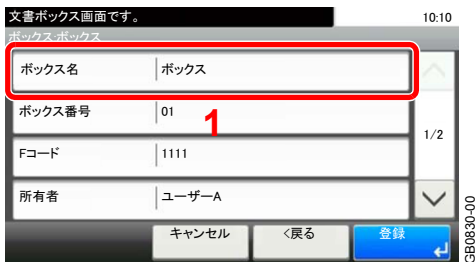
3 登録する

Fコードボックスの変更/削除のしかた

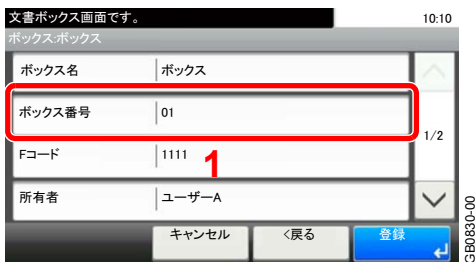
参考
システムメニューでも、Fコードボックスを変更/削除することができます。

1 画面を表示する

2 変更/削除する

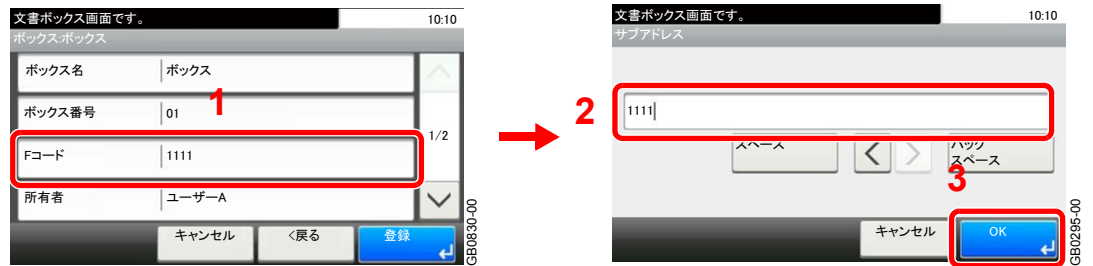
変更する

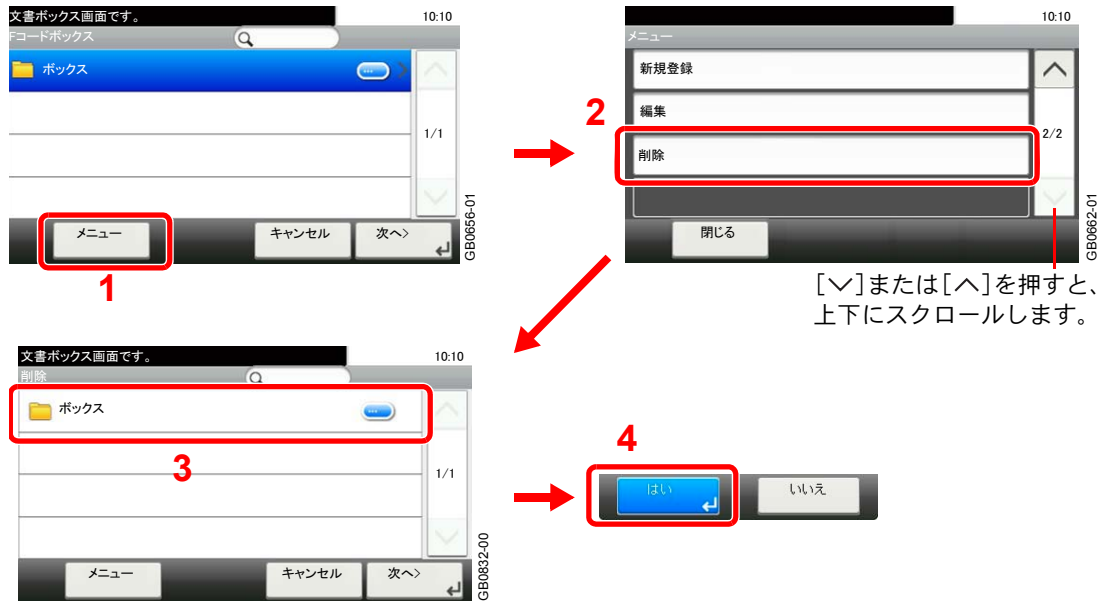
1 ボックスを選択する

変更するボックスを押して、設定を変更してください。

2 ボックス名の変更

文字の入力方法は、11-3ページの**文字の入力方法**を参照してください。

3 ボックス番号の変更

[＋][－]、またはテンキーでボックス番号を変更します。

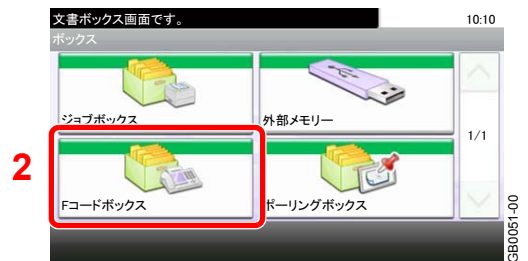
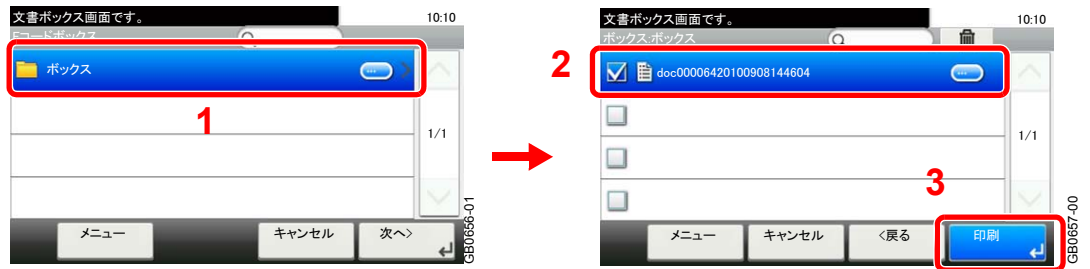
> **参考**
> 「00」が表示されている場合は、自動的に空いている番号を割り当てます。

4 Fコードサブアドレスの変更

文字の入力方法は、11-3ページの**文字の入力方法**を参照してください。

削除する

削除するボックスを押します。

Fコードボックスからの印刷のしかた

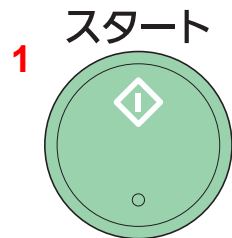
Fコードボックスへ送られた原稿は、次の操作を行って印刷してください。

1 画面を表示する

2 ファイルの選択

参考

Fコードボックスにパスワードが設定されているときに、次の場合はパスワードの入力が必要です。

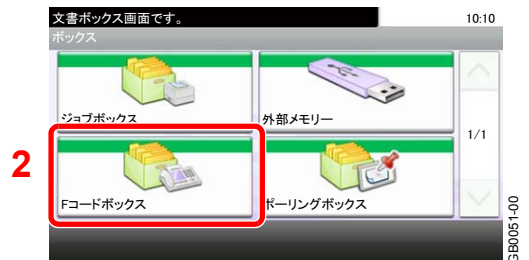
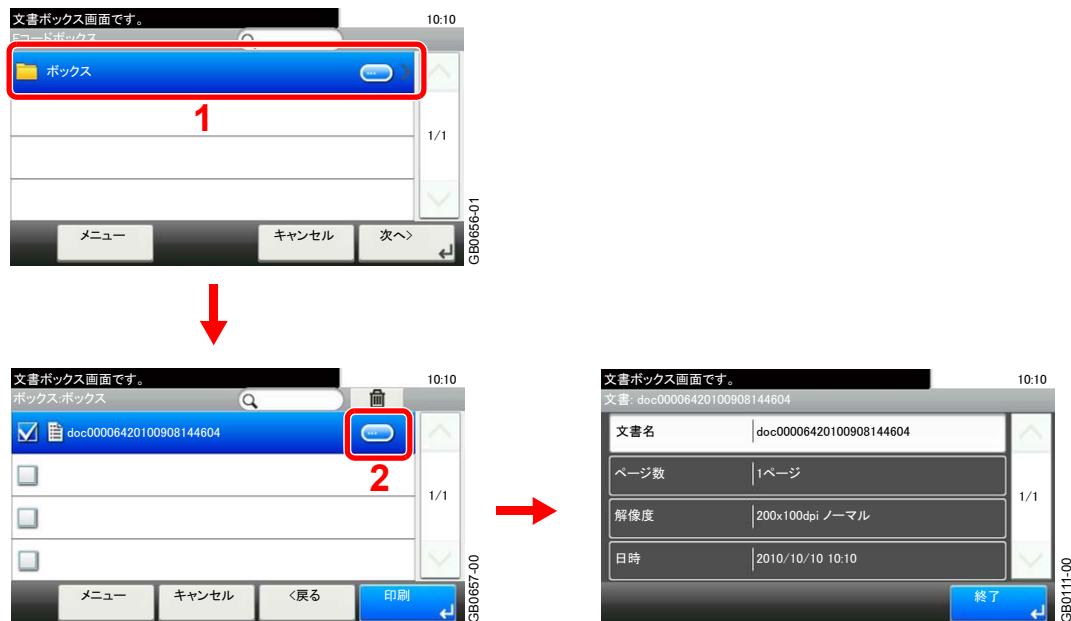
ユーザー管理が無効の場合

ユーザー管理が有効でユーザー権限でログインしているときに、別の所有者のFコードボックスを選択した場合

3 印刷する

印刷後削除や文書名入力を設定し、スタートキーを押すと印刷を開始します。

詳細情報の確認のしかた

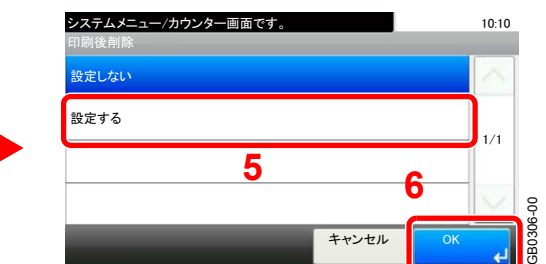
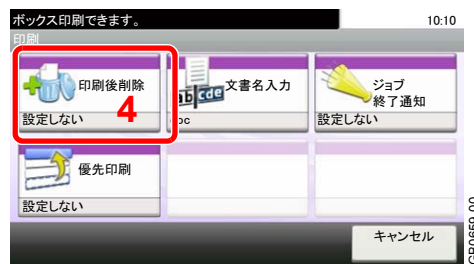
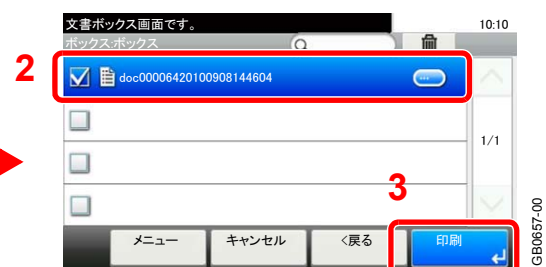
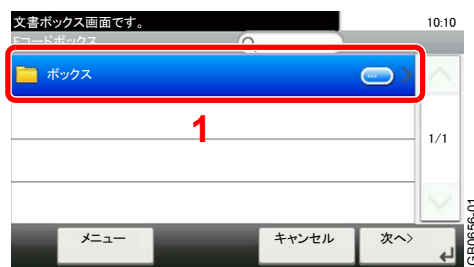
Fコードボックスへ送られた原稿の詳細情報を確認できます。

1 画面を表示する

2 ファイルの選択

詳細情報を確認する原稿の[...]を押してください。選択した原稿の詳細情報が表示されます。

Fコードボックス印刷後原稿の削除

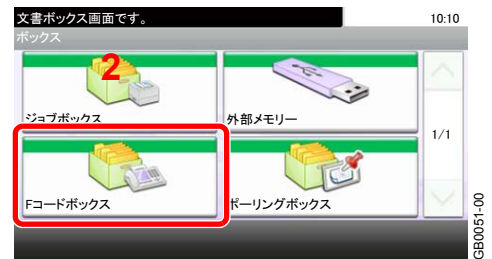
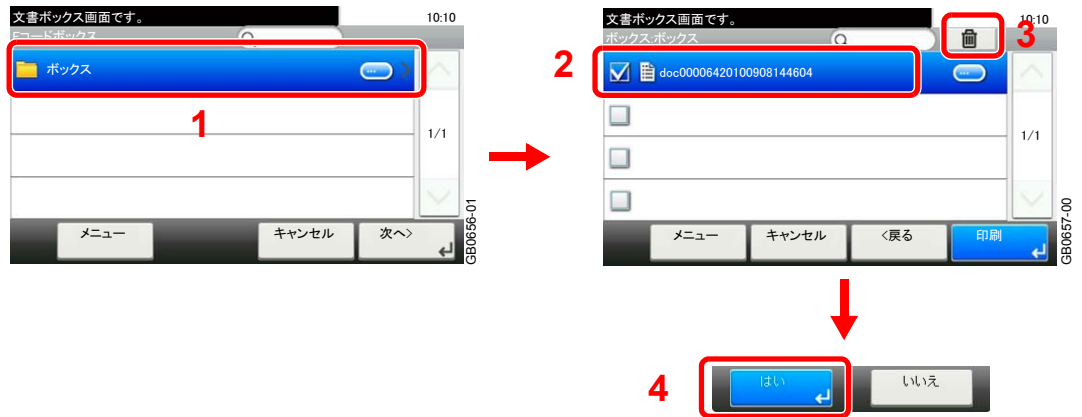
Fコードボックスに送信された原稿を、印刷後に自動的に削除できます。次の操作を行ってください。

1 画面を表示する

2 設定する

印刷後原稿は削除されます。

Fコードボックスからの削除のしかた

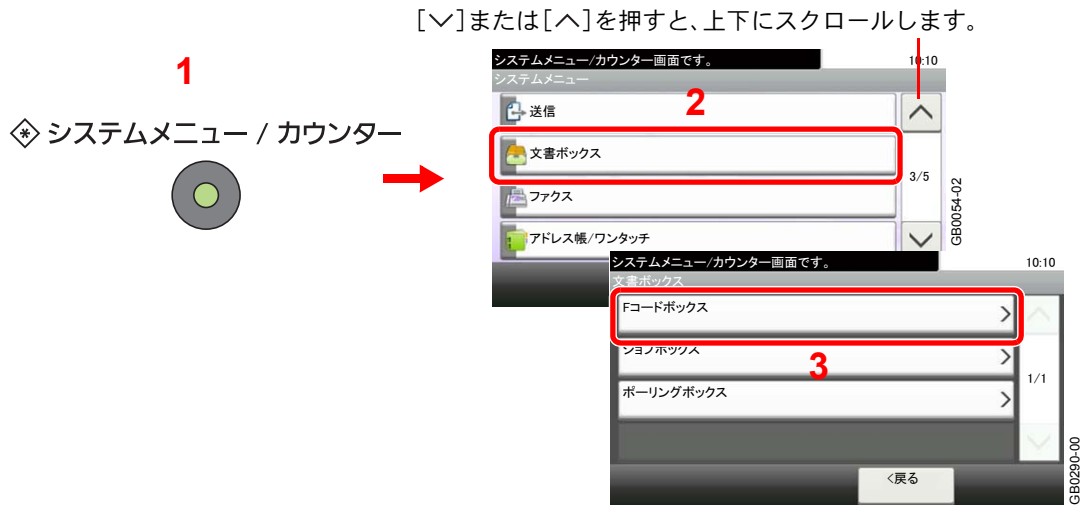
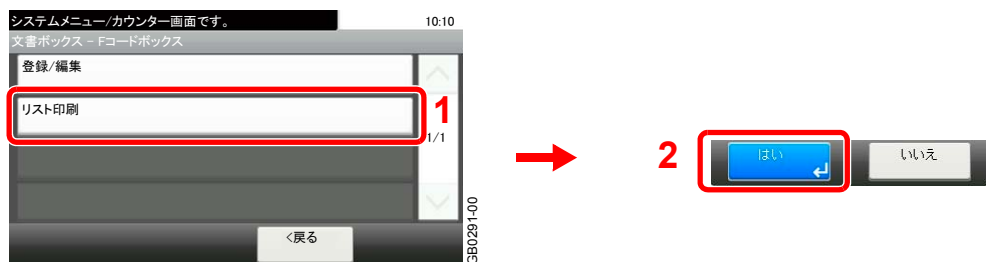
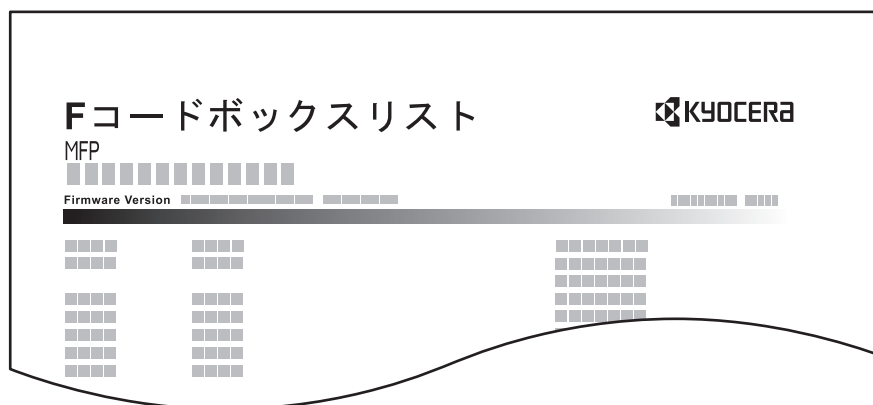
Fコードボックスへ送られた原稿を削除するときは、次の操作を行ってください。

1 画面を表示する

2 削除する

Fコードボックスリストの印刷のしかた

登録されているFコードボックスのボックス番号、ボックス名の一覧が記載されたFコードボックスリストを印刷することができます。また、Fコードボックスに原稿がある場合はそのページ数が表示されます。

参考
ユーザー管理が有効の場合は、管理者がログインしたときに印刷できます。

1 画面を表示する

［∨］または［∧］を押すと、上下にスクロールします。

2 印刷する

Fコード送信のしかた

相手先のFコードボックスを指定して送信する場合は、次の手順で行なってください。

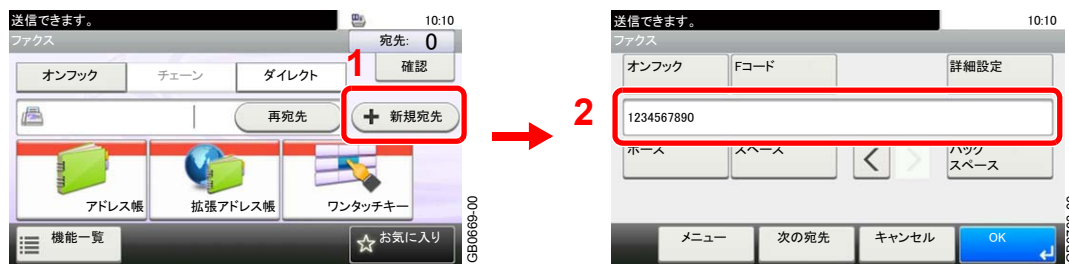
参考
Fコード送信を行う場合は、あらかじめ受信側に設定されているF コードサブアドレスとFコードパスワードを確認してください。

Fコード送信時は、暗号送信を行うことができません。

本機で受信する場合の設定方法は、6-14ページのF**コードボックスの登録のしかた**を参照してください。

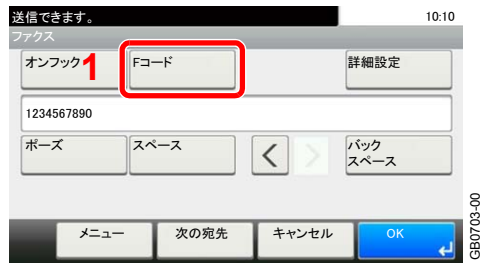
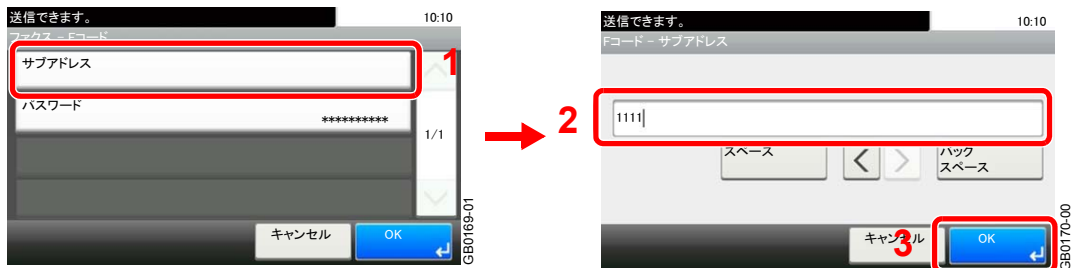
1 ファクスキーを押す

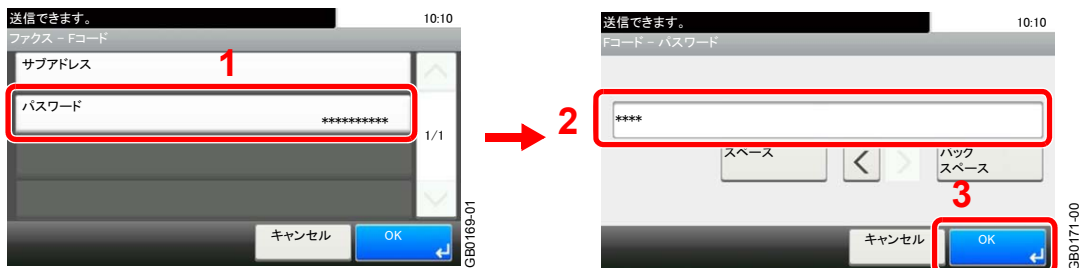
2 原稿をセットする

3 宛先を選択します

[新規宛先]を押して、相手先のファクス番号を入力してください。

参考
アドレス帳の宛先にFコードを登録している場合には、その宛先が使用できます。また、アドレス帳でFコードを登録している宛先をワンタッチキーに使用している場合はそれらも使用できます。

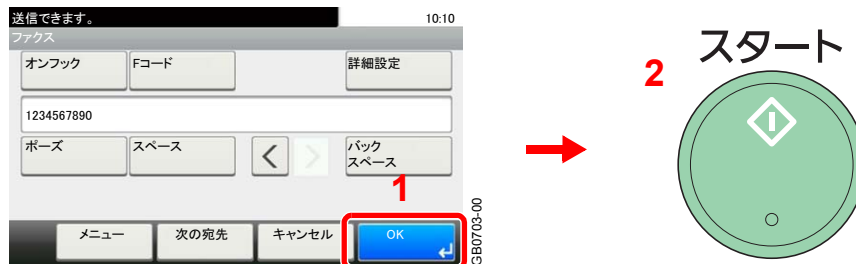
4 設定する

1 画面を表示する

2 サブアドレスを入力する

サブアドレスは、0～9の数字とスペース、「#」、「＊」の文字を使って、20桁まで入力できます。

3 パスワードを入力する

Fコードパスワードは0～ 9の数字とスペース、「#」、「＊」の文字を使って、20桁まで入力できます。

4 Fコードの入力を完了する

[OK]を押してください。

5 送信する

送信先を確認して、スタートキーを押してください。送信を開始します。

参考

「送信前の宛先確認画面の設定」を「設定する」に設定している場合は、スタートキーを押したときに、宛先確認画面が表示されます。詳しくは、8-12ページの宛先確認画面についてを参照してください。

ポーリング通信

ポーリング通信とは、受信側から操作して送信側の原稿を受信する通信方法です。受信側は自分の都合に合わせて原稿を受け取ることができます。本機では、ポーリング送信とポーリング受信ができます。

重要
この通信は、受信側から送信側にダイヤルする操作を行うため、電話料金は通常受信側の負担になります。

ポーリング送信

ポーリング送信用として原稿をポーリングボックスに保存します。相手先からのポーリング受信要求があると自動的に送信します。

相手先に送信されたポーリング送信用の原稿は自動的に削除されますが、送信済み文書削除を[設定しない]にしておけば、原稿は削除するまでポーリングボックスに保存されます。同じ原稿を何度でもポーリング送信することができます。

6-26ページの**ポーリング送信後原稿の削除**参照

参考
ポーリング送信用の原稿は10 件まで保存できます。

相手先からポーリング受信要求があるまでは、送信する原稿を後から追加、上書きすることができます。詳細は、6-27ページの**上書き保存許可設定**を参照してください。

ポーリング送信後原稿の削除

相手先に送信されたポーリング送信用の原稿を自動的に削除します。同じ原稿を複数の相手先にポーリング送信する場合は、[設定しない]にしてください。

1 画面を表示する

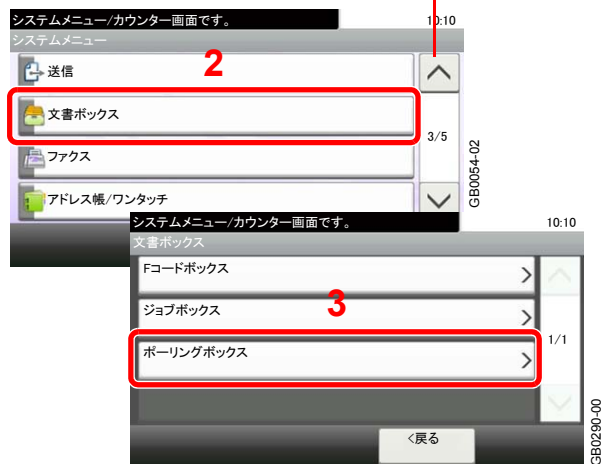
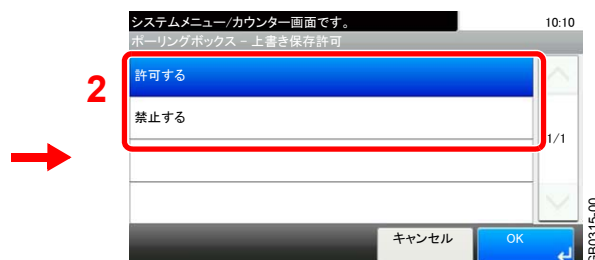
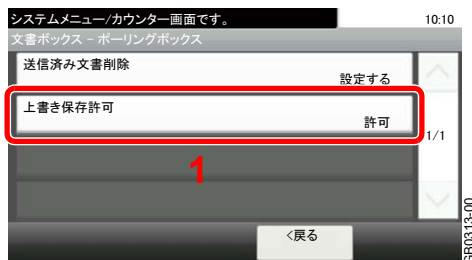
2 設定する

上書き保存許可設定

上書き保存するときは[許可する]にしてください。

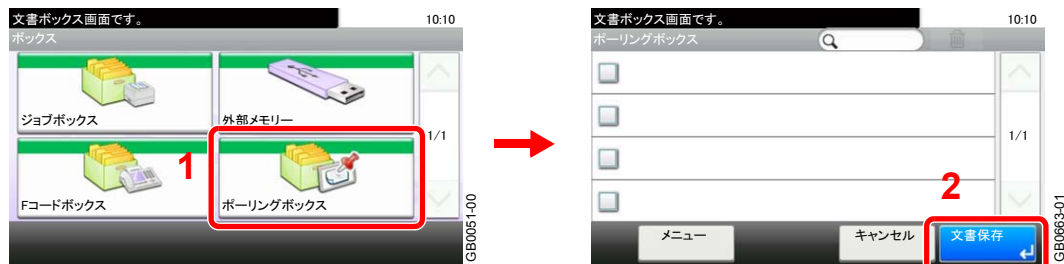
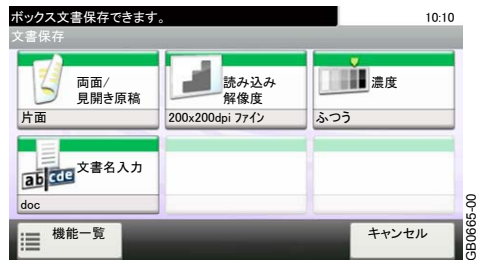
ポーリングボックスに保存された文書で、同じ文書名を付けた場合、上書き保存できます。

[禁止する]を設定した場合、同じ文書名を付けても、上書き保存されません。

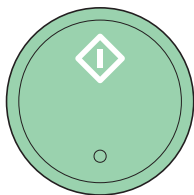
1 画面を表示する

2 設定する

ポーリング送信のしかた

1 文書ボックスキーを押す

2 原稿をセットする

3 画面を表示する

4 保存機能を設定する

機能		説明
両面/見開き原稿		原稿に合わせて、原稿の種類ととじ方向を選択します。
読み込み解像度		原稿をどの程度細かく読み込むかを選択します。
濃度		濃度を7段階から調整します。
文書名入力		ジョブに名前をつけます。ここでつけた名前、日時、ジョブ番号を使用して、ジョブの履歴やステータスの確認ができます。
機能一覧	原稿サイズ選択	原稿の読み込みサイズを選択します。
	原稿セット向き	原稿の上辺の向きを選択します。
	原稿サイズ混載	原稿送り装置を使用すると、サイズの異なる原稿をまとめてセットし、読み込むことができます。
	保存サイズ選択	保存する画像のサイズを選択します。
	原稿の画質	原稿の種類に合わせて、画質を選択します。
	縮小/拡大	送信・保存サイズに合わせて、原稿を自動的に縮小/拡大して読み込みます。
	連続読み込み	原稿の枚数が多くて原稿送り装置に一度にセットできないときに、数回に分けて読み込んで一括保存します。[読み込み終了]を押すまで、原稿を読み込み続けます。
	ジョブ終了通知	ジョブが終了すると、メールでお知らせします。

各機能については、4-1ページの**ファクスを送信する**または本体の使用説明書を参照してください。

5 保存する

スタートキーを押してください。原稿を読み込み、ポーリングボックスに保存します。

ポーリング送信の中止

ポーリング送信を中止するには、ポーリングボックス内に保存されているポーリング送信用原稿を削除してください。削除方法は、6-34ページの**ポーリングボックスからの削除のしかた**を参照してください。

ポーリング受信

受信側からダイヤルして、送信側に保存されている原稿を自動的に送信させる機能です。

参考
ポーリング受信は、複数の相手先を指定できません。暗号通信が登録されている宛先を指定した場合、暗号通信を無効にしてポーリング受信をします。

ポーリング受信を行うためには、相手先があらかじめポーリング送信を準備している必要があります。

さらに、Fコードを使用すると、次のような通信が可能になります。

Fコード掲示板受信

Fコードを使用することによって、相手先が他社機であっても、Fコード掲示板送信機能を備えていれば通信することができます。（本機ではFコードサブアドレスとFコードパスワードです。）

重要
相手先が、Fコード掲示板送信機能を備えていることが必要です。ファクスによっては、原稿を保存できなかったり、ポーリング送信ができなかったりする場合があります。それぞれの状況に合わせた機能が備わっていることを、送信側と受信側であらかじめ確認してください。

相手先に設定されているFコードサブアドレスとFコードパスワードをあらかじめ確認してください。

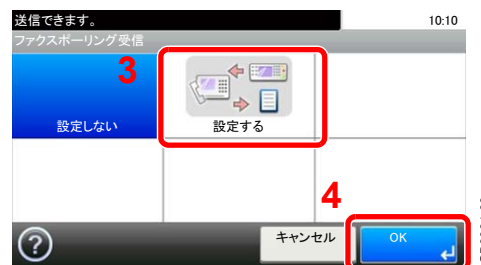
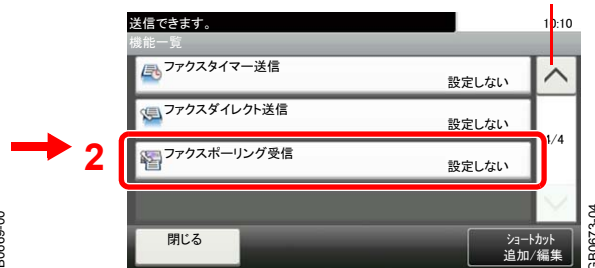
参考
Fコードについての詳細は、6-13ページの**F コード通信とは**を参照してください。

F コード掲示板通信での受信方法は、6-31ページの**Fコードを使用するポーリング受信のしかた**を参照してください。

ポーリング受信のしかた

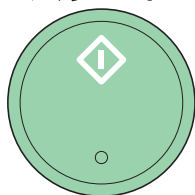
参考
相手先がFコードを使用しているときは、次の**Fコードを使用するポーリング受信のしかた**を参照してください。

1 **ファクスキーを押す**

2 **ポーリング受信を設定します**

3 **宛先を選択します**

宛先の選択方法は、3-1ページの**相手先の入力方法**を参照してください。

4 **スタートキーを押す**

スタートキーを押してください。受信のための動作を開始します。

参考
「送信前の宛先確認画面の設定」を「設定する」に設定している場合は、スタートキーを押したときに、宛先確認画面が表示されます。詳しくは、8-12ページの宛先確認画面についてを参照してください。

Fコードを使用するポーリング受信のしかた

ポーリング受信時に、相手先で設定されているFコード（本機ではFコードサブアドレスとFコードパスワード）を入力します。相手先が他社機であっても、同様のFコード通信機能を備えていれば通信が可能です。

重要
相手先に設定されているFコードをあらかじめ確認してください。

1 ファクスキーを押す

2 ポーリング受信を設定します

ポーリング受信の設定方法は、6-30ページの**ポーリング受信のしかた**を参照してください。

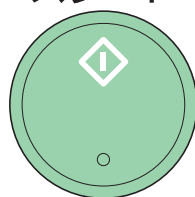
3 宛先を選択し、Fコード設定します

Ｆコードの設定方法は、**Fコード送信のしかた**を参照してください。

宛先の選択方法は、3-1ページの**相手先の入力方法**を参照してください。

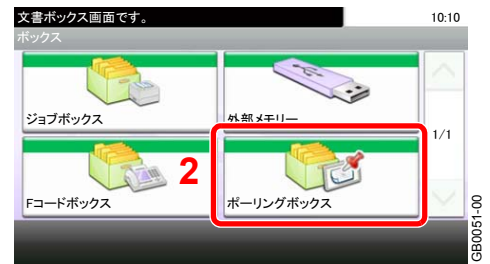
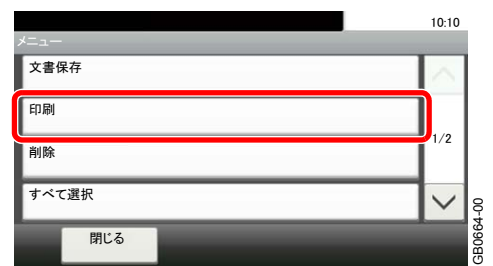
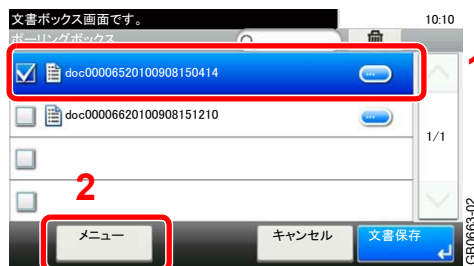
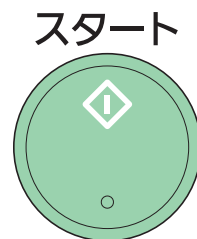
参考
宛先は、テンキー入力、Fコードが登録されているアドレス帳およびワンタッチキーを組み合わせて選択することができます。

4 スタートキーを押す

スタートキーを押してください。受信のための動作を開始します。

参考
「送信前の宛先確認画面の設定」を「設定する」に設定している場合は、スタートキーを押したときに、宛先確認画面が表示されます。詳しくは、宛先確認画面についてを参照してください。

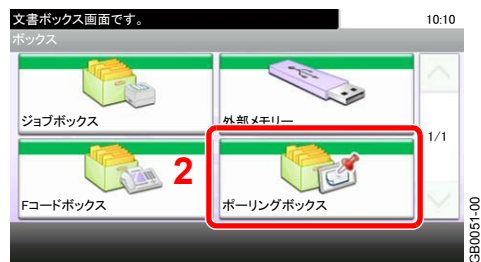
ポーリングボックスからの印刷のしかた

ポーリングボックスに保存されている原稿を印刷できます。

1 画面を表示する

2 ファイルの選択

3 印刷する

文書名入力やジョブ終了通知を設定し、スタートキーを押すと印刷を開始します。

詳細情報の確認のしかた

ポーリングボックスに保存されている原稿の詳細情報を確認できます。

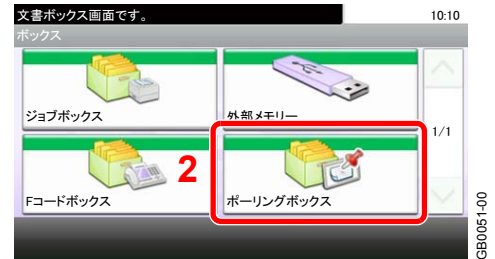
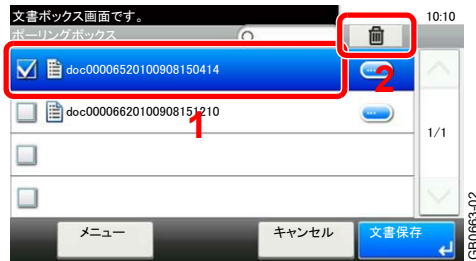
1 画面を表示する

2 ファイルの選択

詳細情報を確認する原稿の[...]を押してください。選択した原稿の詳細情報が表示されます。

ポーリングボックスからの削除のしかた

ポーリングボックスに保存されている原稿を削除します。

参考
送信済み文書削除を[設定する]にしている場合は、ポーリング送信後の原稿は自動的に削除されます。(6-26ページ参照)

1 画面を表示する

2 削除する

削除する原稿を選択し、[(削除)](ゴミ箱のアイコン)を押します。

暗号通信

送信側で原稿を暗号化して通信する方法です。したがって、通信途中にある送信原稿を第3者が何らかの方法により盗み見ようとした場合でも、本当の原稿の内容を知ることはできません。送られた原稿は受信側で元の原稿に戻して（平文化されて）印刷されます。第3者には絶対に知られてはならないような極秘の機密文書などを送る際に非常に有効な通信方法です。

重要
暗号通信を行うためには、相手機が同方式の暗号通信機能を備えた弊社機であることが必要です。

暗号通信では、原稿の暗号化、平文化を行うために、送信側と受信側で同じ16桁の暗号鍵を使用しますが、その暗号鍵が送信側と受信側で合致しない場合、暗号通信は成立しません。したがって、送信側と受信側であらかじめ取り決めを行い、両者で同じ暗号鍵を2桁の鍵番号と一緒に登録しておく必要があります。

送信・受信側での設定内容

設定内容	送信側	受信側	参照ページ
暗号鍵番号	(A)2桁	(B)2 桁	6-35ページ
暗号鍵	(C)16桁	(C)16 桁	6-35ページ
アドレス帳（または直接ダイヤル入力時）の鍵番号	(A)2 桁	—	6-38ページ
送信先暗号ボックス番号*	(D)4 桁	—	6-38ページ
暗号ボックス番号*	—	(D)4桁	—
受信設定での鍵番号	—	(B)2 桁	6-41ページ

*　本機で受信する場合は、暗号ボックスを使用しません。

参考
アルファベットが同じものは同じ文字列を設定してください。例えば、暗号鍵（C）は送信、受信側で同じ文字列です。

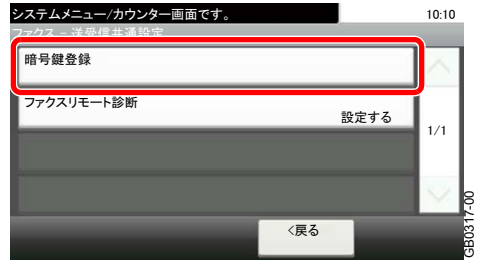
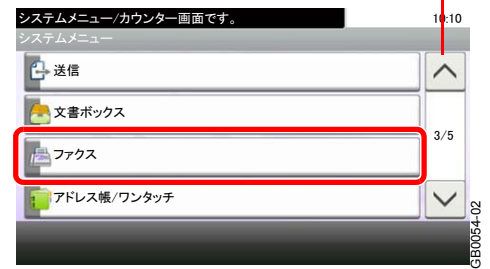
暗号鍵の登録のしかた

暗号鍵は、送信側では暗号通信用として使用するアドレス帳を登録する（または直接テンキーで相手先を入力する）ときに、受信側では暗号受信設定をするときに必要になります。

暗号鍵の作成には、0～9までの数字とアルファベットのA～Fの文字を使用し、それらを任意に16個ならべたものが暗号鍵となります。作成した暗号鍵には、01～20の2桁の鍵番号をつけて登録します。

参考
暗号鍵は20個まで登録することができます。

1 画面を表示する

［∨］または［∧］を押すと、上下にスクロールします。

2 設定する

未登録の暗号鍵の[...]を押して、暗号鍵（16桁）を入力し、[OK]を押してください。

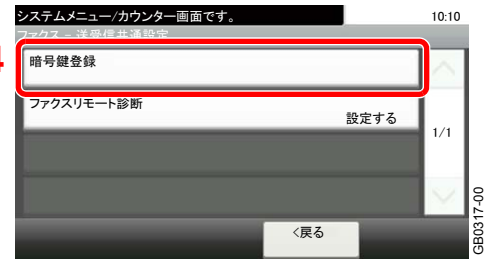
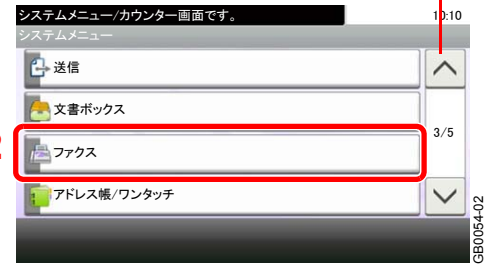
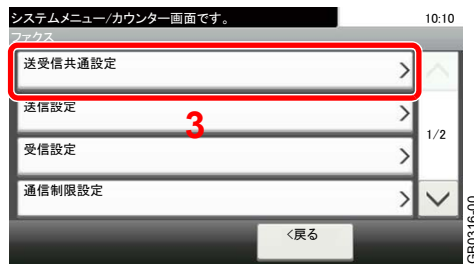
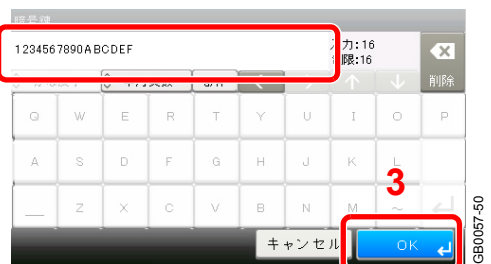
他の暗号鍵を登録するときは手順2の1～3を繰り返してください。

> **参考**
> 暗号鍵は、数字（0～9）とアルファベット（A～F）を使って登録してください。

3 登録を終了する

［終了］を押してください。

暗号鍵の登録内容の変更/削除のしかた

1 画面を表示する

2 変更/削除する

変更する

変更する暗号鍵の[...]を押して、暗号鍵を入力しなおして、[OK]を押してください。

削除する

削除する暗号鍵を選択し、[(削除)](ゴミ箱のアイコン)を押します。

3 変更/削除を終了する

[終了]を押してください。

暗号送信のしかた

暗号送信を行う場合は、暗号通信用として登録したアドレス帳を使用します。または、直接テンキーでダイヤルするときに暗号送信を設定して送信してください。

参考
暗号送信は、同報送信でも行うことができます。暗号通信時は、Fコード送信を行うことができません。

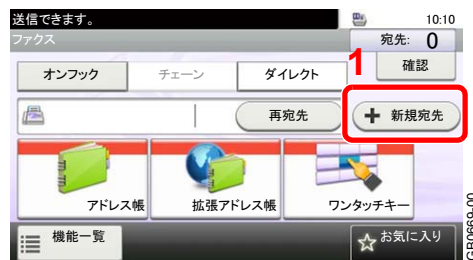
1 事前に暗号鍵を登録しておく

受信側と取り決めた暗号鍵を登録してください。

暗号鍵の登録のしかたは、6-35ページの**暗号鍵の登録のしかた**を参照してください。

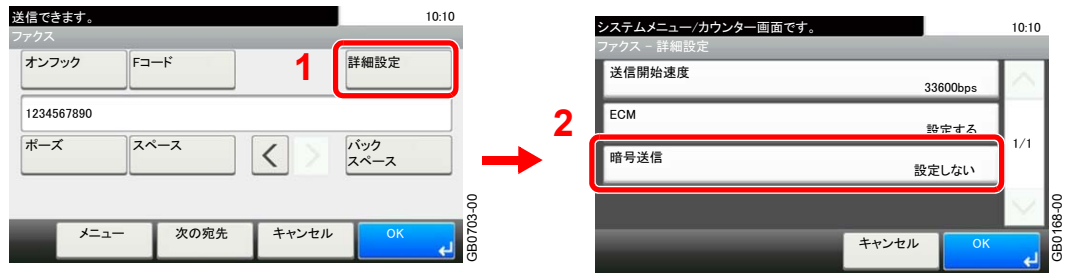
2 ファクスキーを押す

3 原稿をセットする

4 宛先を選択します

[新規宛先]を押して、相手先のファクス番号を入力してください。

参考
アドレス帳またはワンタッチキーの宛先に暗号送信の設定がされている場合には、その宛先が使用できます。

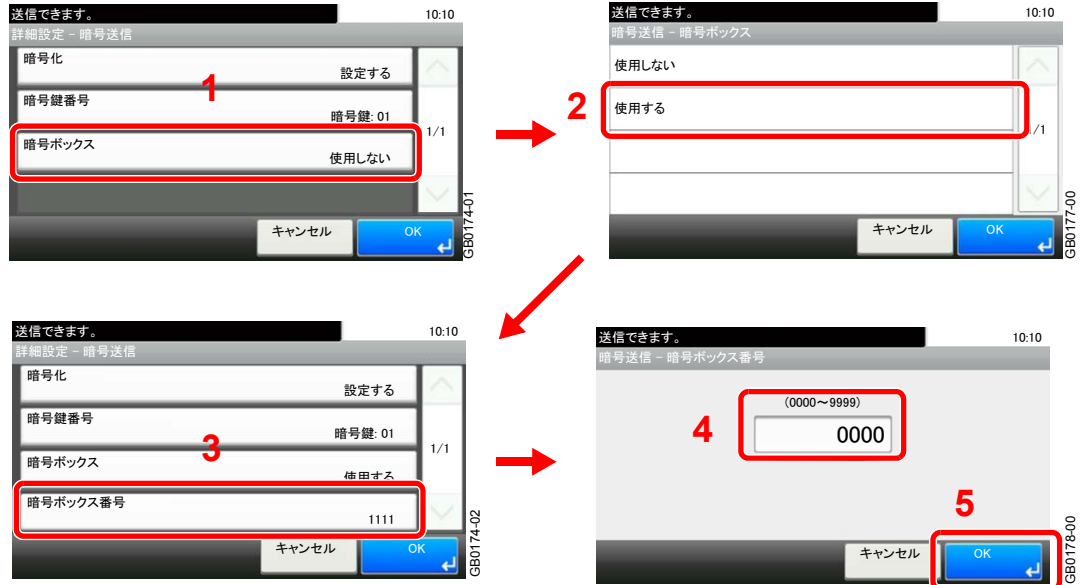
5 暗号送信を設定する

1 画面を表示する

2 暗号化で[設定する]を選択します

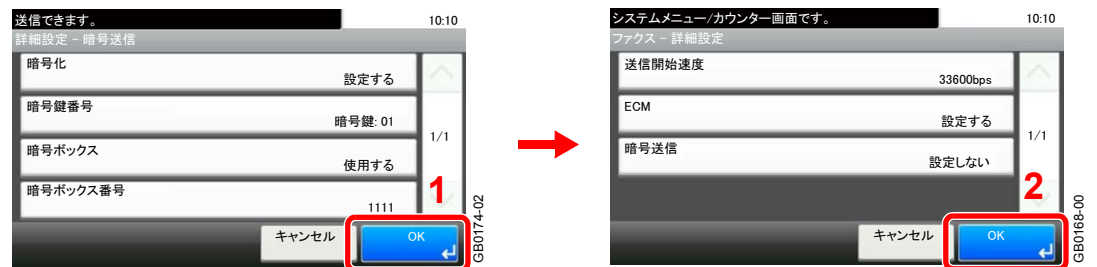
3 暗号鍵番号を選択します

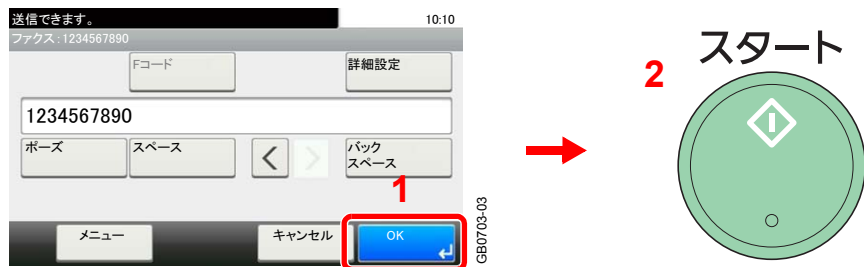
受信側と取り決めた暗号鍵を登録した暗号鍵番号を選択してください。

暗号鍵の登録のしかたは、6-35ページの**暗号鍵の登録のしかた**を参照してください。

4 暗号ボックスを選択します

暗号ボックスの選択が必要な場合は、暗号ボックスを設定してください。

暗号ボックス番号を入力する場合は、テンキーで暗号ボックス番号（0000～9999）を入力して、[OK]を押してください。

5 暗号送信の設定を完了する

[OK]を押してください。

6 送信する

送信先を確認して、スタートキーを押してください。送信を開始します。

参考

「送信前の宛先確認画面の設定」を「設定する」に設定している場合は、スタートキーを押したときに、宛先確認画面が表示されます。詳しくは、8-12ページの宛先確認画面についてを参照してください。

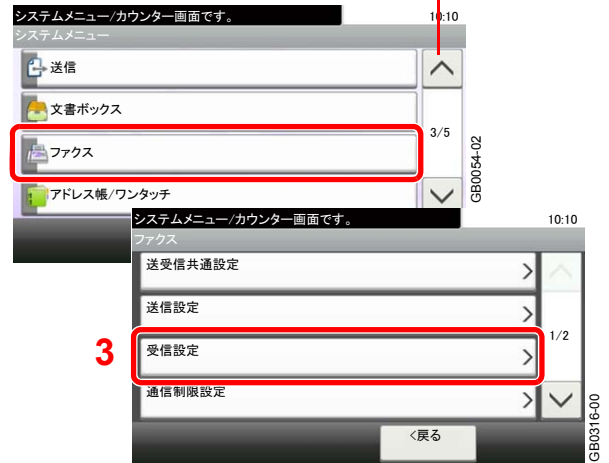
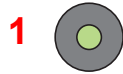
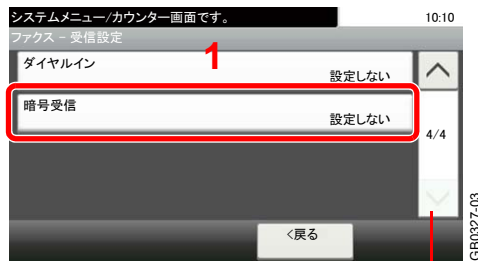
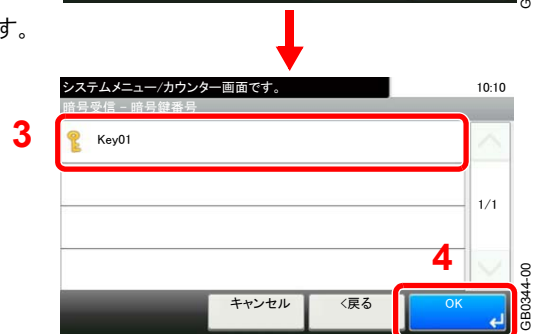
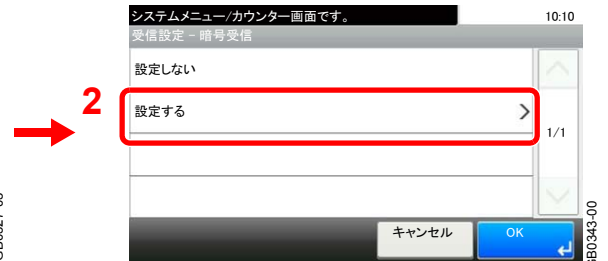
暗号受信の設定のしかた

暗号通信を行う場合、受信側では次の手順にしたがって操作を行ってください。

1 事前に暗号鍵を登録しておく

送信側と取り決めた暗号鍵を登録してください。

暗号鍵の登録のしかたは、6-35ページの**暗号鍵の登録のしかた**を参照してください。

2 画面を表示する

3 暗号受信を設定する

暗号受信を設定するときは、[設定する]を選択し、暗号鍵番号を選択してください。

暗号鍵番号は、送信側と取り決めた暗号鍵を登録した暗号鍵番号を選択してください。

相手先から暗号送信を受信することができます。

Network FAX

Network FAXとは、本機に接続されたコンピューターでファクスの送/受信をする機能です。主な特徴は次のとおりです。

- コンピューターで作成した書類を、印刷することなくファクス送/受信が可能
- 宛先指定にアドレス帳(本体内/コンピューター内)を利用可能
- 送付状の添付
- 送信と同時に印刷も可能
- 送信結果のメール通知
- Fコード通信対応
- 印刷と同じ簡単操作

Network FAXの送信の流れ

Network FAXの送信は次の流れで行います。

本機にネットワーク接続されたコンピューターで書類を作成

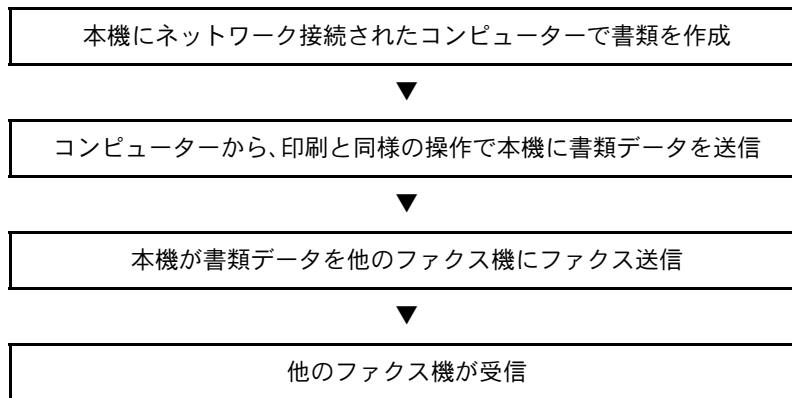
▼

コンピューターから、印刷と同様の操作で本機に書類データを送信

▼

本機が書類データを他のファクス機にファクス送信

▼

他のファクス機が受信

Network FAXの受信の流れ

Network FAXの受信は次の流れで行われます。

他のファクス機が本機にファクスを送信

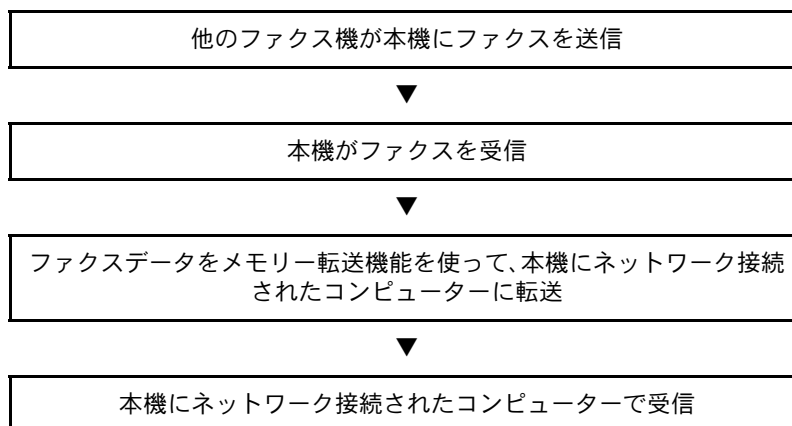
▼

本機がファクスを受信

▼

ファクスデータをメモリー転送機能を使って、本機にネットワーク接続されたコンピューターに転送

▼

本機にネットワーク接続されたコンピューターで受信

参考
メモリー転送では、ネットワーク上のコンピューターで受信する以外にも、受信したファクスをメールで転送したり、他のファクスに転送したりできます。

セットアップする

Network FAX を使用するためには、次の準備が必要です。

セットアップの流れ

コンピューターとの接続

ネットワークケーブルで本体とコンピューターを接続します。詳細は、本体の使用説明書を参照してください。

本体の登録

メモリー転送機能で受信先コンピューターやファイル形式を選択します。

参考
メモリー転送機能では、コンピューターへの転送や、受信したファクスをメールの添付ファイルにして転送することもできます。詳細は、6-2ページのメモリー転送を参照してください。

コンピューターへのソフトウェアのインストール

Network FAXを使うために必要な専用ソフト（同梱CD-ROM に収録）をコンピューターにインストールします。6-44ページのNetwork FAXドライバーのインストールを参照してください。

Network FAX ドライバー使用説明書（オンラインマニュアル）について

Network FAX ドライバー使用説明書（オンラインマニュアル）は、PDF（Portable Document Format）形式で付属のCD-ROM に収録されています。主な内容は次のとおりです。

- Network FAXドライバーのインストールのしかた
- Network FAX送信のしかた
- Network FAX送信の設定のしかた
- 送付状の設定のしかた

オンラインマニュアルの開きかた

オンラインマニュアルを参照するときは、次の手順で行ってください。

1 本体に付属するCD-ROMをCD-ROMドライブに挿入してください。使用許諾についての説明が表示されます。契約条件に同意する場合は、同意するをクリックしてください。メインメニュー画面が表示されます。

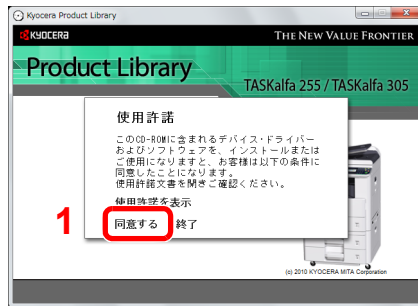
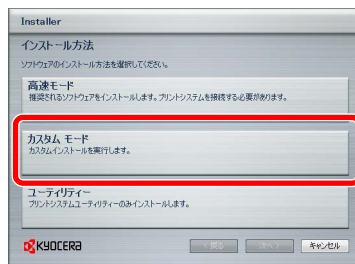
2 ソフトウェア説明書→ Network FAX ドライバー操作手順書の順にクリックしてください。オンラインマニュアルが開きます。

参考
オンラインマニュアルをご覧になるにはAdobe Acrobat Reader8.0以上がインストールされている必要があります。

Network FAXドライバーのインストール

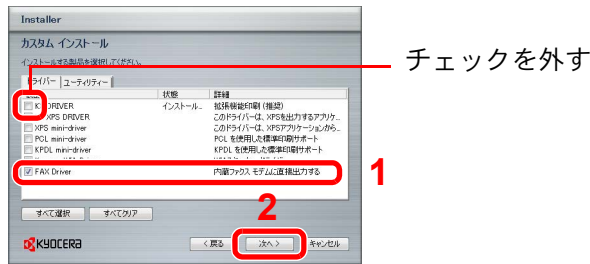
Network FAXを使用するコンピューターにNetwork FAXドライバーをインストールします。（画面はWindows 7です。）

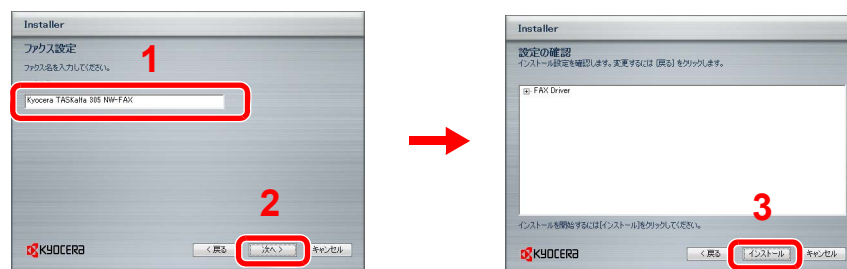
参考
詳しいインストールの手順については、Network FAX ドライバー操作手順書を参照してください。

1 インストール画面を表示する

2 カスタムモードを選択する

3 本体を選択する

参考
本機の電源が入っていないと検出されません。本機が検出されない場合、本機とコンピューターがネットワークで接続され、本機の電源が入っていることを確認して、[更新]をクリックしてください。

[ユーザー選択]でインストールする場合は、Network FAX ドライバー操作手順書を参照してください。

4 FAX Driverを選択する

[KX DRIVER]のチェックマークを外し、[FAX Driver]にチェックマークを入れて[次へ]をクリックしてください。

5 ウィザードの指示にしたがって、インストールの操作を行ってください。

基本的な送信の方法

1 送信する原稿を作成する

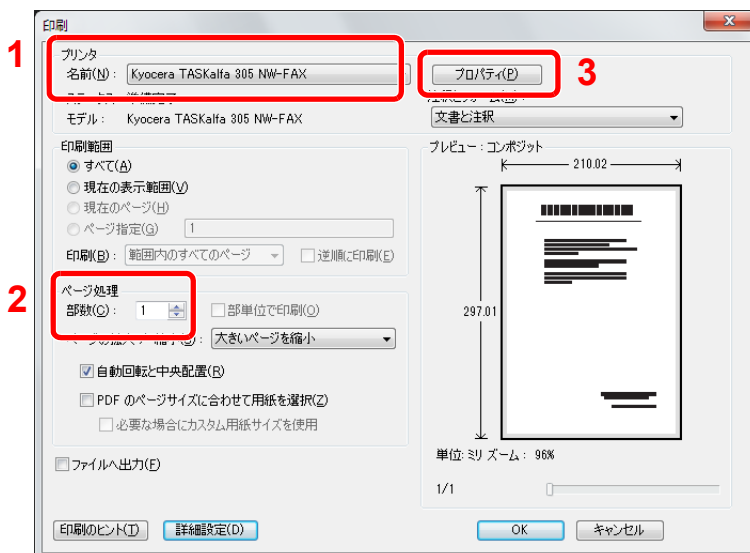
1 コンピュータ上で任意のアプリケーションで送信する原稿を作成してください。

2 ファイルメニューから[印刷]を選択してください。使用されているアプリケーションの印刷画面が開きます。

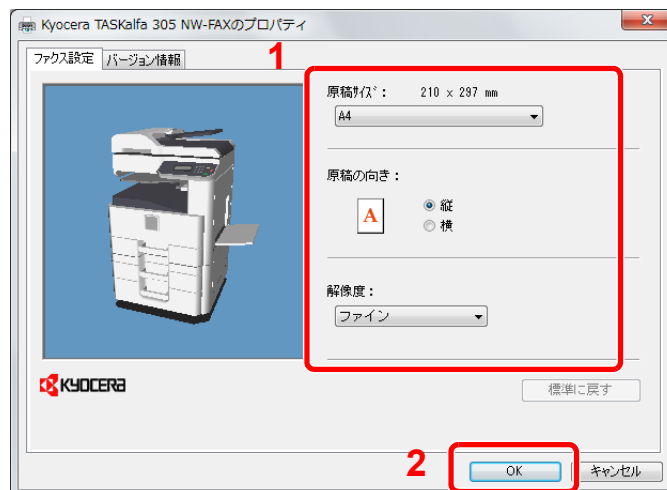
2 印刷画面で設定する

1 プリンタ名リストで使用する本体の製品名を選択してください。

2 印刷ページなどの設定を行ってください。

参考
印刷部数は1部になっていることを確認してください。以下の画面はご使用のアプリケーションによって異なります。

3 ［プロパティ］をクリックしてください。プロパティウィンドウが開きます。

3 ファクス設定タブで設定する

1 ファクス設定タブが開いている状態で、原稿サイズなど送信設定を行い、[OK]をクリックしてください。

設定方法は、6-47ページの**ドライバーの初期設定をする**を参照してください。

2 アプリケーションの印刷画面に戻ります。[OK]をクリックしてください。送信設定画面が表示されます。

4 送信設定画面で設定する

送信設定画面では、送信時刻を設定したり、Fコードの設定などができます。

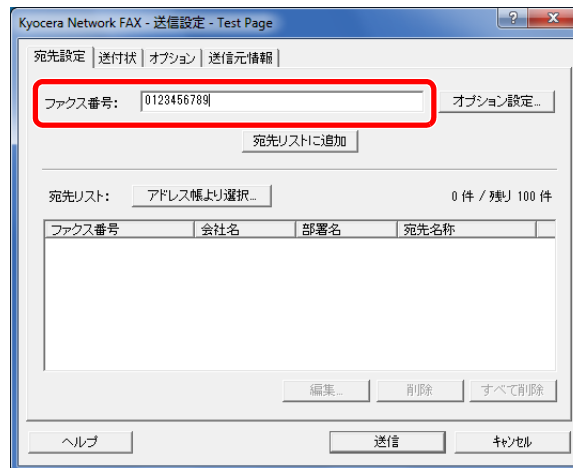
詳しい設定については、**Network FAX ドライバー操作手順書**を参照してください。

5 送付状を設定する

送付状を使用するときは、[**送付状**]タブで設定を行なってください。

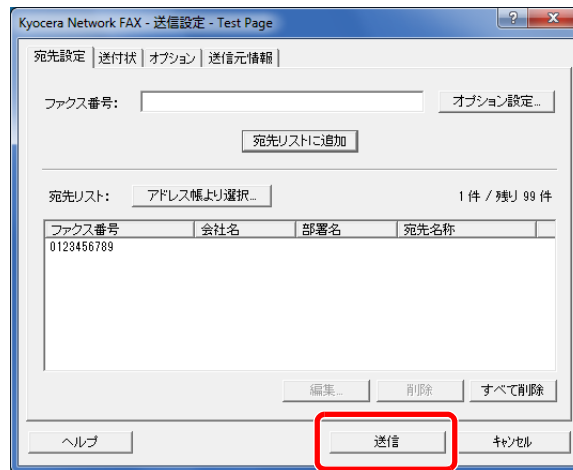
詳しい設定については、**Network FAX ドライバー操作手順書**を参照してください。

6 送信先を設定する

1 送信先のファクス番号をキーボードより入力してください。

2 [**宛先リストに追加**]をクリックしてください。送信先の情報が宛先リストに表示されます。複数の相手先に送るときは、操作を繰り返し行なってください。

3 アドレス帳を使用するときは、[**アドレス帳より選択**]をクリックして、送信先を選択してください。

アドレス帳の使用方法や登録方法は、Network FAX **ドライバー操作手順書**を参照してください。

7 送信する

[**送信**]をクリックしてください。送信を開始します。

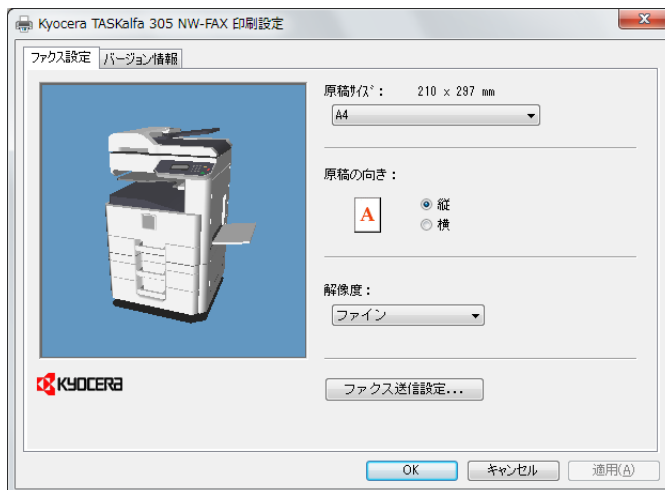
ドライバーの初期設定をする

印刷設定画面のファクス設定タブで原稿サイズなど送信条件をここで設定してください。

1 画面を表示する

1 スタートボタンから[**コントロールパネル**]、[**ハードウェアとサウンド**]の[**デバイスとプリンタ**]と順にクリックしてください。

2 使用する本体の製品名を右クリックし、ドロップダウンメニューから[**印刷設定**]を選択してください。印刷設定画面が開きます。

2 設定する

次の項目が設定できます。

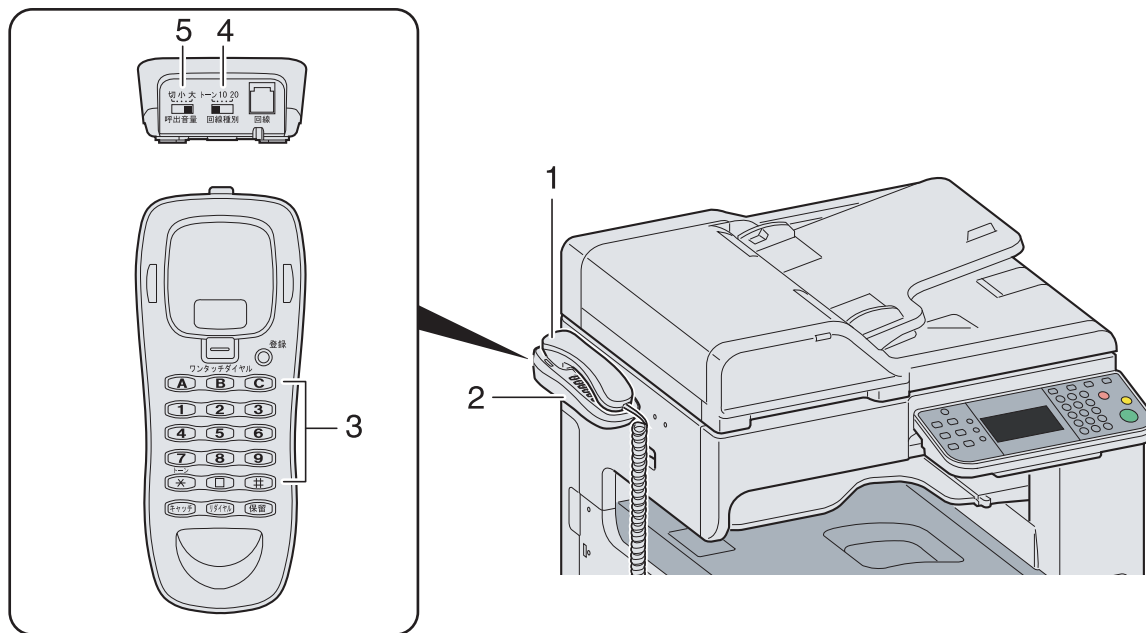
項目	詳細
原稿サイズ	ドロップダウンリストから送信する原稿サイズを選択してください。 設定値：A3、A4、A5、Folio、B4、B5(JIS)、Letter、Legal、Ledger(11 x 17)、Statement
原稿の向き	チェックボックスで原稿の出力向きを縦または横のどちらか選択してください。 設定値：縦、横
解像度	ドロップダウンリストから送信する原稿の解像度を選択してください。 設定値：ノーマル、ファイン、ウルトラファイン
ファクス送信設定	送信条件の初期設定をするときは[**ファクス送信設定**]をクリックしてください。初期設定画面が表示されます。 設定方法は、Network FAX **ドライバー操作手順書**を参照してください。

7　ハンドセットや外付け電話機を使用する

この章では、次の項目について説明します。

ハンドセットについて

本機で音声通話ができるようになります。また、手動での送/ 受信の際にも使用します。

1　受話器…会話をするときに使用します。

2　ハンドセット本体…受話器を上げて、ダイヤルをします。使用しないときは、受話器を置いてください。

3　ダイヤルボタン…相手先の電話番号を入力します。

4　回線種別切替スイッチ…電話回線の種類を切り替えます。契約している電話回線の種別に合わせて次の3 種類から選択してください。

- 10：ダイヤル（パルス）回線の10PPS
- 20：ダイヤル（パルス）回線の20PPS
- トーン：プッシュ（トーン）回線

参考

回線種別を誤って選択すると、電話をかけたり、原稿の送信ができなくなりますのでご注意ください。

5　呼び出し音量調節スイッチ…呼び出し音の音量を切り替えます。

- 大：音量大
- 小：音量小
- 切：呼び出し音は鳴りません

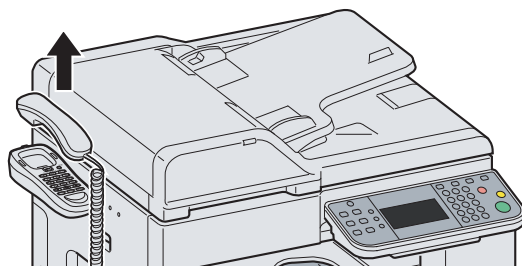
電話のかけかた

電話をかけるときは、次の手順で行ってください。

> **参考**
> 電話の受けかたは、7-9ページの**手動受信**を参照してください。

1 ファクスの送/受信が行われていないことを確認する

処理中ランプが消灯しているのを確認してください。

2 ハンドセットを上げる

> **参考**
> タッチパネルの[オンフック]を押すことも可能です。このとき、音声は本体側のスピーカーから聞こえます。

3 相手先の番号をダイヤルする

ハンドセットのダイヤルボタンまたは、オンフックの場合は本体操作パネルのテンキーを使って、相手先の番号を入力してください。

4 相手先が応答したら会話をしてください

> **参考**
> 手順2で[オンフック]を押したときは、相手の声が本体側のスピーカーから聞こえます。ハンドセットを上げてください。相手と話ができます。

5 会話の終了

会話が終わったら、ハンドセットをハンドセット台に置いてください。

ファクス/電話自動切替受信

1回線で電話とファクスの両方を使用するときに便利な受信方法です。ファクス原稿が送られてくれば自動的に受信し、相手先が電話のときは本機で呼び出し音が鳴り、応答を促します。

重要
ファクス/電話自動切替受信するためには、本機にオプションのハンドセットまたは電話機（市販品）を接続することが必要です。

電話機で呼び出し音が設定回数分鳴った後は、受信側が応答しない場合でも発信側に電話料金がかかります。

受信の流れ

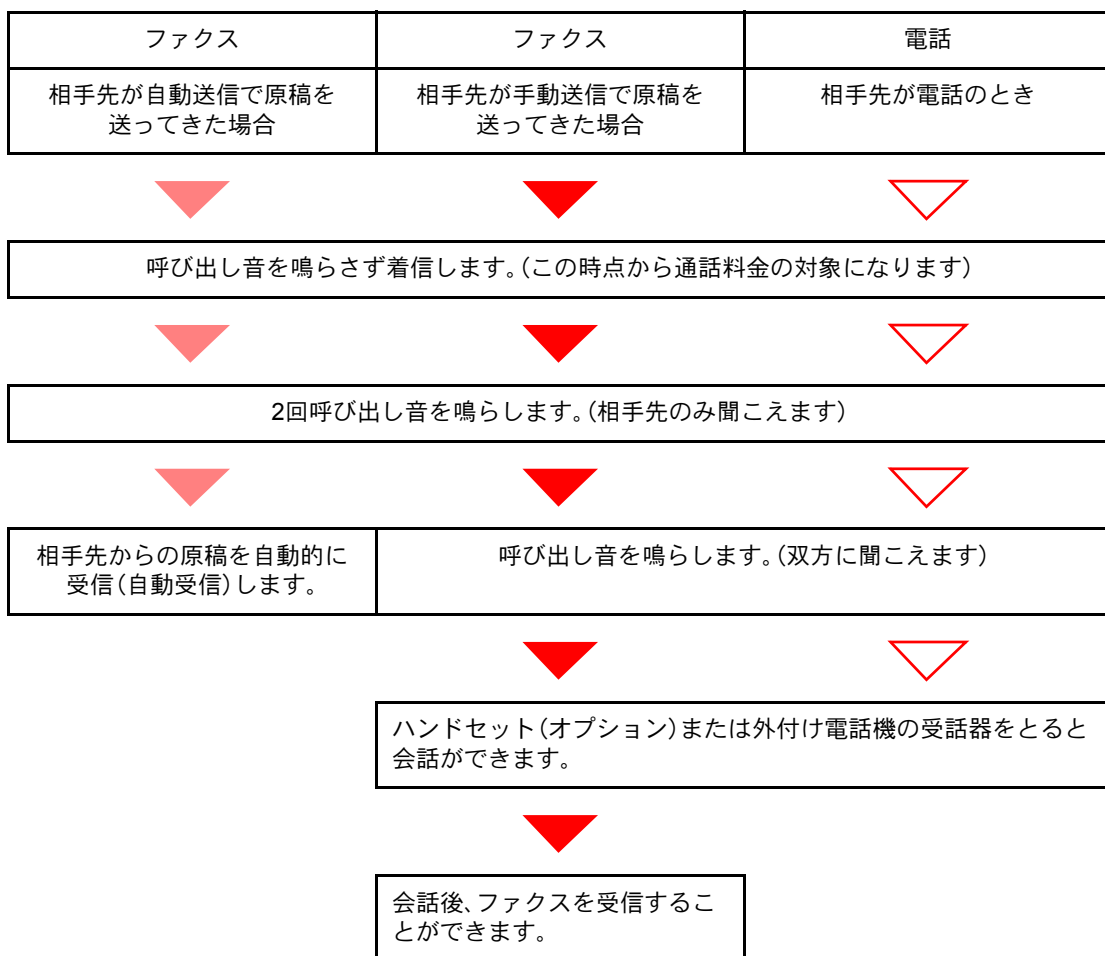
ファクス	ファクス	電話
相手先が自動送信で原稿を送ってきた場合	相手先が手動送信で原稿を送ってきた場合	相手先が電話のとき

呼び出し音を鳴らさず着信します。（この時点から通話料金の対象になります）

2回呼び出し音を鳴らします。（相手先のみ聞こえます）

相手先からの原稿を自動的に受信（自動受信）します。	呼び出し音を鳴らします。（双方に聞こえます）

ハンドセット（オプション）または外付け電話機の受話器をとると会話ができます。

会話後、ファクスを受信することができます。

参考
会話終了後に手動で受信することもできます。（7-9ページの**手動受信**参照）

準備事項

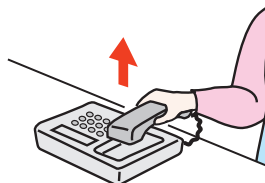
ファクス受信方法を［自動（ファクス/電話）］に設定する。9-6ページの**ファクス設定**を参照してください。

1 相手先からの呼び出し

まず接続された電話機（またはオプションのハンドセット）で呼び出し音が鳴ります。ただし、呼び出し音が鳴る回数（ファクス/電話自動切替用）が「0」に設定されている場合は呼び出し音が鳴りません。

参考
呼び出し音が鳴る回数は変更することができます。（9-6ページの**ファクス設定**参照）

2 応答します

相手先が電話のとき

1 本機で呼び出し音が鳴り、応答を促します。30秒間以内に電話の受話器を上げてください。

参考
30秒間以内に受話器を上げない場合、ファクスの受信に切り替わります。

2 会話をしてください。

参考
会話終了後に手動で受信することもできます。（7-9ページの**手動受信**参照）

相手先がファクスのとき

ファクスの受信を開始します。

ファクス/留守番電話自動切替受信

留守番電話機とファクスを併用するときに便利な方法です。ファクス原稿が送られてくれば自動的に受信し、相手先が電話のときは接続された留守番電話機の機能にしたがうため、不在の場合には相手先からのメッセージを留守番電話に残すことができます。

重要

ファクス/ 留守番電話自動切替受信機能の使用時、相手先からの電話がつながってから、1 分間経過するまでの間に30 秒以上無音状態が続くと、本機の無音検出機能が働き、ファクス受信に切り替わります。

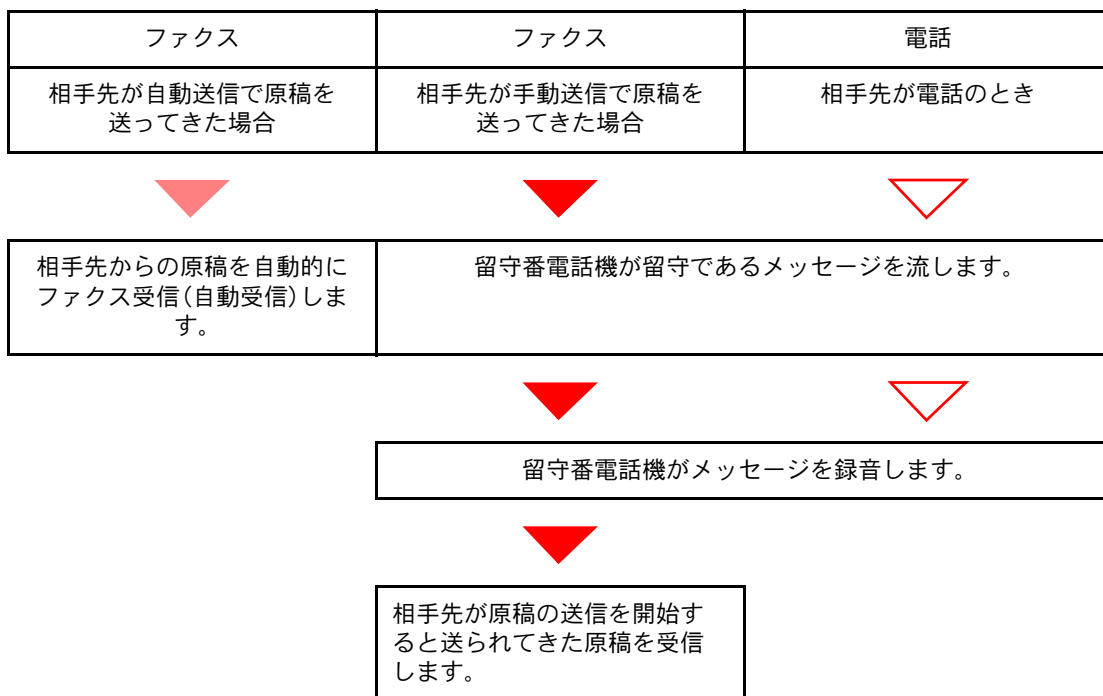
参考

ファクス/留守番電話自動切替受信をするためには、本機に留守番機能付電話機（市販品）を接続することが必要です。

応答メッセージ等は、各留守番電話機の使用説明書を参照してください。

本機の呼び出しベルの回数は、留守番電話の呼び出しベルの回数よりも多くしてください。
（9-2ページの**ファクス初期設定**を参照）

受信の流れ

ファクス	ファクス	電話
相手先が自動送信で原稿を送ってきた場合	相手先が手動送信で原稿を送ってきた場合	相手先が電話のとき
▼	▼	▽
相手先からの原稿を自動的にファクス受信（自動受信）します。	留守番電話機が留守であるメッセージを流します。	
	▼	▽
	留守番電話機がメッセージを録音します。	
	▼	
	相手先が原稿の送信を開始すると送られてきた原稿を受信します。	

準備事項

ファクス受信方法を［自動（留守番電話）］に設定する。9-6ページの**ファクス設定**を参照してください。

1 相手先からの呼び出し

接続された電話機で設定された回数の呼び出し音が鳴ります。

参考
電話機で呼び出し音が鳴っているときに受話器を上げた場合は、手動受信のときと同じ状態になります。（7-9ページの**手動受信**参照）

2 留守番電話が応答します

相手先は電話だが不在のとき

留守番電話機から応答メッセージが流れ、用件の録音を開始します。

参考
録音中に無音状態が30秒間続くとファクスの受信に切り替わります。

相手先がファクスのとき

ファクスの受信を開始します。

手動送信

原稿を送信する前に相手と電話で話したいときや、相手先機がファクスへの切り替えを必要とするときは、この方法で送信してください。

1 原稿をセットする

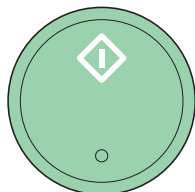
2 相手先にダイヤルする

オプションのハンドセットまたは電話の受話器を上げて、相手先にダイヤルしてください。

3 相手先のファクスとつながったかどうか確認する

相手先がファクスの場合は、「ピー」という音が聞こえます。相手先の話し声が聞こえた場合は、そのまま会話することができます。

4 [オンフック]を押す

5 スタートキーを押す

送信を開始します。

6 受話器を戻す

送信が開始したら、ハンドセットまたは受話器を元に戻してください。

手動受信

相手と話した後に原稿を受信したいときは、この方法で受信してください。

参考
手動受信を使用するには、受信方法を［手動受信］に設定する必要があります。9-6ページのファクス設定を参照してください。

1 相手先からの呼び出し

相手先から着信すると、接続された電話で呼び出し音が鳴ります。

2 受話器を上げる

オプションのハンドセットまたは電話の受話器を上げてください。

3 相手先のファクスとつながったかどうか確認する

相手先がファクスの場合は、「ポーッポーッ」という音が聞こえます。相手先の話し声が聞こえた場合は、そのまま会話することができます。

4 ［オンフック］を押す

5 ［手動受信］キーを押す

受信を開始します。

参考
トーン信号を送出できる電話機を使用している場合は、リモート切替機能で電話機から受信を開始させることができます。（9-6ページのファクス設定参照）

6 受話器を戻す

受信が開始したら、ハンドセットまたは受話器を元に戻してください。

リモート切替機能

接続された電話機からの操作で、ファクスの受信を開始させることができます。本機と電話機（市販品）を離れた場所に設置して併用するときに便利な機能です。

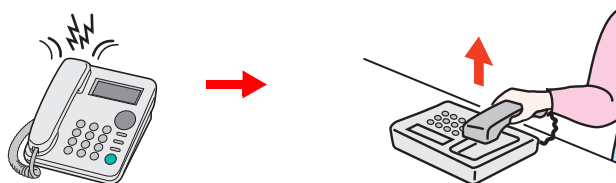
参考
リモート切替を行うためには、トーン信号を送出できる電話機（市販品）を本機に接続することが必要です。ただし、トーン信号を発信することができる電話機でも、種類によってはこの機能をうまく使用できない場合があります。詳しくは弊社代理店またはお買い上げ店までご連絡ください。

工場出荷時では、リモート切替ダイヤル（2桁）は55です。

リモート切替ダイヤルの番号を変更できます。9-6ページの**ファクス設定**を参照してください。

リモート切替ダイヤルの使いかた

接続された電話機からの操作でファクスの受信を開始させるときは、次の操作を行ってください。

1 接続された電話機で呼び出し音が鳴る

電話機の受話器を上げてください。

参考
呼び出し音が鳴る回数は変更することができます。（9-6ページの**ファクス設定**参照）

2 リモート切替ダイヤルの番号（2桁）を押す

受話器からファクスの発信音が聞こえたら、2桁のリモート切替ダイヤルを電話機側のダイヤルボタンで入力してください。回線は本体側に切り替わり、受信が開始されます。

8　通信結果や登録した内容の確認

この章では、次の項目について説明します。

通信結果や登録した内容を確認する

ファクスの通信結果や登録内容は次の方法で確認できます。

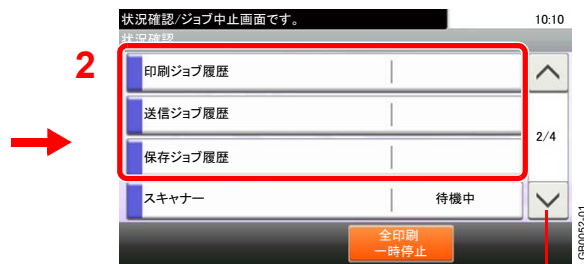
確認方法	表示場所	確認できる内容	確認のタイミング	参照ページ
ファクスジョブの履歴確認	タッチパネル	最近の送/ 受信およびファクス保存100件の履歴	任意	8-3ページ
送信結果レポート/受信結果レポート	レポートを印刷	直前の送信または受信の結果	送/受信のたびに自動印刷（印刷なし/エラー時のみも選択可）	8-4ページ
通信管理レポート	レポートを印刷	最近の送/ 受信50 件の結果	任意、および送/受信50件ごとに自動印刷（印刷なしも選択可）	8-7ページ
ステータスページ	レポートを印刷	自局ファクス番号、自局名称、回線などの登録状況	任意	8-9ページ
受信結果のメール通知	コンピューター	ファクスの受信	ファクスを受信するとメール通知	8-10ページ

ファクスジョブの送信/受信履歴を確認する

最近の送/ 受信それぞれ100件までをタッチパネルに表示させ、確認することができます。

> **参考**
> 部門管理が有効である場合でも、部門コードに関係なく、送信結果、受信結果それぞれ100件が表示されます。
>
> ジョブの履歴確認についてさらに詳しくは、本体の使用説明書を参照してください。

履歴画面の表示

1 画面を表示する

[∨]または[∧]を押すと、上下にスクロールします。

送信結果を確認するときは[**送信ジョブ履歴**]、受信結果を確認するときは[**印刷ジョブ履歴**]、Fコードボックス、ポーリングボックスおよびUSBメモリーへの保存の結果を確認するときは[**保存ジョブ履歴**]を押してください。

2 確認する

[∨]または[∧]を押すと、上下にスクロールします。

リストから確認したいジョブの[**...**]を押すと詳細画面が表示されます。

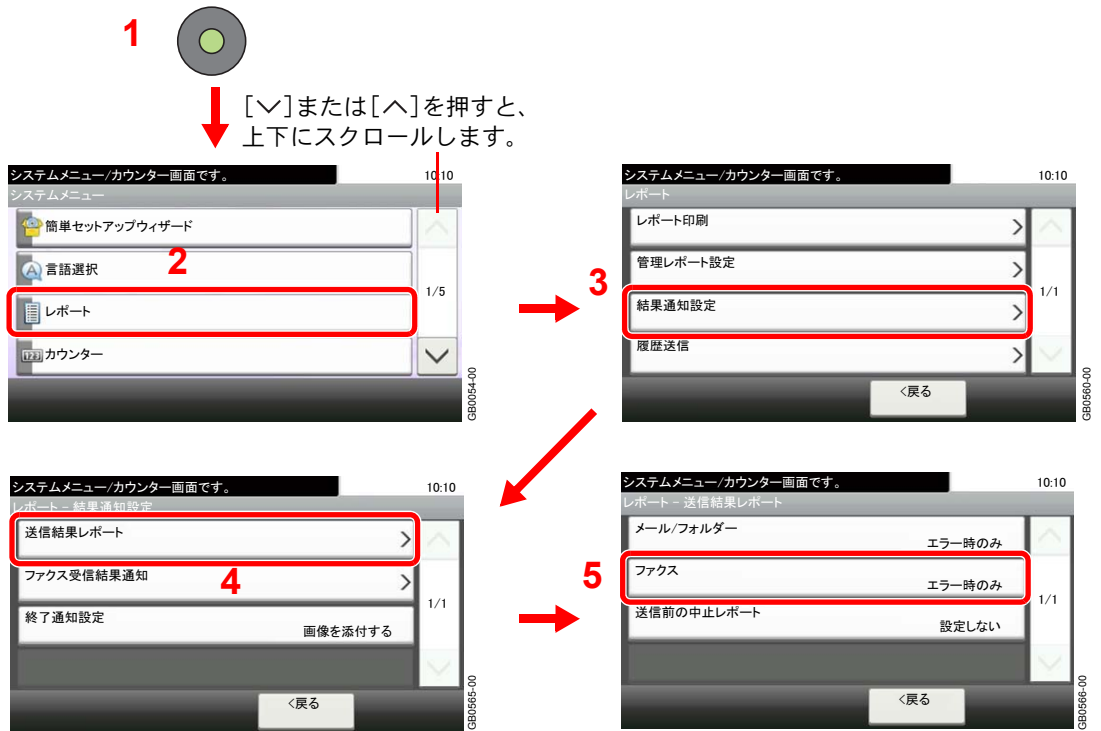
終了するときは[**閉じる**]を押します。

管理レポートを印刷する

さまざまな管理レポートを印刷して、通信結果やファクス機能の設定状況などを確認することができます。

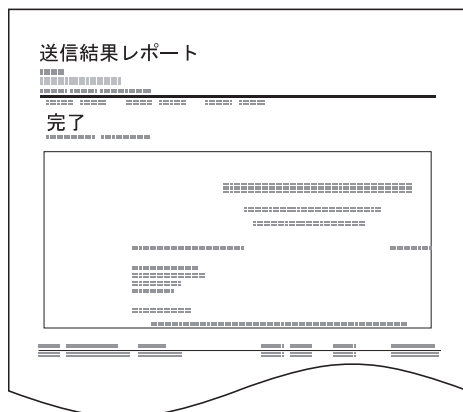
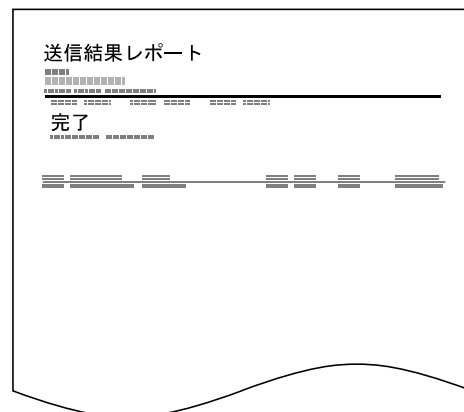
送信結果レポート

送信するごとにレポートを印刷させて、正常に送信されたかを確認することができます。また、送信結果レポートに送信した画像を印刷できます。

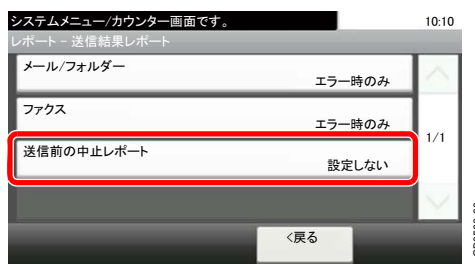
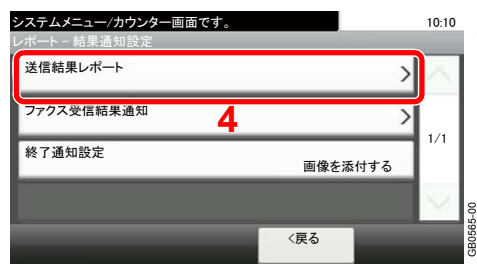
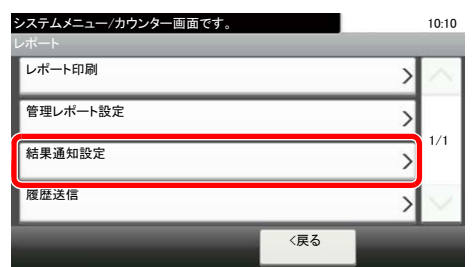
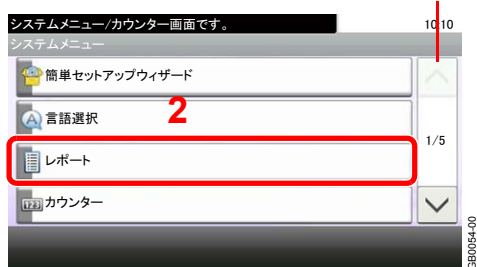
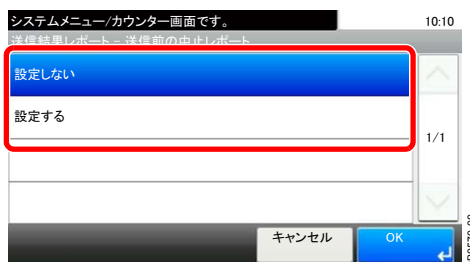
1 画面を表示する

2 設定する

[**設定しない**]（常に印刷しない）、[**設定する**]（常に印刷する）、または[**エラー時のみ**]を選択してください。

[**設定する**]または[**エラー時のみ**]を選択した場合は、送信画像の添付について、[**設定しない**]（送信画像を印刷しない）、[**一部を添付**]（送信画像の一部を等倍で印刷する）、または[**全体を添付**]（送信画像を縮小して全体を印刷する）を選択してください。

送信画像あり

送信画像なし

送信前に中止されたジョブのレポート

送信を開始する前にジョブを中止したときに、送信結果レポートを印刷します。

1 画面を表示する

2 設定する

[設定しない]または[設定する]を選択してください。

受信結果レポート

受信するごとにレポートを印刷させて、正常に受信できたかを確認することができます。

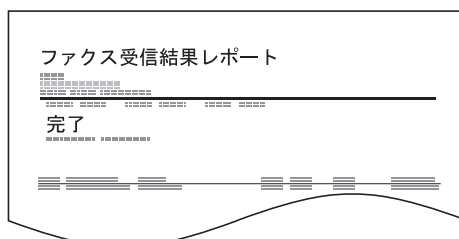
> **参考**
> 受信結果レポートの代わりに、受信をメールで通知するように変更できます。
> 8-10ページのファクスの受信結果をメールで知らせる5-11参照)

1 画面を表示する

2 設定する

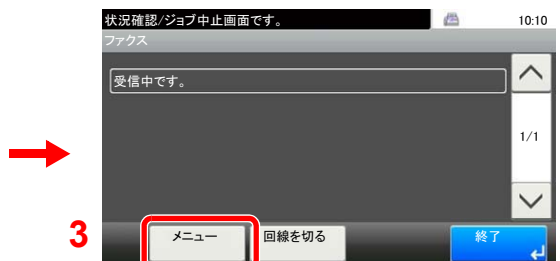
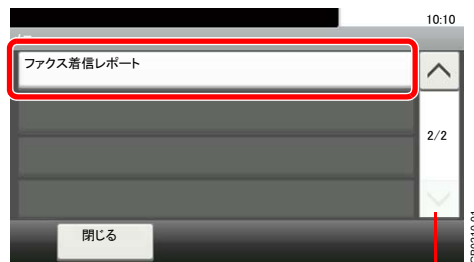
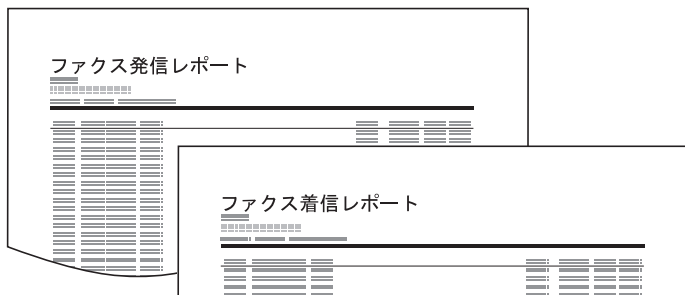
[設定しない](常に印刷しない)、[設定する](常に印刷する)または[エラー/転送時のみ]を選択してください。

ファクス受信結果レポート

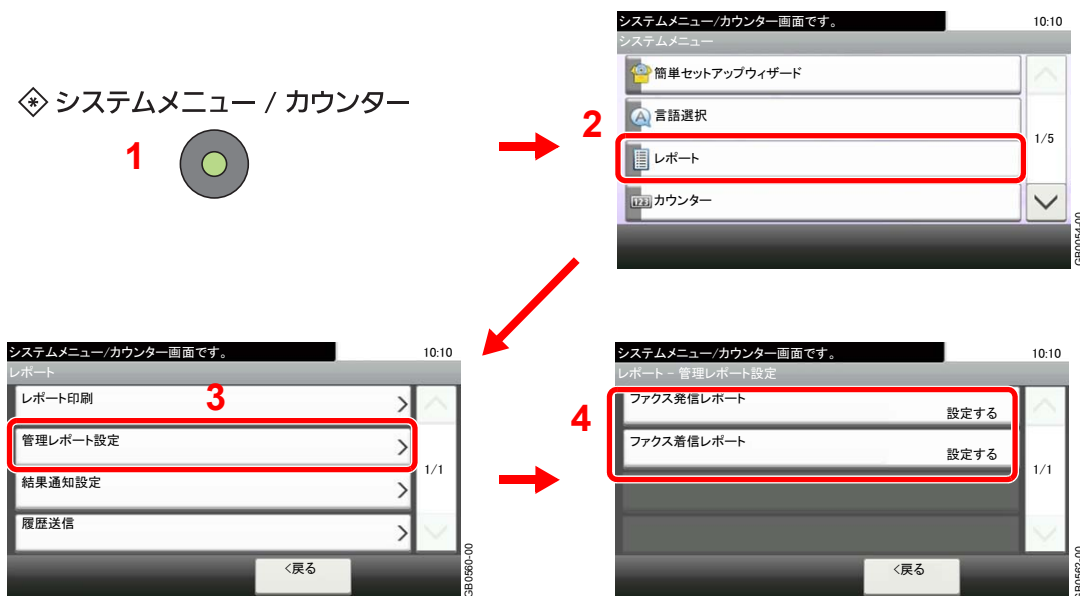
完了

通信管理レポート

通信管理レポートには、ファクス発信管理レポートとファクス着信管理レポートがあり、それぞれ最近の発信または着信50件の情報を確認できます。自動印刷にすると、発信50件または着信50件ごとに、自動的にレポートが印刷されます。

通信管理レポートの印刷

最近の発信または着信50件の情報をレポートにして印刷します。

2 印刷する

ファクス発信管理レポートを印刷する場合は[ファクス発信レポート]を、ファクス着信管理レポートを印刷する場合は[ファクス着信レポート]を押してください。

自動印刷

発信50件または着信50 件ごとに、自動的に通信管理レポートが印刷されます。

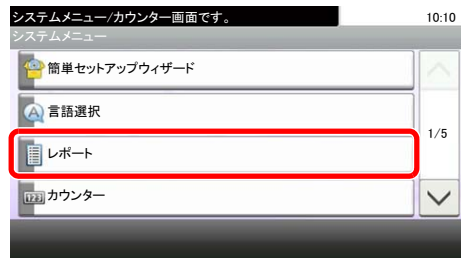
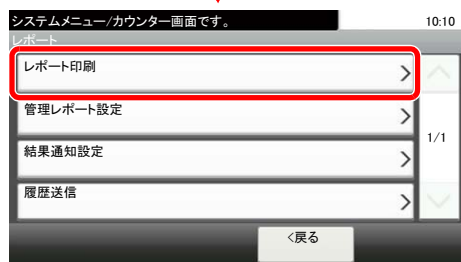
1 画面を表示する

[**ファクス発信レポート**]または[**ファクス着信レポート**]を押してください。

2 設定する

[**設定しない**]（印刷しない）または[**設定する**]（印刷する）を選択してください。

ステータスページ

ステータスページには、ユーザーが本機に設定したさまざまな項目が記載されています。ファクス関連では、自局ファクス番号、自局名、回線設定などがあります。必要に応じて印刷してください。

1 画面を表示する

2 印刷する

ステータスページが印刷されます。

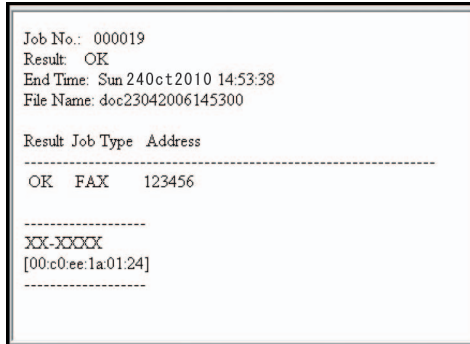
ファクスの受信結果をメールで知らせる

ファクスを受信したときに、受信結果レポートを印刷する代わりに、メールで知らせることができます。

Job No.: 000019
Result: OK
End Time: Sun 24Oct2010 14:53:38
File Name: doc23042006145300

Result Job Type Address

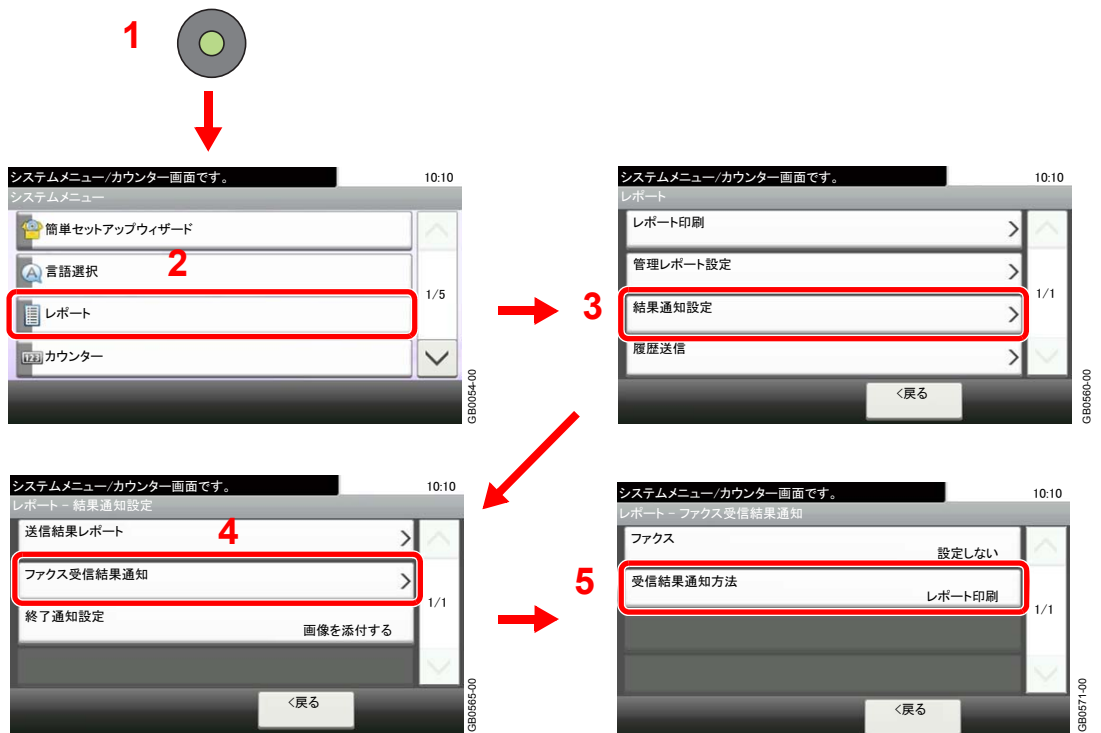
OK FAX 123456

XX-XXXX
[00:c0:ee:1a:01:24]

参考

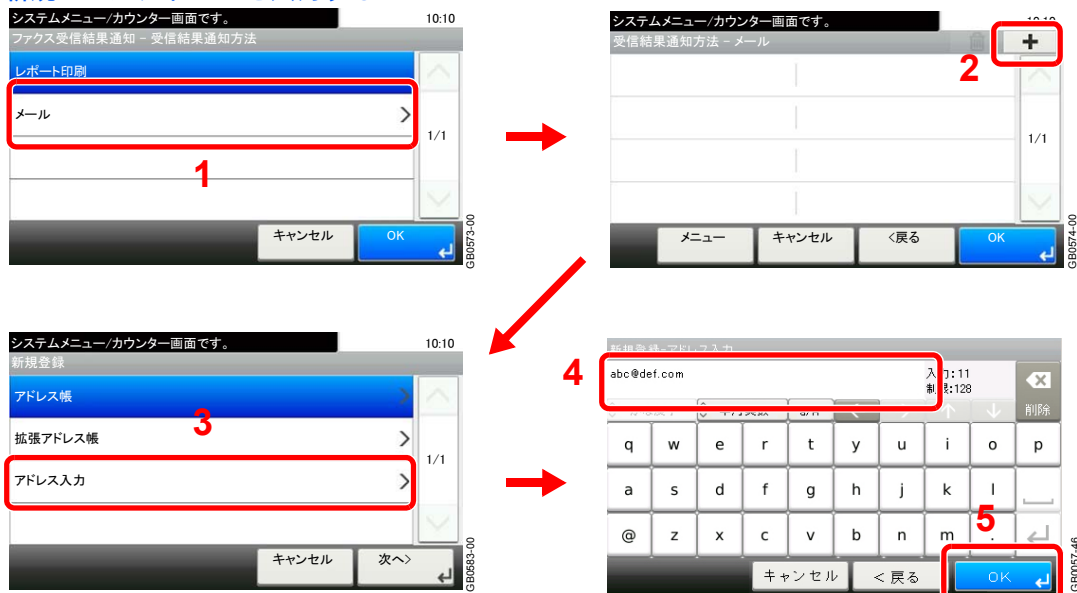
この設定は、「ファクス受信結果通知」が[設定する] または[エラー/ 転送時のみ] であるときに表示されます。詳しくは、8-6ページの**受信結果レポート**を参照してください。

メール通知は、「ファクス受信結果通知」の設定にしたがって実行されます。「ファクス受信結果通知」が[設定する] の場合は毎回メール通知されます。[エラー/ 転送時のみ] の場合は、エラーが起こったとき、または受信原稿が他のファクスやコンピューターに転送されたときのみメール通知されます。

1 画面を表示する

◇ システムメニュー / カウンター

2 宛先を選択する

アドレス帳から選択する

新規メールアドレスを入力する

文字の入力方法を、11-3ページの**文字の入力方法**を参照してください。

宛先確認画面について

送信前の宛先確認画面の設定を[**設定する**] に設定している場合は、スタート**キー**を押すと、宛先を確認するための宛先確認画面が表示されます。詳しくは、本体の使用説明書の送信前の宛先確認画面の設定を参照してください。

宛先確認画面の操作手順は、次のとおりです。

1 全ての送り先を確認する

[∨][∧]を押して、全ての送り先を確認してください。[...]を押すと、選択した送り先の詳しい情報が参照できます。

参考
必ずすべての送り先をタッチパネルに表示して確認してください。すべての送り先を表示しないと[確認完了] キーは機能しません。

2 送り先を修正する

送り先を削除する

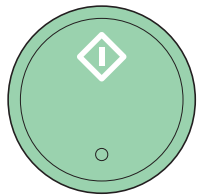
送り先を削除するときは、削除する送り先を選択して削除ボタンを押してください。削除の確認画面で[はい]を押すと送り先が削除されます。

送り先を追加する

送り先を追加するときは、[キャンセル]を押して元の画面に戻ってください。

3 **[確認完了]を押す**

全ての送り先の確認が完了すれば、[確認完了]を押してください。

4 **スタートキーを押す**

送信が開始されます。

9　ファクスの設定

この章では、次の項目について説明します。

ファクス初期設定

システムメニューのファクスの設定について説明します。

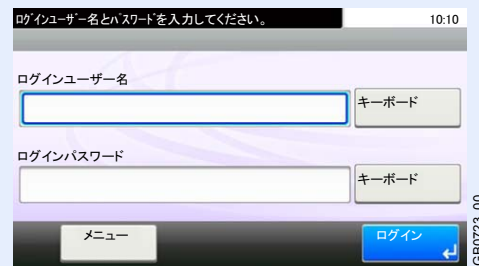
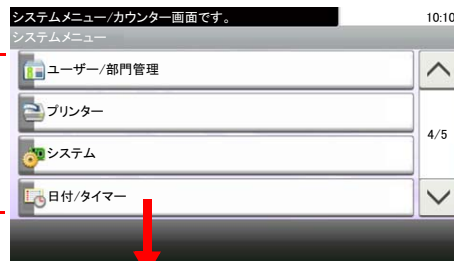
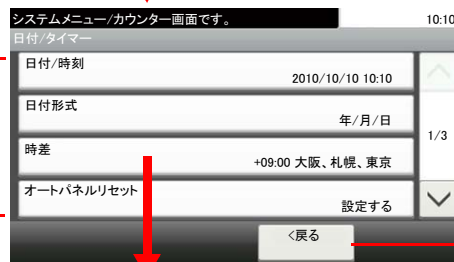
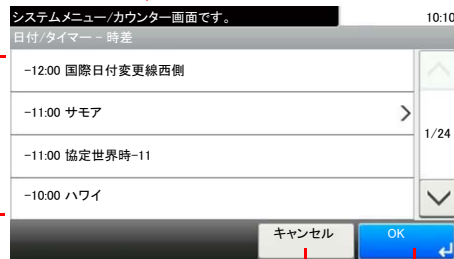
操作方法

システムメニューの操作方法は、次のとおりです。

1 画面を表示する

◈ システムメニュー / カウンター

参考

ユーザー管理が有効の場合、管理者の権限でログインする必要があります。ログインユーザー名とログインパスワードの工場出荷時の値については、**本体使用説明書のユーザーの新規登録**を参照してください。

2 設定する

次の**システムメニューの項目**を参照して、必要な設定を行ってください。

システムメニューの項目

システムメニューのファクス機能の設定項目は次のとおりです。

参考
ファクス以外の設定項目については、本体の使用説明書を参照してください。

設定	説明	参照ページ
レポート	本機の設定や状態を確認するため、各種レポートを印刷します。また、送信結果レポートの印刷のしかたを選択できます。	9-4ページ
カセット/手差しトレイ設定	カセットと手差しトレイの用紙サイズ・用紙種類について設定します。	9-5ページ
共通設定	本機全般について設定します。	9-5ページ
文書ボックス	Fコードボックスやポーリングボックスに関する設定を行います。Fコードボックスの詳細は、6-13ページの**Fコードボックス機能**を参照してください。ポーリングボックスの詳細は、6-26ページの**ポーリング通信**を参照してください。	―
ファクス	ファクス機能に関する設定を行います。	9-6ページ
アドレス帳/ワンタッチ	アドレス帳とワンタッチキーの設定を行います。アドレス帳の詳細は、2-2ページの**アドレス帳の登録**、ワンタッチキーの詳細は、2-12ページの**ワンタッチキーの登録**を参照してください。	―
日付/タイマー	日付と時刻の設定をします。日付と時刻の詳細は、1-9ページの**日付と時刻の設定**を参照してください。 受信したファクスの印刷を禁止する時間帯を設定します。使用禁止時間の詳細は、9-21ページの**使用禁止時間**を参照してください。	―

レポート

本機の設定や状態を確認するため、各種レポートを印刷します。また、送信結果レポートの印刷のしかたを選択できます。

レポート印刷

項目	説明
ステータスページ	ステータスページには、ユーザーが本機に設定したさまざまな項目が記載されています。ファクス関連では、自局ファクス番号、自局名、回線設定などがあります。必要に応じて印刷してください。 詳しくは、8-9ページの**ステータスページ**を参照してください。
Fコードボックスリスト	Fコードボックスのリストを印刷します。 詳しくは、6-22ページの**Fコードボックスリストの印刷のしかた**を参照してください。
ファクスリスト（見出し）	アドレス帳を登録している宛先のリストを出力できます。リストは、宛先の見出し順とアドレス番号順から選択できます。 詳しくは、2-11ページの**アドレス帳リストの出力**を参照してください。
ファクスリスト（番号）	アドレス帳を登録している宛先のリストを出力できます。リストは、宛先の見出し順とアドレス番号順から選択できます。 詳しくは、2-11ページの**アドレス帳リストの出力**を参照してください。
ファクス発信レポート	最近の発信50件の情報をレポートにして印刷します。
ファクス着信レポート	最近の着信50件の情報をレポートにして印刷します。

管理レポート設定

項目	説明
ファクス発信レポート	発信50件ごとに、自動的に通信管理レポートが印刷されます。 詳しくは、8-7ページの**通信管理レポート**を参照してください。
ファクス着信レポート	着信50 件ごとに、自動的に通信管理レポートが印刷されます。 詳しくは、8-7ページの**通信管理レポート**を参照してください。

結果通知設定

項目	説明
送信結果レポート	送信が終了したときに、送信結果レポートを自動的に印刷します。 詳しくは、8-4ページの**送信結果レポート**を参照してください。
ファクス受信結果通知	ファクスを受信したときに、受信結果レポートを印刷または、メールで知らせることができます。 詳しくは、8-6ページの**受信結果レポート**を参照してください。

カセット/手差しトレイ設定

カセットの用紙サイズ･用紙種類について設定します。

カセット1（～3）

項目	説明
用紙サイズ	カセット1、オプションのペーパーフィーダー（カセット2、3）に補給する用紙のサイズを設定します。 **重要** ファクス受信で使用するカセットの用紙サイズは、次の設定にしてください。 ［自動］→［A系/B系］を押します。
用紙種類	カセット1、オプションのペーパーフィーダー（カセット2、3）に補給する用紙の種類を設定します。 設定値：**普通紙**（105 g/m²以下）、**薄紙**（64 g/m²以下）、**再生紙、プレプリント、ボンド紙、カラー紙、パンチ済み紙、レターヘッド、厚紙**（106 g/m²以上）、**上質紙、カスタム1～8**

手差しトレイ

手差しトレイからはファクス受信できません。

共通設定

本機全般について設定します。

音設定

項目		説明
ブザー		本機の操作中に鳴る報知音について設定します。
	正常終了音	ジョブの処理が正常に終了したときに鳴る音です。 設定値：**設定しない、設定する、ファクス受信時のみ**
ファクススピーカー音量		本機のスピーカー音のボリュームを調整できます。 スピーカー音量は［オンフック］を押して電話回線を接続したときに、内蔵スピーカーから聞こえる音量です。 設定値：［1］（小）、［2］、［3］（中）、［4］、［5］（大）、［0］（消音）
ファクスモニター音量		本機のモニター音のボリュームを調整できます。 モニター音量は［オンフック］を押して電話回線を接続したときに、内蔵スピーカーから聞こえる音量です。 設定値：［1］（小）、［2］、［3］（中）、［4］、［5］（大）、［0］（消音）

機能初期値

項目	説明
ファクス送信解像度	原稿を読み込むときの解像度の初期値を設定します。 設定値：400×400 dpi ウルトラファイン、200×400 dpi スーパーファイン、200×200 dpi ファイン、200×100 dpi ノーマル

排紙先

項目	説明
排紙先	コピー、ジョブボックスからの印刷、コンピューターからの印刷、およびファクス受信データの印刷について、それぞれ別の排紙先を指定することができます。 設定値：**内部トレイ、フィニッシャートレイ、ジョブセパレータートレイ** 参考：オプションのドキュメントフィニッシャーを装着している場合は、[**内部トレイ**]が[**フィニッシャートレイ**]に変更されます。

ファクス設定

ファクス機能に関する設定を行います。

送受信共通設定

項目	説明
暗号鍵登録	暗号通信で使用する暗号鍵を登録します。 詳しくは、6-35ページの**暗号通信**を参照してください。
ファクスリモート診断	本機で問題が発生したときにサービス実施店等に連絡をいただくと、弊社サービスセンターのコンピューターから電話回線を介して本機にアクセスし、その状況や問題点などを確認することができます。 参考：リモート診断機能を使用するときは、あらかじめサービス実施店と契約の上、決められたIDを本機に登録する必要があります。詳しくは弊社サービス実施店またはお買い求めいただいた販売店にお問い合わせください。 設定値：**設定する、設定しない**
リモート診断ID	リモート診断を設定するを選択した場合は、あらかじめ指定されたIDを入力してください。 設定値：0000 ～ 9999

送信設定

項目	説明
自局名登録	発信元情報に印刷する発信元の名前を登録します。 この項目は簡単設定に含まれています。詳しくは、1-6ページの**簡単セットアップ（ファクスのセットアップ）**を参照してください。
自局名登録（フリガナ）	発信元のフリガナを登録します。 この項目は簡単設定に含まれています。詳しくは、1-6ページの**簡単セットアップ（ファクスのセットアップ）**を参照してください。
自局ファクスID	自局ファクスID を登録します。 この項目は簡単設定に含まれています。詳しくは、1-6ページの**簡単セットアップ（ファクスのセットアップ）**を参照してください。 参考：自局ファクスID は送受信制限で使用します。詳しくは、9-10ページの**送受信制限**を参照してください。
自局ファクス番号	発信元情報に印刷する発信元の自局ファクス番号を登録します。 この項目は簡単設定に含まれています。詳しくは、1-6ページの**簡単セットアップ（ファクスのセットアップ）**を参照してください。

項目	説明
自局印字位置	送信したファクスに印刷される発信元記録の印刷位置を設定します。 発信元記録とは、相手先で受信したファクスに印刷されるこちら側（発信元）の情報のことで、送信日時や送信ページ数、名前、ファクス番号、ファクスアドレスなどがあります。本機では、発信元記録を受信側で印刷させるかどうかを選択することができます。印刷させる場合の位置も、送信ページ画像の内側、外側を選択できます。 設定値：**設定しない、原稿外側、原稿内側** 参考：通常、発信元記録には自局名称が印刷されますが、部門管理が有効であるときに部門コードを入力して送信を行った場合は、部門名称が印刷されます。 この項目は簡単設定に含まれています。詳しくは、1-6ページの**簡単セットアップ（ファクスのセットアップ）**を参照してください。
回線種類	契約している電話回線の種類に合わせて選択してください。この選択を誤ると、ファクスの送信ができませんのでご注意ください。 設定値：**プッシュ回線（DTMF）、ダイヤル回線（10PPS）、ダイヤル回線（20PPS）** この項目は簡単設定に含まれています。詳しくは、1-6ページの**簡単セットアップ（ファクスのセットアップ）**を参照してください。
リダイヤル回数	自動的にリダイヤルする回数を変更できます。 設定値：**0～14回** この項目は簡単設定に含まれています。詳しくは、1-6ページの**簡単セットアップ（ファクスのセットアップ）**を参照してください。

受信設定

項目	説明
用紙種類	ファクスが印刷されるときに使用する用紙を、用紙の種類で限定できます。 設定値：**全用紙種類、普通紙、薄紙、再生紙、ボンド紙、カラー紙、厚紙、上質紙、カスタム1～8** 詳しくは、5-10ページの**受信用紙種類**を参照してください。
縮小受信	受信サイズが用紙サイズよりも大きい場合、縮小して印刷できます。 設定値：**設定する、設定しない** 詳しくは、5-9ページの**縮小受信**を参照してください。
受信日時記録	受信日時記録は、ファクスが印刷されるときに、受信した日時、相手先の情報、ページ数を本機側で付加し、各ページの先頭に印刷する機能です。時差がある地域から送られてきた原稿を、いつこちらが受信したか確認できて便利です。 設定値：**設定する、設定しない** 詳しくは、5-9ページの**受信日時記録**を参照してください。
両面印刷	複数ページの受信データが、すべて同じ幅であるとき、受信データと同じ幅の用紙に両面で印刷します。 設定値：**設定する、設定しない** 詳しくは、5-9ページの**両面印刷**を参照してください。
2in1印刷	A5サイズで複数ページの原稿を受信したときに、2ページをA4 の用紙1 枚にまとめて印刷します。 設定値：**設定する、設定しない** 詳しくは、5-9ページの**2in1印刷**を参照してください。

項目	説明
一括印刷	受信した原稿が複数枚あるときに、全てのページの受信が完了してから一括で出力します。 設定値：**設定する、設定しない** 詳しくは、5-9ページの**一括印刷**を参照してください。
ベル回数(普通)	受信方式がファクス専用自動受信の場合に、相手先からの呼び出しに応答するまでのベル回数を、必要に応じて変更することができます。 設定値：1～15
ベル回数(留守番電話)	受信方式がファクス/留守番電話自動切替受信の場合に、相手先からの呼び出しに応答するまでのベル回数を、必要に応じて変更することができます。 設定値：1～15
ベル回数（ファクス／電話切替）	受信方式がファクス/電話自動切替受信の場合に、相手先からの呼び出しに応答するまでのベル回数を、必要に応じて変更することができます。 設定値：0～15
受信設定	本機の受信方式を設定します。 設定値：**自動(普通)、自動(ファクス/電話)、自動(留守番電話)、手動** 詳しくは、5-2ページの**ファクスの受信について**を参照してください。
リモート切り替えダイヤル	接続された電話機からの操作で、ファクスの受信を開始させることができます。 設定値：00～99（2桁） 詳しくは、7-10ページの**リモート切替機能**を参照してください。
Fネット無鳴動受信	電気通信事業社が提供するファクス通信網（Fネット）に接続してファクス通信をする場合に設定します。 設定値：**設定する、設定しない** 詳しくは、5-11ページの**Fネット無鳴動受信**を参照してください。
ダイヤルイン	電気通信事業社のダイヤルインサービスを利用する場合に設定します。 設定値：**設定する、設定しない** **設定するを選択した場合は、電話番号として使用する番号（4桁）とファクス番号として使用する番号（4桁）を登録してください。** 詳しくは、5-11ページの**ダイヤルイン**を参照してください。
ダイヤルイン電話番号	ダイヤルインを設定するを選択した場合に、電話番号として使用する番号（4桁）を登録してください。 設定値：0000～9999
ファクス番号	ダイヤルインを設定するを選択した場合に、ファクス番号として使用する番号（4桁）を登録してください。 設定値：0000～9999
暗号受信	暗号通信で受信を設定します。 設定値：**設定する、設定しない** **設定するを選択した場合は、暗号鍵を選択してください。** 詳しくは、6-35ページの**暗号通信**を参照してください。

通信制限設定

通信条件を満たすときだけ送/受信できるように設定します。

詳しくは、9-10ページの**送受信制限**を参照してください。

条件付き受信/転送

ファクスを受信したとき、受信画像を他のファクスやコンピューターに転送したり、印刷したりできます。

詳しくは、6-2ページの**メモリー転送**を参照してください。

送受信制限

通信条件を満たすときだけ送/受信を可能にする機能です。この機能を使うと、通信する相手先を限定することができます。

具体的には、あらかじめ通信条件（許可ファクス番号/許可ID番号）を登録し、送受信制限を設定しておきます。送/受信時は、この機能についての特別な操作の必要はなく、通常の操作を行います。そして、実際に送/受信が開始されたとき、通信条件を満たす送/受信は正常に行われますが、条件を満たさない送/受信はエラーとなります。また、受信制限を［拒否リスト］に設定すると、拒否ファクス番号に登録した相手先と自局ファクス番号を登録していない相手先からの受信を拒否することができます。（自局ファクス番号を登録していない相手先からの受信を許可するか、しないかは、9-19ページの**番号不明受信の処理**で選択することができます。）

参考
送受信制限は、下記の前提条件、通信成立条件、および受信拒否条件をよくお読みになり、送信や受信を可能にする相手先とあらかじめよく打ち合わせた上で行うようにしてください。

	前提条件	通信成立条件
送信制限	• 許可ファクス番号または許可ID 番号を登録する。*（9-11ページの**許可ファクス番号の登録のしかた**、または9-16ページの**許可ID番号の登録のしかた**参照） • 送信制限設定で、送信制限を［アドレス帳+許可リスト］に設定する。（9-18ページの**送信制限設定のしかた**参照） • 相手先で自局ファクス番号または自局ファクスIDを登録する。	• 相手先の自局ファクス番号と本機に登録されている許可ファクス番号が一致する。 • 相手先の自局ファクスIDと本機に登録されている許可ID番号が一致する。 • アドレス帳、ワンタッチキーを使ってダイヤルした場合、ダイヤルした番号の下4桁と相手先の自局ファクス番号の下4桁が一致する。（手動送信時を除く）
受信制限	• 許可ファクス番号または許可ID 番号を登録する。**（9-11ページの**許可ファクス番号の登録のしかた**、または9-16ページの**許可ID番号の登録のしかた**参照） • 受信制限設定で、受信制限を［アドレス帳+許可リスト］に設定する。（9-19ページの**受信制限設定のしかた**参照） • 相手先で自局ファクス番号または自局ファクスIDを登録する。	• 相手先の自局ファクス番号と本機に登録されている許可ファクス番号が一致する。 • 相手先の自局ファクスIDと本機に登録されている許可ID番号が一致する。 • 相手先の自局ファクス番号の下4桁と一致するファクス番号が、本機のアドレス帳に登録されている。

* 許可ファクス番号と許可ID番号の両方が未登録の場合は、送信制限しません。

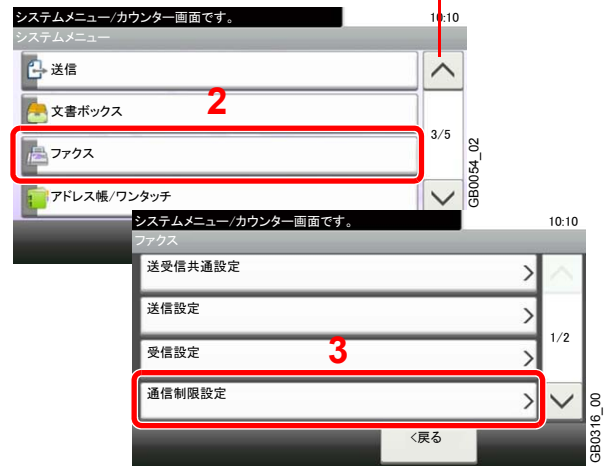
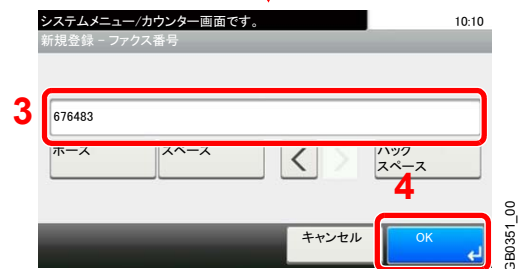
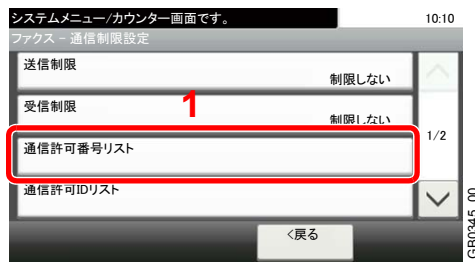
** 許可ファクス番号と許可ID番号の両方が未登録の場合は、受信制限しません。

	前提条件	受信拒否条件
受信拒否	• 拒否ファクス番号を登録する。*（9-13ページの**拒否ファクス番号の登録のしかた**参照） • 受信制限設定で、受信制限を［拒否リスト］に設定する。（9-19ページの**受信制限設定のしかた**参照）	• 相手先が自局ファクス番号を登録していない。 • 相手先の自局ファクス番号と本機に登録されている拒否ファクス番号が一致する。

* 拒否ファクス番号を登録していない場合、自局ファクス番号（実際の回線番号ではなく、ファクスの自局登録情報を指します。）を登録していない相手先のみ拒否します。

許可ファクス番号の登録のしかた

参考
最大25個の許可ファクス番号を登録することができます。

1 画面を表示する

2 許可ファクス番号を追加する

テンキーを使って許可ファクス番号を入力し、[OK]を押してください。20 桁まで入力できます。

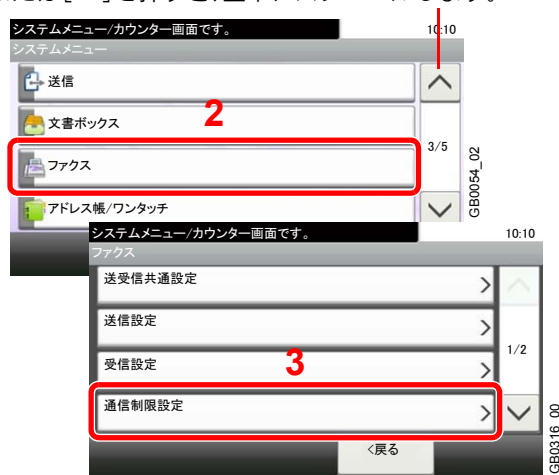
参考
[ポーズ] を押すと、番号の間にポーズ(-)が入力されます。

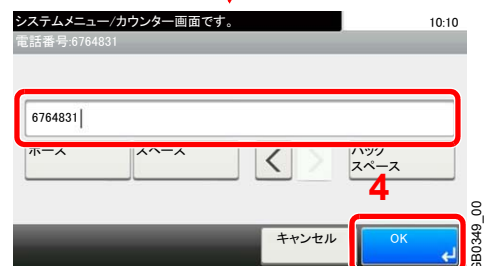
[スペース] を押すと、半角スペースが入力されます。

[<] または[>] を押すと、カーソルが移動します。

[バックスペース] を押すと、カーソルの前の一文字が削除されます。

3 その他の許可ファクス番号を登録するときは手順2を繰り返してください。

許可ファクス番号の変更/ 削除のしかた

1 画面を表示する

2 変更/削除する

変更する

変更する許可ファクス番号の[...]を押して、番号を入力しなおしてください。

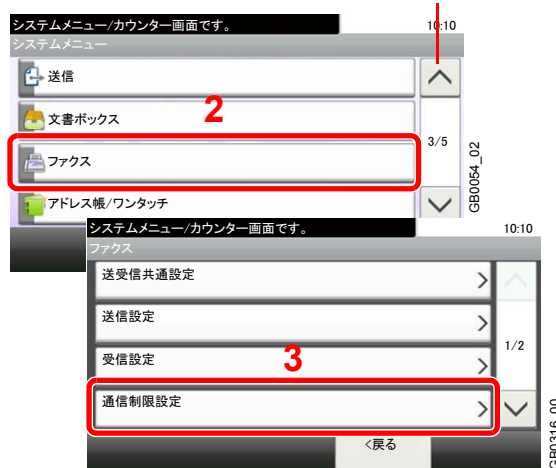
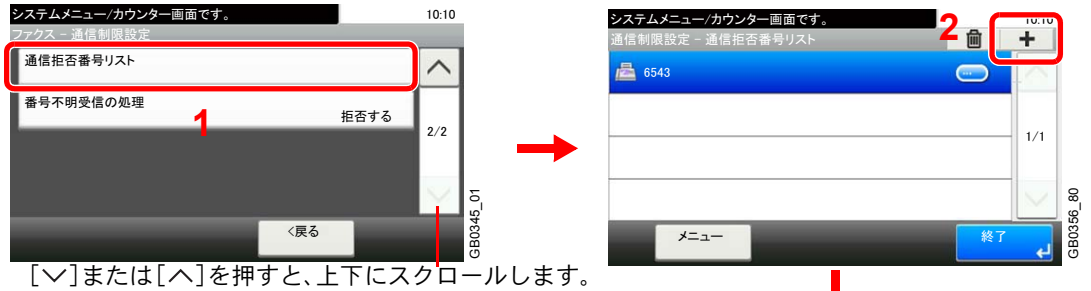
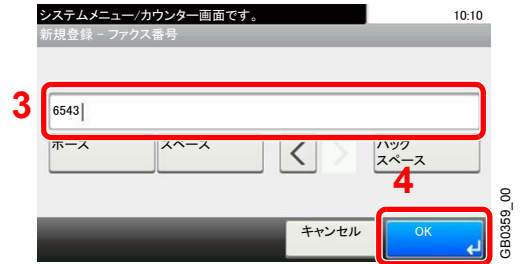
参考
番号の入力方法は、9-11ページの許可ファクス番号の登録のしかたを参照してください。

削除する

削除する許可ファクス番号を選択し、[(**削除**)](ゴミ箱のアイコン)を押します。

拒否ファクス番号の登録のしかた

参考
最大25個の拒否ファクス番号を登録することができます。

1 画面を表示する

2 拒否ファクス番号を追加する

テンキーを使って拒否ファクス番号を入力し、[OK]を押してください。20 桁まで入力できます。

参考

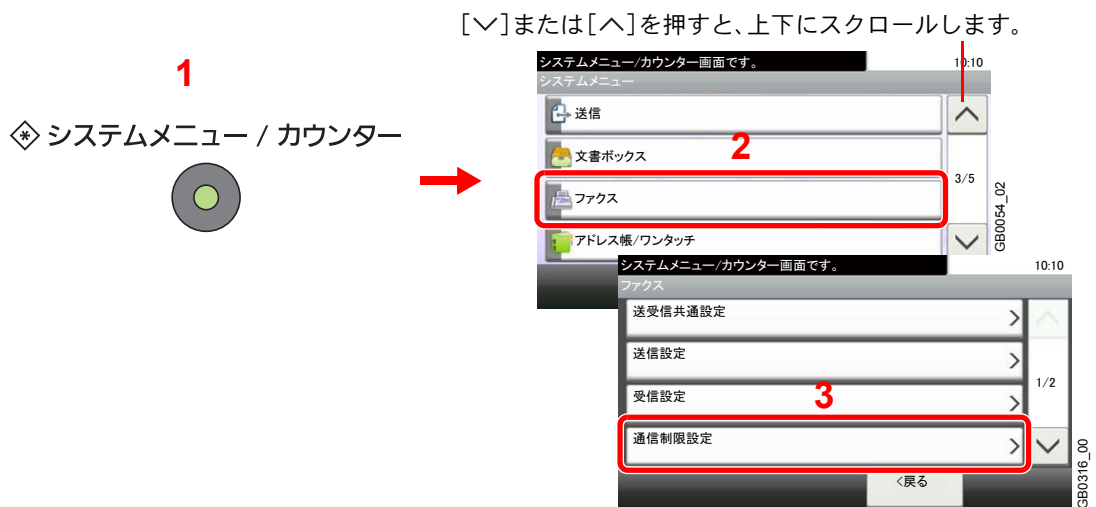
[ポーズ] を押すと、番号の間にポーズ (-) が入力されます。

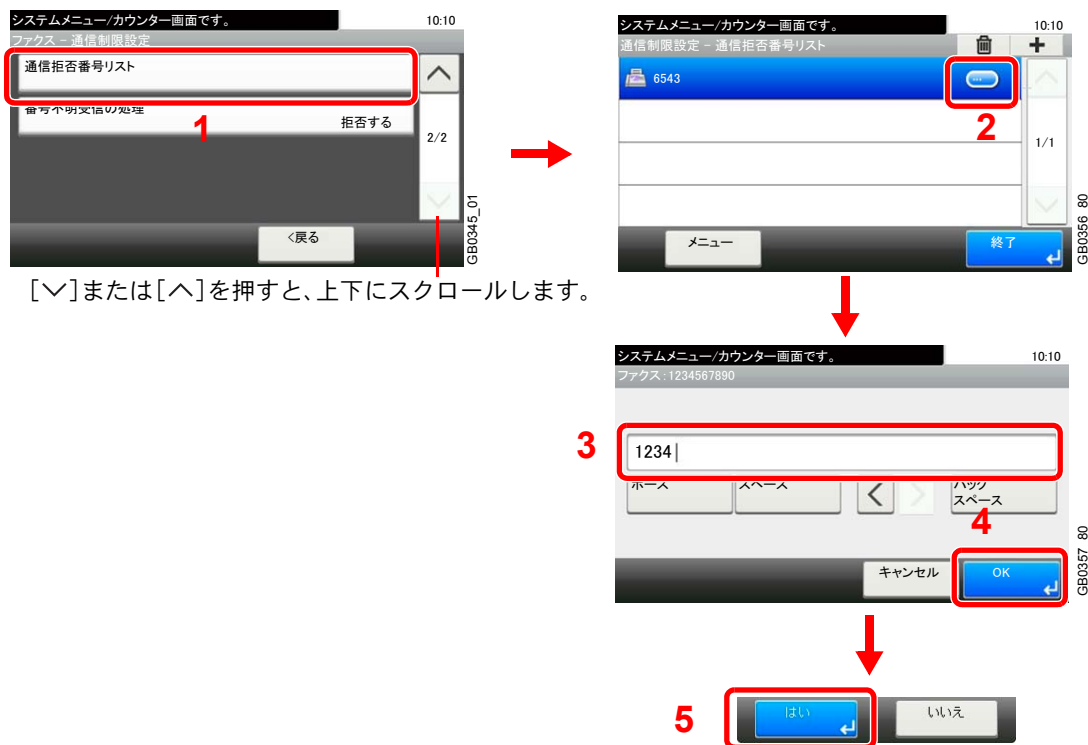
[スペース] を押すと、半角スペースが入力されます。

[<] または[>] を押すと、カーソルが移動します。

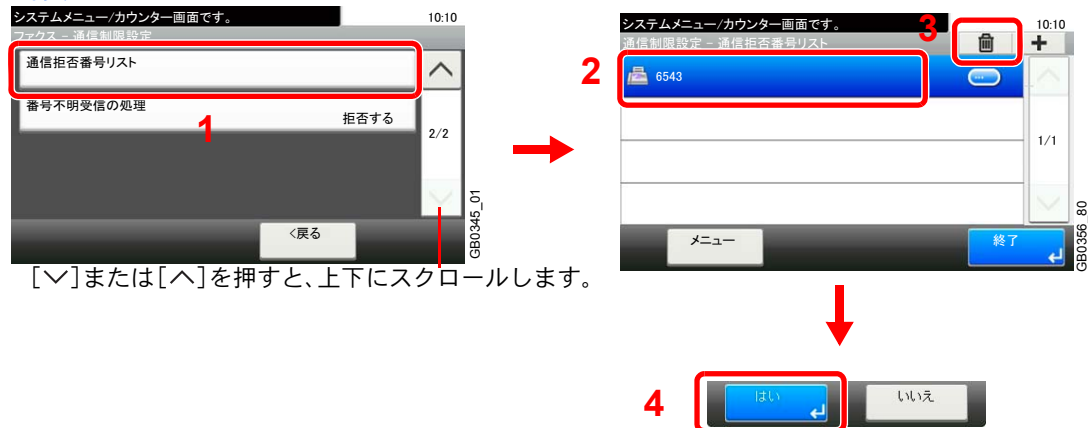
[バックスペース] を押すと、カーソルの前の一文字が削除されます。

3 その他の拒否ファクス番号を登録するときは手順2を繰り返してください。

拒否ファクス番号の変更/ 削除のしかた

1 画面を表示する

2 変更/削除する

変更する

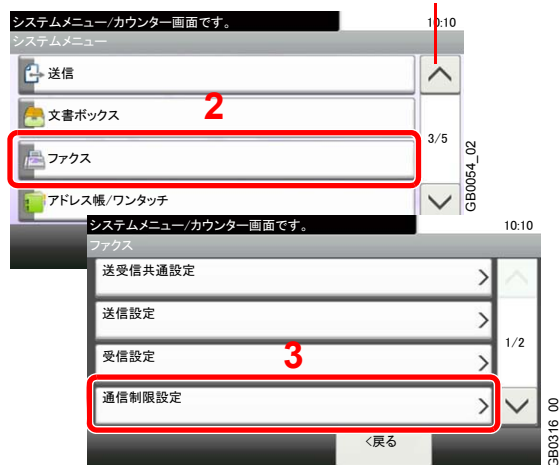
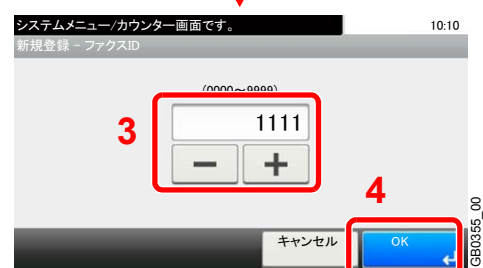
変更する拒否ファクス番号の[...]を押して、番号を入力しなおしてください。

> **参考**
> 番号の入力方法は、9-13ページの拒否ファクス番号の登録のしかたを参照してください。

削除する

削除する拒否ファクス番号を選択し、[(**削除**)](ゴミ箱のアイコン)を押します。

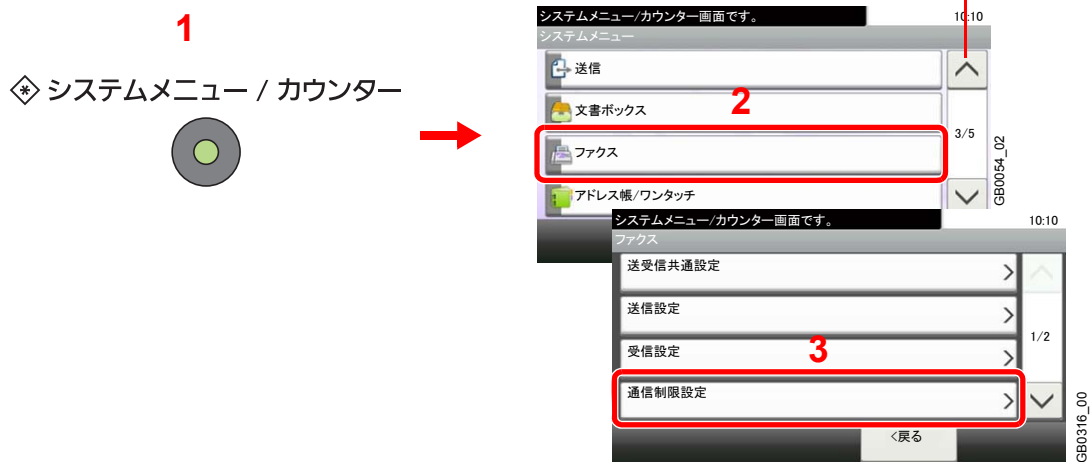
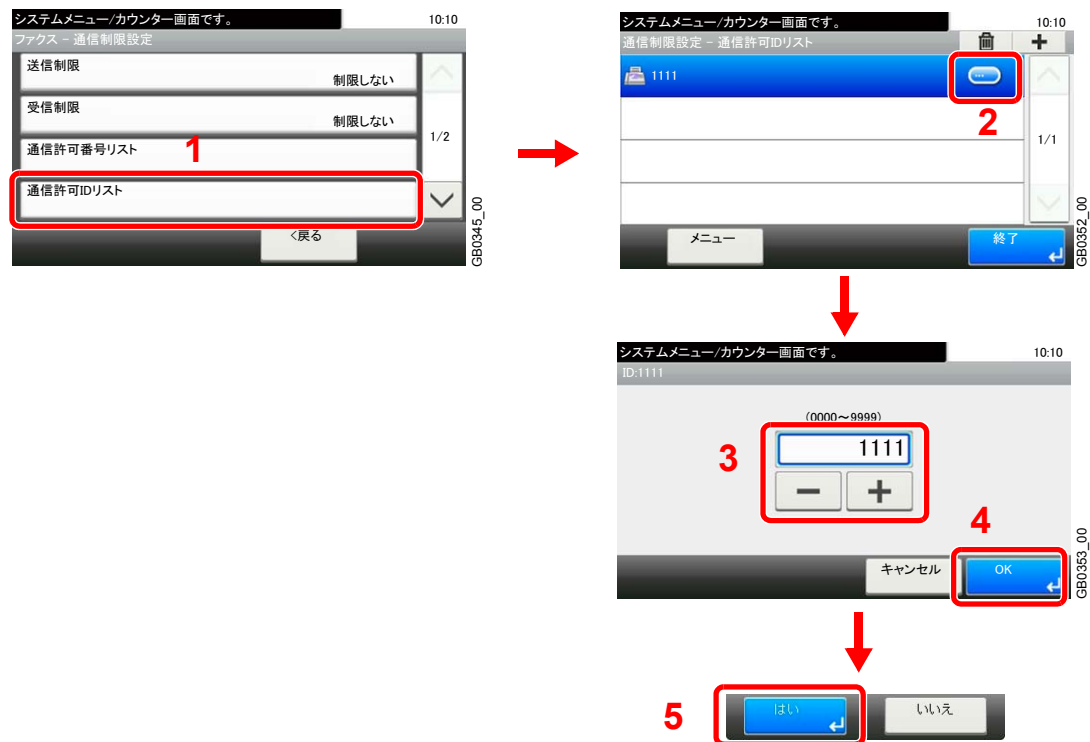
許可ID番号の登録のしかた

参考
最大10個の許可ID番号を登録することができます。

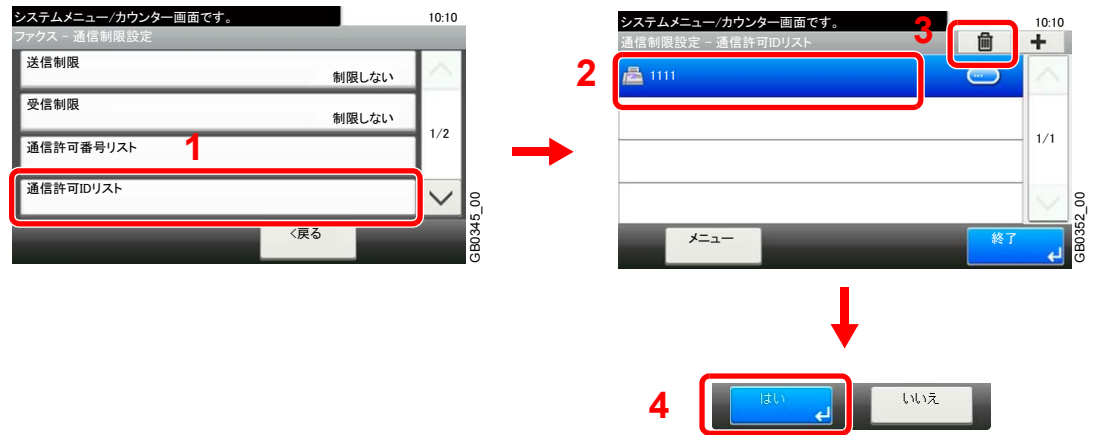
1 画面を表示する

2 許可ID番号を追加する

[+][−]または、テンキーを使って許可ID番号(0000～9999)を入力し、[OK]を押してください。

3 その他の許可ID番号を登録するときは手順2を繰り返してください。

許可ID番号の変更/ 削除のしかた

1 画面を表示する

2 変更/削除する

変更する

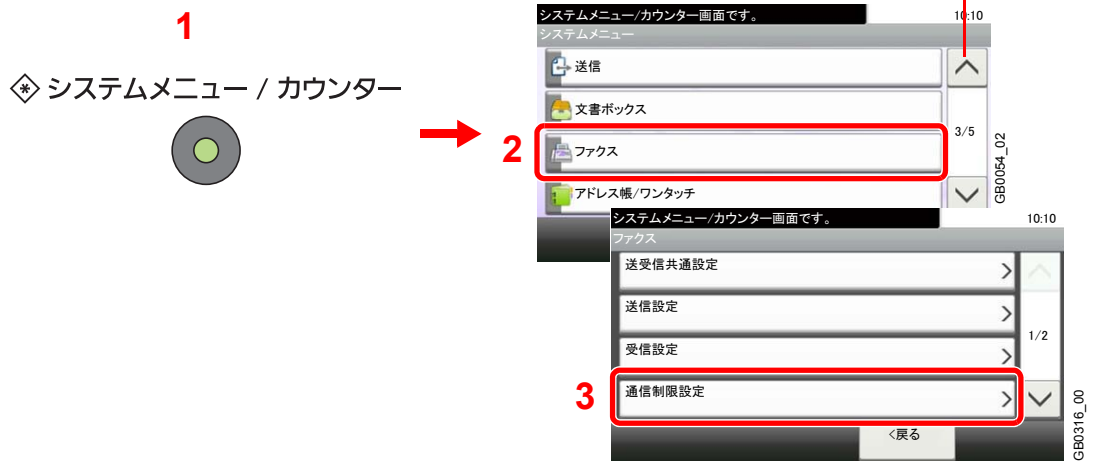
変更する許可ID番号の[...]を押して、番号を入力しなおしてください。

> **参考**
> 番号の入力方法は、9-16ページの許可ID番号の登録のしかたを参照してください。

削除する

削除する許可ID番号を選択し、[**(削除)**]（ゴミ箱のアイコン）を押します。

送信制限設定のしかた

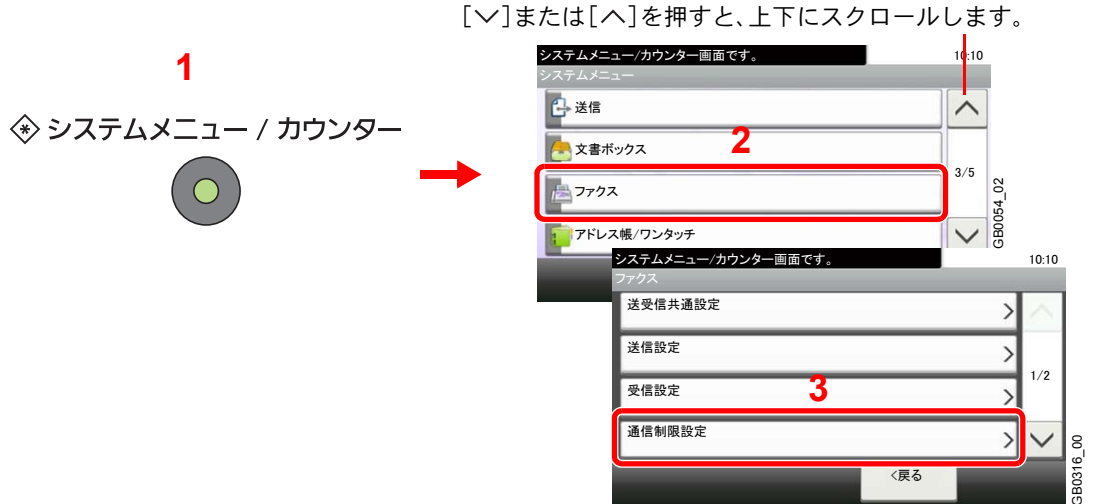
送信する相手先を、許可ファクス番号と許可ID番号に登録されている相手先、およびアドレス帳に登録されている相手先だけに制限できます。送信制限を変更する場合は次の手順で行ってください。

1 画面を表示する

2 設定する

送信制限を行わない場合は、[**制限しない**]を押してください。許可ファクス番号と許可ID番号に登録されている相手先、およびアドレス帳に登録されている相手先だけに制限するときは、[**許可リスト＋アドレス帳**]を押してください。

受信制限設定のしかた

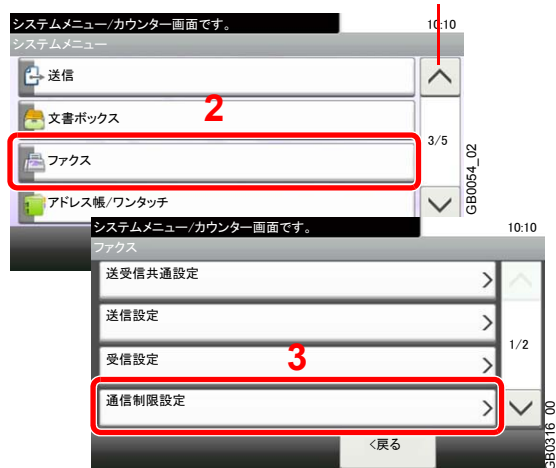
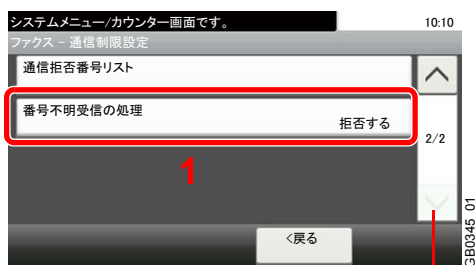
受信する相手先を、許可ファクス番号と許可ID番号に登録されている相手先、およびアドレス帳に登録されている相手先だけに制限できます。また、受信制限を[**拒否リスト**]に設定すると、拒否ファクス番号に登録した相手先と自局ファクス番号を登録していない相手先からの受信を拒否することができます。(自局ファクス番号を登録していない相手先からの受信を許可するか、しないかは、9-19ページの**番号不明受信の処理**で選択することができます。)受信制限を変更する場合は次の手順で行ってください。

1 画面を表示する

2 設定する

受信制限を行わない場合は、[**制限しない**]を押してください。許可ファクス番号と許可ID番号に登録されている相手先、およびアドレス帳に登録されている相手先だけに制限するときは、[**許可リスト＋アドレス帳**]を押してください。拒否ファクス番号に登録した相手先からの受信を拒否するときは、[**拒否リスト**]を押してください。

番号不明受信の処理

受信制限が[**拒否リスト**]に設定されているとき、ファクス番号を通知してこない相手先からの受信を許可するか、拒否するか設定できます。ファクス番号を通知してこない相手先から、受信制限を変更する場合は次の手順で行ってください。

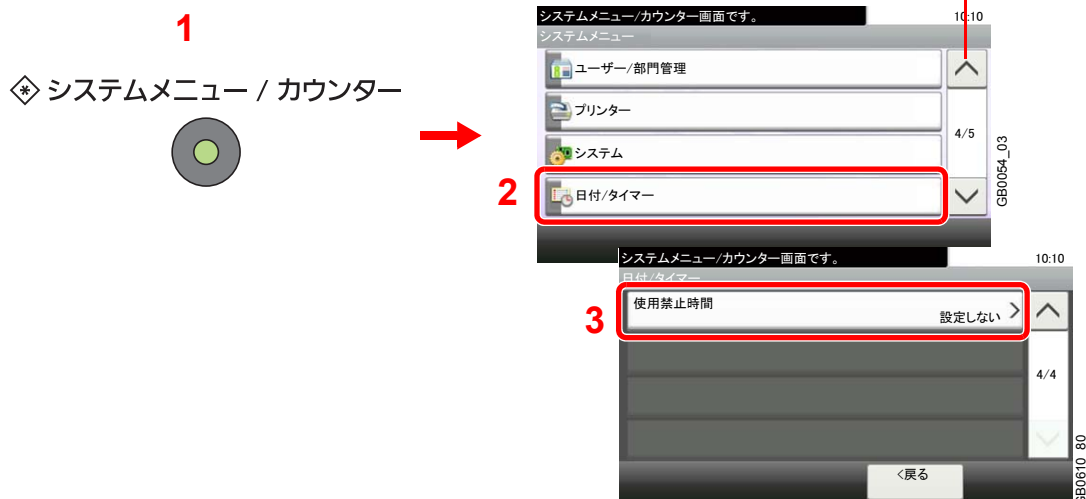
1 画面を表示する

2 設定する

受信を許可する場合は[許可する]を押してください。受信を拒否するときは[拒否する]を押してください。

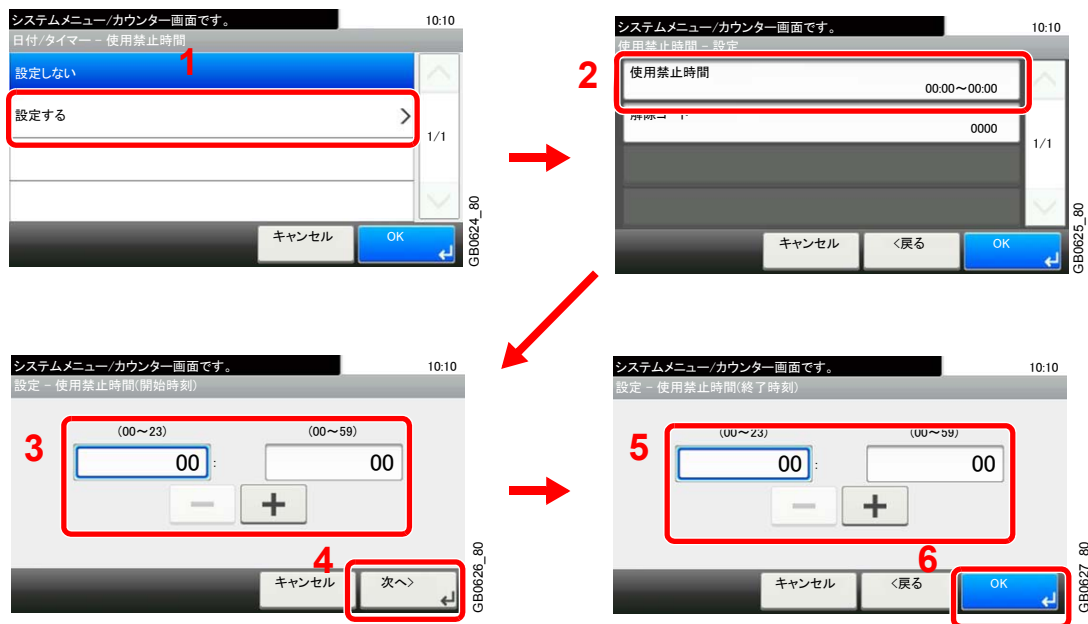
使用禁止時間

受信したファクスの印刷を禁止する時間帯を設定します。

> **重要**
> 使用禁止時間を設定すると、禁止時間中はファクスの印刷以外にも、コピー印刷、プリンター印刷、メール受信印刷、USBメモリーからの印刷、送信、Network FAX送信など、すべての動作が禁止されます。

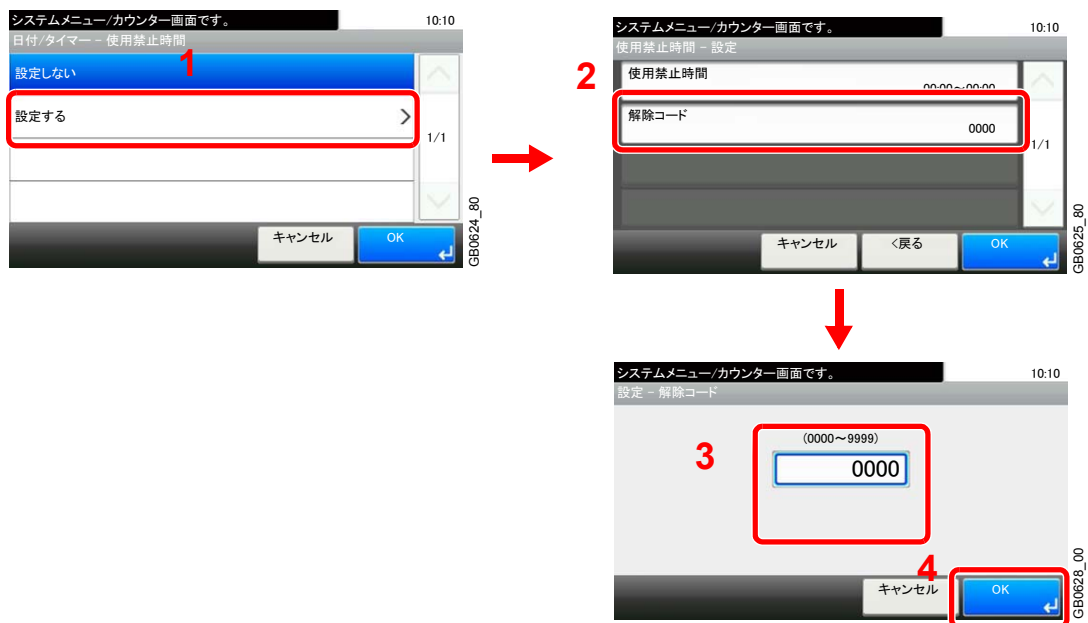
> **参考**
> ユーザー認証画面が表示されます。ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、［ログイン］を押してください。ログインユーザー名とログインパスワードの工場出荷時の値については、**本体使用説明書のユーザーの新規登録**を参照してください。

1 画面を表示する

2 設定する

使用禁止時刻の設定

[＋][－]またはテンキーで、開始時刻と終了時刻を入力し、[OK]を押してください。

> **参考**
> 開始時刻と終了時刻を同じ時刻に設定すると、終日の設定になります。

解除コードの設定

禁止時間中に一時的に使用するための解除コードを設定します。

テンキーで、解除コード(0000～9999)を入力し、[OK]を押してください。

> **参考**
> 禁止時間中に一時的に使用する場合は、使用禁止時間のメッセージ画面で解除コードを入力し、[ログイン]を押してください。

管理機能

管理機能は、本機を使用できるユーザーを特定するユーザー管理と部門別の使用量を管理する部門管理に分かれます。ユーザー管理ではユーザー名とパスワードによって100 人までのユーザーを管理できます。部門管理では部門コードを入力してから送信や通信予約を行うことによって、100部門までのファクスの使用状況を各部門ごとに把握することができます。各管理方法については本体の使用説明書を参照してください。

ユーザー管理の内容

項目	内容
ユーザーの登録	ユーザーの権限、ユーザー名やパスワードなどを登録します。
ユーザー管理の有効/無効	ユーザー管理を有効にします。

参考
詳細は本体の使用説明書を参照してください。

部門管理の内容

項目	内容
部門の登録	部門名や部門コード（最大8桁）を登録します。
部門管理の有効/無効	部門管理を有効にします。
ファクス送信制限	ファクスの送信枚数を制限します。使用の禁止や制限をなくすこともできます。
使用枚数の集計	全部門または部門別に、ファクスの送信ページ数やファクスの送信に使用した時間を参照しリセットできます。
部門レポートの印刷	全部門で集計された印刷や送信のページ数を印刷できます。

参考
詳細は本体の使用説明書を参照してください。

部門管理の対象となる通信形態

- 通常送信
- タイマー送信
- 同報送信
- Fコード送信
- 暗号送信
- 本機より相手先へダイヤルした場合の手動送信
- ポーリング受信
- Network FAX送信

使用機能の制限

部門管理を有効にすると、次の操作を行うときには部門コードの入力が必要となります。

- 通常送信
- タイマー送信
- 同報送信
- Fコード送信
- Fコードボックスからの印刷

- 暗号送信
- 本機より相手先へダイヤルした場合の手動送信
- ポーリング受信
- Network FAX送信

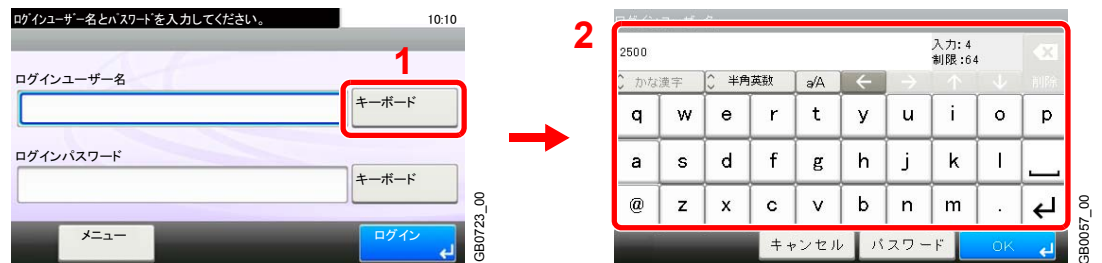
部門管理が有効であるとき、一括送信機能は部門コードが同一のものについてのみ働きます。部門コードが異なる通信は一括送信されません。

通常、発信元記録には自局名称が印刷されますが、部門管理が有効であるときに部門コードを入力して送信を行った場合は、部門名称が印刷されます。

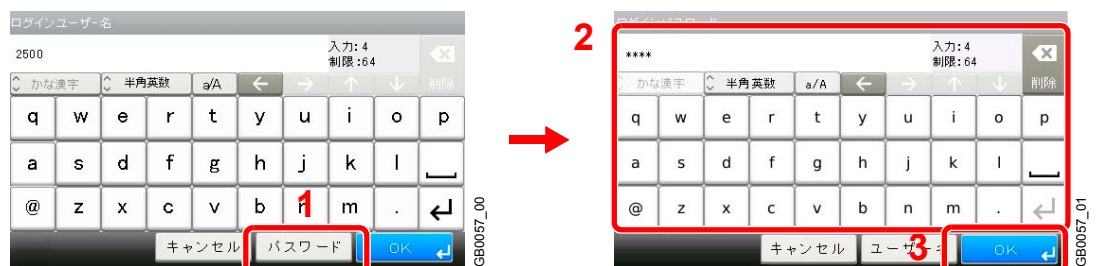
ユーザー管理が有効であるときにログインする

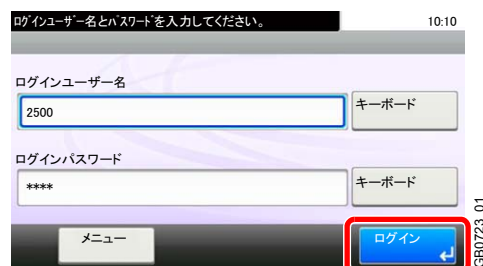
ユーザー管理を有効にすると、本機を使用する際に、ユーザー名とパスワードを入力する必要があります。

通常のログイン

1 ユーザー名を入力する

操作中にこの画面が表示されたら、[**キーボード**]を押してユーザー名を入力します。

11-3ページの**文字の入力方法**を参照してください。

2 パスワードを入力する

[**パスワード**]を押してパスワードを入力します。

3 ログインする

ユーザーの認証方法が「**ネットワーク認証**」に設定されている場合、認証先を[**ローカル**]または[**ネットワーク**]から選択できます。

簡単ログイン

操作中にこの画面が表示されたら、ユーザーを選択してログインします。

 参考

ユーザーパスワードが必要な場合は、入力画面が表示されます。

 詳細は、本体の**使用説明書**を参照してください。

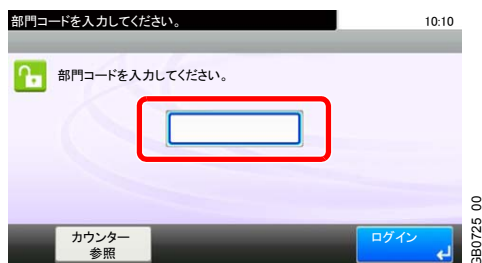
操作が終わったら、ログアウトキーを押してください。

ログアウト

部門管理が有効であるときにログインする

部門管理を有効にすると、本機を使用する際に部門コードを入力する必要があります。

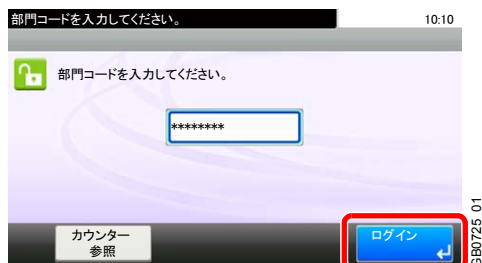
ログイン

1 部門コードを入力する

操作中にこの画面が表示されたら、部門コードを入力します。

参考
入力を間違えたときは、クリアキーを押して入力し直してください。

登録された部門コードと一致しない場合はエラー音が鳴り、ログインできません。正しい部門コードを入力してください。

[**カウンタ参照**]を押すと、使用した枚数を参照できます。

2 ログインする

参考
操作が終わったら、ログアウトキーを押してください。

ログアウト

10　こんなときには

この章では、次の項目について説明します。

送/受信中のランプ表示について

ファクスの送/ 受信中は、処理中ランプ、メモリーランプで状況がわかります。

- ファクスの送/ 受信中は処理中ランプが点滅します。
- メモリー送信などで、原稿がメモリーに記憶されるときに、メモリーランプが点滅します。
- タイマー送信で、メモリーに記憶されている原稿がある場合、メモリーランプが点灯します。

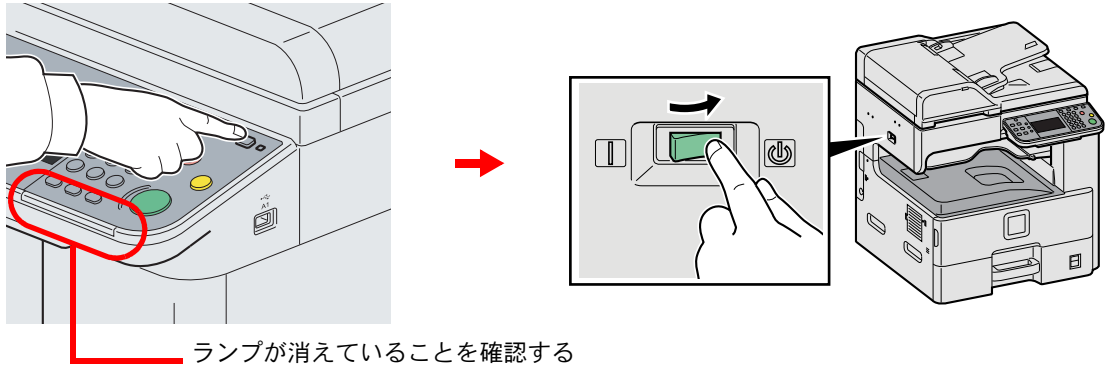
アテンションランプが点灯または点滅したとき

アテンションランプが点灯または点滅しているときは、状況確認/ジョブ中止キーを押してエラー情報を確認してください。状況確認/ジョブ中止キーを押してもエラー情報が表示されない場合や、アテンションランプが一時的に点滅（1.5秒間）したときは、次のことをお調べください。

現象	確認事項	処置方法	参照ページ
ファクスが送信できない。	モジュラーコードが正しく接続されていますか。	モジュラーコードの接続を確認してください。	―
	ファクスの許可ID番号または許可ファクス番号が正しく設定されていますか。	設定を確認してください。	9-10ページ
	ファクスの通信エラーが発生していませんか。	送信/受信結果レポートや通信管理レポートのエラーコードを確認し、適切な処置を行ってください。	10-6ページ
	宛先のファクスと回線がつながりません。	もう一度送信してください。	―
	宛先のファクスが応答しません。	もう一度送信してください。	―
	ファクスのトーン信号が検出できません。	サービス担当者にご連絡ください。	―

電源を切るときの注意

電源を切る場合は操作パネルにある**電源キー**を押してください。主電源スイッチを切ると、ファクスを自動受信できなくなりますのでご注意ください。

主電源スイッチを切るときは、操作パネルの**電源キー**を押して、処理中ランプおよびメモリーランプが消灯していることを確認してから切ってください。

参考
処理中ランプやメモリーランプが点灯しているときは、本機が動作しています。本機が動作しているときに主電源スイッチを切ると、故障する原因となる可能性があります。

こんな表示が出たら

異常が発生するとタッチパネルにエラーメッセージが表示されます。次の表を参照して対処してください。

参考
通信エラーが発生したときは、エラーメッセージとともに受信/ 送信結果レポートが印刷されます。

受信/送信結果レポートに表記されるエラーコードを確認して、10-6ページのエラーコード一覧表で内容を参照してください。受信/ 送信結果レポートの印刷については、8-4ページの送信結果レポート、および8-6ページの受信結果レポートを参照してください。

エラーコードは通信管理レポートでも確認することができます。(8-7ページの通信管理レポート参照)

エラーメッセージ	確認事項	処置	参照ページ
故障が発生しました。	―	主電源スイッチを入れ直す、または電源プラグを差し直してください。再度表示される場合は、表示されているCと数字を書きとめてください。主電源スイッチを切って電源コードを抜き、サービス担当者またはサービス実施店にご連絡ください。	―
ボックスの容量制限を超えました。	―	• Fコードボックスの原稿がいっぱいになりました。[終了]を押してください。ジョブはキャンセルされます。Fコードボックスの原稿を印刷または削除してから、再度操作してください。 • ポーリングボックスの原稿がいっぱいになりました。[終了]を押してください。ジョブはキャンセルされます。ポーリングボックスの原稿を削除してから、再度操作してください。	6-13ページ
部門管理の制限を超えました。	―	部門管理で制限されている使用枚数に達したため、これ以上の操作ができません。[終了]を押してください。このジョブは中止されます。 使用枚数をリセットしてから、再度操作してください。	本体使用説明書参照
部門管理で使用が禁止されています。	―	部門管理でファクス送信が使用禁止になっているため、これ以上の操作ができません。[終了]を押してください。このジョブは中止されます。 部門管理の設定を確認してください。	本体使用説明書参照
付属電話機の受話器がはずれています。	本機に接続されたハンドセット オプション)または電話機(市販品)の受話器が上がっていませんか。	ハンドセットまたは受話器を戻してください。	―
送信ジョブの予約制限数を超えました。	―	タイマー送信をセットできる件数を超えています。[終了] を押してください。このジョブは中止されます。 タイマー送信が実行されるのを待つか、タイマー送信をキャンセルしてから、再度操作してください。	4-17ページ

エラーメッセージ	確認事項	処置	参照ページ
カセット〇に以下の用紙を補給してください。	表示されているカセットの用紙がなくなっていませんか？	用紙を補給してください。受信用紙種類を指定している場合は、必要な用紙種類も表示されます。 他の給紙元の用紙で印刷をする場合は、[用紙選択]を押してください。選択した用紙で印刷する場合は、[継続]を押してください。	―
	受信用紙種類を指定していませんか。	指定されている用紙種類のカセットがありません。他の給紙元を選択して[継続]を押してください。	―
ファクスポーリング受信に使用できる宛先は1件のみです。宛先を再設定してください。	ポーリング受信の相手先を複数指定していませんか。	一度に指定できるポーリング受信の相手先は1件です。宛先を設定しなおしてください。	6-26ページ

エラーコード一覧表

通信エラーが発生すると、送信/ 受信結果レポートや通信管理レポートには、次のようなエラーコードが記録されます。

参考
通信速度の設定によっては、エラーコードの「U」は「E」で表示されます。

エラーコード	原因および処置方法
話し中	設定されている回数の自動リダイヤルが行われたにもかかわらず、相手先と回線がつながりません。もう一度送信してください。
キャンセル	送信中に、送信の中止操作を行ったため、送信が中止されました。 受信中に、受信の中止操作を行ったため、受信が中止されました。
U00300	送信中に相手機側（受信側）で用紙がなくなっています。相手先を確認してください。
U00430 - U00462	相手先からの受信の際に、回線はつながったが相手機側（送信側）と通信機能に不一致があったため、受信が中断されました。
U00601 - U00690	本機のトラブルにより、通信が中断されました。もう一度送信または受信してください。
U00700	相手機側のトラブルにより、通信が中断されました。相手先を確認してください。
U00800 - U00811	正しく送信できなかったページがあります。もう一度送信してください。
U00900 - U00910	正しく受信できなかったページがあります。もう一度受信してください。
U01000 - U01097	送信中に通信エラーが発生しました。もう一度送信してください。
U01100 - U01196	受信中に通信エラーが発生しました。もう一度受信してください。
U01400	回線設定でプッシュ回線を選択していたときに登録された#を含むダイヤルをダイヤル（パルス）回線に変更した状態で使用したため、該当する相手先との通信ができませんでした。
U01500	高速の送信速度で送信時、通信エラーになりました。もう一度送信してください。
U01600	高速の送信速度で受信時、通信エラーになりました。相手先の送信速度を下げた状態で、もう一度送信してもらってください。
U01700 - U01720	高速の送信速度で送信時、通信エラーになりました。もう一度送信してください。
U01721	高速の送信速度で送信時、通信エラーになりました。相手先に使用した送信速度がないかもしれません。送信開始速度を下げて、もう一度送信してください。
U01800 - U01820	高速の送信速度で受信時、通信エラーになりました。相手先の送信速度を下げた状態で、もう一度送信してもらってください。
U01821	高速の送信速度で受信時、通信エラーになりました。本機に使用した送信速度がないかもしれません。相手先の送信速度を下げた状態で、もう一度送信してもらってください。
U03000	ポーリング受信を行ったところ、相手先のファクスに原稿がセットされていなかったため、受信できませんでした。相手先を確認してください。
U03200	相手機が弊社機である場合に、F コード掲示板受信を行ったところ、指定したF コード親展ボックスには何も入っていませんでした。相手先を確認してください。
U03300	次の1と2のどちらかが原因でエラーとなりました。相手先を確認してください。 1 相手機が弊社機である場合に、ポーリング受信を行ったところ、相手先で送受信制限が設定されており、パスワードが不一致であったため通信が中断されました。 2 相手機が弊社機である場合に、F コード掲示板受信を行ったところ、相手先で送受信制限が設定されており、パスワードが不一致であったため通信が中断されました。
U03400	ポーリング受信を行ったところ、相手先で入力されたパスワードと受信側の自局ファクスIDが一致しなかったため受信が中断されました。相手先を確認してください。
U03500	相手機が弊社機である場合に、Fコード掲示板受信を行ったところ、指定したFコード親展ボックスが相手機に登録されていませんでした。相手先を確認してください。

エラーコード	原因および処置方法
U03600	相手機が弊社機である場合に、Fコード掲示板受信を行ったところ、指定したFコードパスワードが一致しなかったため受信が中断されました。相手先を確認してください。
U03700	Fコード掲示板受信を行ったところ、相手機にFコード掲示板通信機能がありませんでした。または、どの原稿受渡しボックス（Fコード親展ボックス）にも原稿が入っていませんでした。
U04000	相手機が弊社機である場合に、Fコード親展ボックスに原稿を送信しようとしたところ、指定したボックスが相手機に登録されていませんでした。または、転送条件のサブアドレスが一致しませんでした。
U04100	相手先の原稿受渡しボックス（Fコード親展ボックス）に原稿を送信しようとしたところ、相手機に対応する機能がありませんでした。または、転送条件のサブアドレスが一致しませんでした。
U04200	暗号送信を行ったところ、指定したボックスが登録されていなかったため、送信が中断されました。
U04300	暗号送信を行ったところ、相手先のファクスには暗号通信機能がなかったため、送信が中断されました。
U04400	暗号送信を行ったところ、暗号鍵が不一致であったため、送信が中断されました。
U04500	暗号受信を行ったところ、暗号鍵が不一致であったため、受信が中断されました。
U05100	送信を行ったところ、本機に送信制限が設定されており、そのために必要な通信条件を満足しなかったため、送信が中断されました。相手先を確認してください。
U05200	相手先から原稿が送信されてきましたが、本機に受信制限が設定されており、そのために必要な通信条件を満足しなかったため、受信が中断されました。
U05300	送信を行ったところ、相手先側で受信制限が設定されており、そのために必要な通信条件を満足しなかったため、相手先側から受信を拒否されました。相手先を確認してください。
U14000	Fコードボックスへの受信が行われましたが、本機のメモリーオーバーにより受信が中断されました。メモリー内に蓄積（記憶）されている原稿を印刷しメモリーに空きを作るか、Fコードボックスでの受信を中止してください。
U14100	相手機が弊社機である場合に、相手先ファクスボックスまたはFコードボックスへの送信を行ったところ、相手機のメモリーオーバーにより送信が中断されました。相手先を確認してください。
U19000	代行受信が行われましたが、本機のメモリーオーバーにより受信が中断されました。メモリー内に蓄積（記憶）されている原稿を印刷しメモリーに空きを作ってから、もう一度受信してください。
U19100	送信を行ったところ、相手先のファクスのメモリーオーバーにより送信が中断されました。相手先を確認してください。
U19300	送信中にデータに異常が発生し、送信が中断されました。もう一度送信してください。

トラブルが発生した場合

トラブルが発生した場合は、次のことを調べてください。それでもなお異常が見られるときには、サービス実施店またはお買い上げ店までご連絡ください。

トラブル内容	確認事項	処置方法	参照ページ
送信できない。	モジュラコードが正しく接続されていますか。	モジュラコードを正しく接続してください。	―
	「送信エラーです。」が表示されていませんか。	エラーの原因を除去した上で、もう一度送信してください。	10-6ページ
	送信制限をしていませんか。	送信制限を解除してください。	9-10ページ
同報送信ができない。	メモリーがいっぱいになっていませんか。	メモリーに空きができてから送信するか、メモリー内に空きを作ってください。	―
暗号通信ができない。	送信側/ 受信側でそれぞれ登録されている内容は正しいですか。	送信側、受信側の両者で登録内容をもう一度確認してください。	6-35ページ
リモート切替機能が使用できない。	ダイヤル（パルス）回線を使用していませんか。	電話機によってはボタンなどでトーン信号を送出できる場合があります。電話機の使用説明書を参照してください。	―
	リモート切替番号は正しいですか。	登録内容を確認してください。（工場出荷時：55）	7-10ページ
受信したが、印刷されない。	メモリー転送がセットされていませんか。	転送先を確認してください。	6-2ページ
受信できない。	モジュラコードが正しく接続されていますか。	モジュラコードを正しく接続してください。	―
	「通信エラーが発生しました。」が表示されていませんか。	エラーの原因を除去した上で、もう一度相手先から送信してもらってください。	10-6ページ
	受信制限をしていませんか。	受信制限を解除してください。	9-10ページ
代行受信できない。	メモリーがいっぱいになっていませんか。	メモリーに空きができてから受信を行うか、メモリー内に空きを作ってください。	―
Fコード送信ができない。	相手機はFコード機能を有したファクスですか。	相手機が同様のFコード機能を有していない場合、Fコード通信を行えません。	―
	入力したサブアドレスやF コードパスワードは、相手機で登録されているサブアドレスやFコードパスワードと一致していますか。	入力内容に誤りがないときは、相手先に確認してください。本機で受信する場合、Fコードパスワードは使用しません。	6-23ページ
	相手機のメモリーがいっぱいになっていませんか。	相手先に確認してください。	―
メモリー転送ができない。	メモリー転送が[設定する]になっていますか。	メモリー転送の設定を確認してください。	6-2ページ
Fコード通信を使った、メモリー転送ができない。	相手機はFコード機能を有したファクスですか。	相手機が同様のFコード機能を有していない場合、Fコード通信を行えません。	―
	設定したFコードサブアドレスは、相手機で登録されているFコードサブアドレスと一致していますか。	入力内容に誤りがないときは、相手先に確認してください。本機で受信する場合、Fコードパスワードは使用しません。	6-2ページ
Fコードボックスから印刷できない。	ボックスパスワードを設定していますか。	正しいボックスパスワードを入力してください。	6-13ページ
ポーリング受信ができない。	相手機でポーリング送信が正しく操作されていますか。	相手先に確認してください。	―

トラブル内容	確認事項	処置方法	参照ページ
Fコード掲示板通信ができない。	相手機は同様のFコード掲示板通信機能を有したファクスですか。	相手機が同様のFコード掲示板通信機能を有していない場合、Fコード掲示板受信はできません。相手先に確認してください。	―
	入力したFコードサブアドレスやFコードパスワードは正しいですか。	入力内容に誤りがない場合は、相手先に確認してください。	―

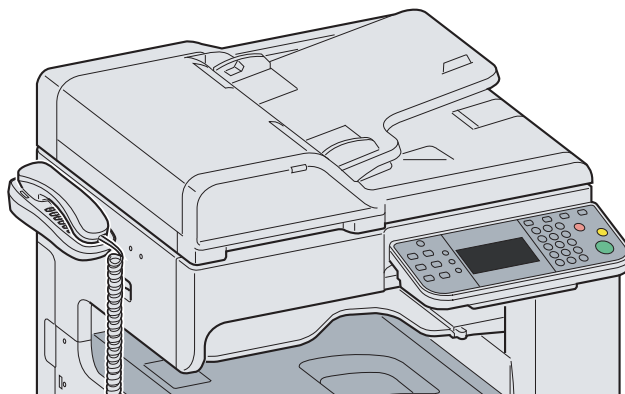
11　付録

この章では、次の項目について説明します。

オプションについて

ファクスキットで使用できるオプション機器を紹介します。

ハンドセット

本機で音声通話ができるようになります。また、手動での送/ 受信の際にも使用します。

ハンドセットについては、7-2ページの**ハンドセットについて**を参照してください。

文字の入力方法

名前などを入力するときに使用する、タッチパネル上のキーボードについて説明します。

漢字の入力は、かな入力とローマ字入力の両方からできます。また、漢字変換の際には文節変換が可能です。

文字を入力するときは、まず入力方式と入力文字をそれぞれ選択してください。

入力方式の選択

入力方式には次の3種類があります。

かな漢字－かな入力で漢字などを入力するときに使用してください。

ローマ漢字－ローマ字入力（例えば、「か」と入力するとき「K」「A」と入力する）で漢字などを入力するときに使用してください。

区点入力－4桁の区点コードを入力して漢字などを入力するときに使用してください。

1 入力方式を切り替える

入力方式（[かな漢字]、[ローマ漢字]、[区点入力]）が表示されているキーを押すと、順番に入力方式が切り替わります。

入力文字の選択

入力方式で「かな漢字」または「ローマ漢字」を選択したときは、入力文字には次の7種類があります。

ひらがな－漢字変換できます。無変換のときは全角ひらがなになります。

全角記号－無変換で全角記号、全角数字を入力するときに使用してください。

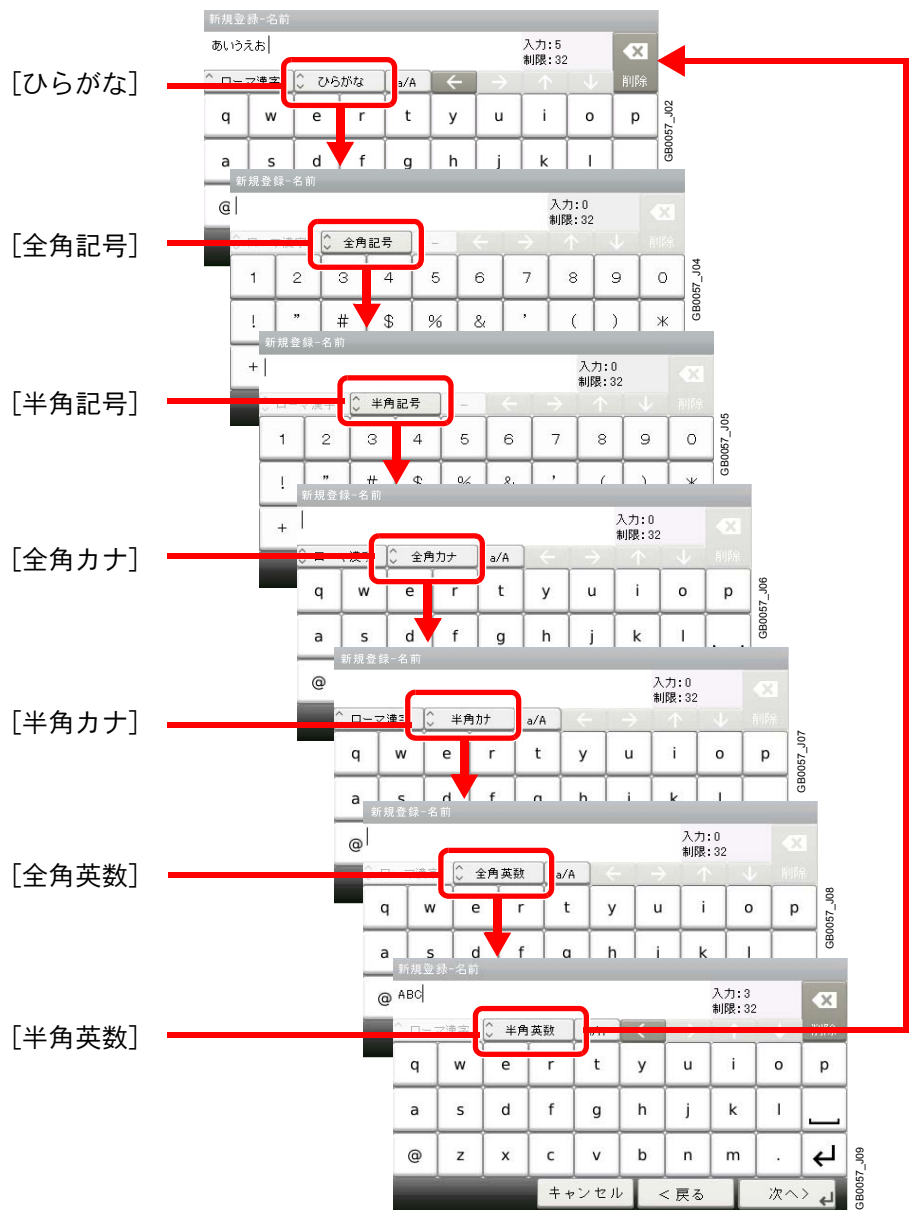
半角記号－無変換で半角記号、半角数字を入力するときに使用してください。

全角カナ－全角カタカナを入力するときに使用してください。

半角カナ－半角カタカナを入力するときに使用してください。

全角英数－無変換で全角アルファベットを入力するときに使用してください。

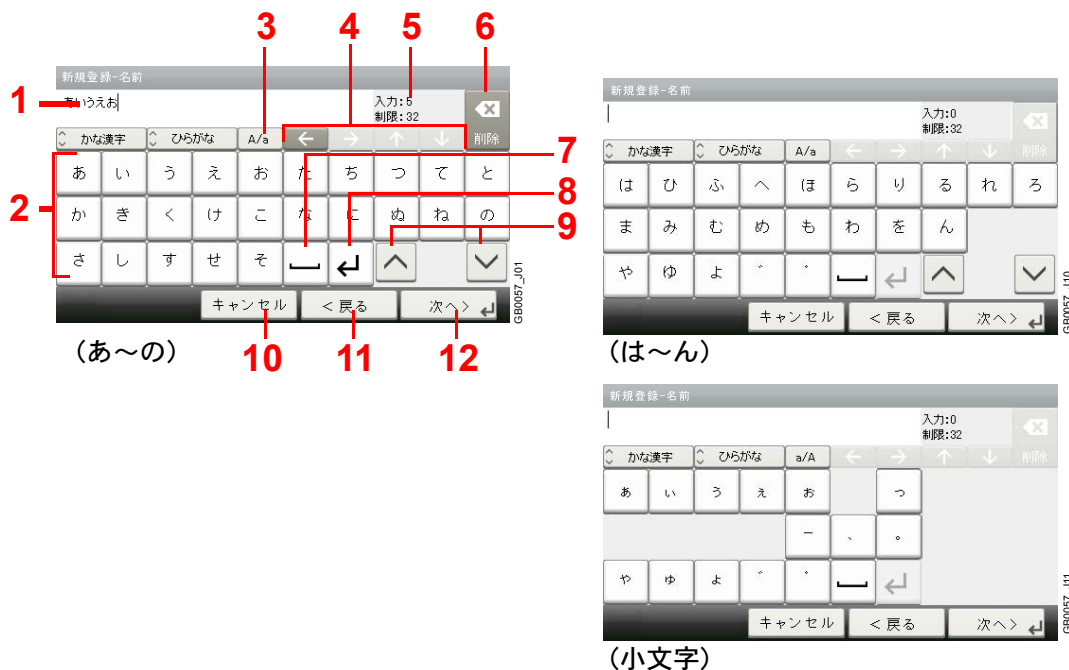
半角英数－無変換で半角アルファベットを入力するときに使用してください。

1 入力文字を切り替える

入力文字が表示されているキーを押すと、順番に入力文字が切り替わります。

参考
入力方式として「区点入力」を選択したときは、入力文字は選択できません。

入力画面

かな漢字入力

次の画面は入力文字として「ひらがな」を選択した場合です。

番号	表示/キー	説明
1	文字表示部	入力した文字を表示します。
2	キーボード	入力する文字を押してください。
3	[A/a]、[a/A]	「ぁ、ぃ、ぅ、ぇ、ぉ、っ、ゃ、ゅ、ょ、ー、(、)、(。)」を入力するときに押してください。もう一度押すと、元の画面に戻ります。
4	カーソルキー	文字表示部のカーソルを移動させるときに押してください。
5	[入力]、[制限]	変換する文字が選択されていないときに表示されます。 文字数の制限と入力している文字数を表示します。
	[変換]	変換する文字が選択されているときに表示されます。 入力した文字を漢字などに変換するときに押してください。
6	[削除]	カーソルの左の文字を削除するときに押してください。
7	スペースキー	スペースを入力するときに押してください。
8	改行/確定キー	入力した文字を改行したり、未確定の文字を確定するときに押してください。
9	[▲]、[▼]	キーボード(あ～の)とキーボード(は～ん)を切替えるときに押してください。
10	[キャンセル]	入力した文字をキャンセルして、文字入力の前の画面に戻るときに押してください。
11	[<戻る]	前の画面に戻るときに押してください。
12	[OK]/[次へ>]	入力した文字を確定して、次の画面に進むときに押してください。

参考

操作パネルのクリアキーを押すと、文字表示部のすべての文字を削除します。入力状態が未確定の場合は、未確定文字を削除します。

ローマ漢字入力

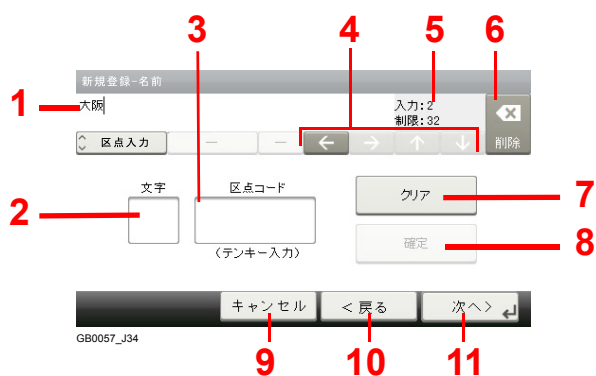
次の画面は入力文字として「ひらがな」を選択した場合です。

番号	表示/キー	説明
1	文字表示部	入力した文字を表示します。
2	キーボード	入力する文字を押してください。
3	[A/a]、[a/A]	キーボード（大文字）とキーボード（小文字）を切り替えるときに押してください。
4	カーソルキー	文字表示部のカーソルを移動させるときに押してください。
5	[入力]、[制限]	変換する文字が選択されていないときに表示されます。 文字数の制限と入力している文字数を表示します。
	[変換]	変換する文字が選択されているときに表示されます。 入力した文字を漢字などに変換するときに押してください。
6	[削除]	カーソルの左の文字を削除するときに押してください。
7	スペースキー	スペースを入力するときに押してください。
8	改行/確定キー	入力した文字を改行したり、未確定の文字を確定するときに押してください。
9	**[キャンセル]**	入力した文字をキャンセルして、文字入力の前の画面に戻るときに押してください。
10	**[<戻る]**	前の画面に戻るときに押してください。
11	**[OK]/[次へ>]**	入力した文字を確定して、次の画面に進むときに押してください。

参考

操作パネルの**クリア**キーを押すと、文字表示部のすべての文字を削除します。入力状態が未確定の場合は、未確定文字を削除します。

区点入力

次の画面は入力方式として「区点入力」を選択した場合です。

番号	表示/キー	説明
1	文字表示部	入力した文字を表示します。
2	入力文字表示部	区点コードに対応した文字を表示します。
3	区点コード表示部	入力した区点コードを表示します。
4	カーソルキー	文字表示部のカーソルを移動させるときに押してください。
5	[入力]、[制限]	文字数の制限と入力している文字数を表示します。
6	[削除]	カーソルの左の文字を削除するときに押してください。
7	[クリア]	入力した区点コードを消去するときに押してください。
8	[確定]	区点コードに対応した文字を確定するときに押してください。
9	[キャンセル]	入力した文字をキャンセルして、文字入力の前の画面に戻るときに押してください。
10	[< 戻る]	前の画面に戻るときに押してください。
11	[OK]/[次へ>]	入力した文字を確定して、次の画面に進むときに押してください。

参考
各文字の区点コードは、本体の**使用説明書**を参照してください。

かな漢字入力とローマ字漢字入力での文字変換

ローマ漢字入力、かな漢字入力のそれぞれの入力画面で変換前の文字を入力した後、[変換]を押すと次のような文字変換画面が表示されます。

番号	表示/キー	説明
1	文字表示部	入力した文字を表示します。
2	[AB]、[AB]	変換対象文節の長さを変更するときに押してください。
3	[←]、[→]	変換対象の文節を移動させるときに押してください。
4	[入力]、[制限]	文字数の制限と入力している文字数を表示します。
5	変換候補リスト	選択中の文節に対する変換候補を表示します。
6	[∧]、[∨]	表示されている以外に変換候補がある場合、変換候補をスクロールするときに押してください。
7	[確定]	未確定文字をすべて確定するときに押してください。
8	[取り消し]	[変換] を押す前に戻るときに押してください。

【入力例】「京都営業所」と入力するとき

入力は一文字ずつできますが、ここでは一度にひらがなを入力し文節に変換していく方法を説明します。

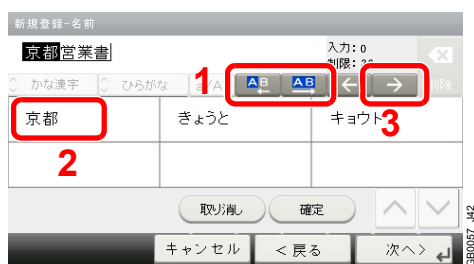
1 「きょうとえいぎょうしょ」と入力する

入力方式が[かな漢字]の場合「きょうとえいぎょうしょ」と順にタッチパネル上で入力してください。
入力方式が[ローマ漢字]の場合、「kyoutoeigyousho」と順にタッチパネル上で入力してください。文字表示部に「きょうとえいぎょうしょ」と表示されます。

2 [変換]を押す

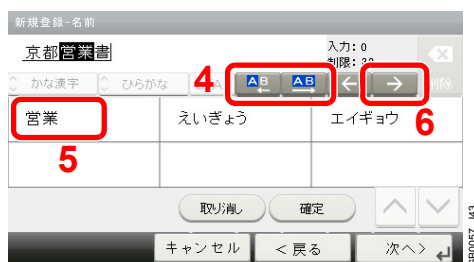
文字変換画面を表示します。反転されている部分が変換する文字です。

3 文節を調整して変換する

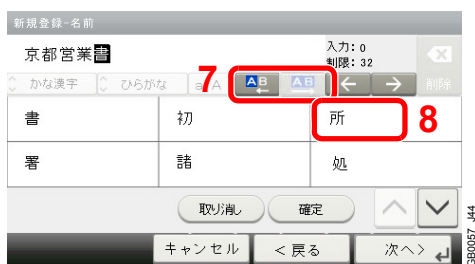
1 [AB]または[AB]を押して、変換する部分(この場合まず「きょうと」)を反転させてください。変換候補が表示されます。

2 変換候補リストから、変換する文字(この場合[京都])を押してください。

> **参考**
> 表示されている以外の変換候補がある場合、[∧]または[∨]を押して画面をスクロールしてください。

3 [→]を押してください。「京都」が決定します。

4 [AB]または[AB]を押して、次の変換する部分(この場合「えいぎょう」)を反転させてください。変換候補が表示されます。

5 変換候補リストから、変換する文字(この場合[営業])を押してください。

6 [→]を押してください。「営業」が決定します。

7 [ ]または[ ]を押して、次の変換する部分（この場合「しょ」）を反転させてください。変換候補が表示されます。

8 変換候補リストから、変換する文字（この場合[所]）を選択してください。

4 変換を確定する

文字の変換が終了すれば、[確定]を押してください。入力画面に戻ります。

区点コードでの文字変換

【入力例】「大阪」と入力する場合

この例で入力する「大」の区点コードは「3471」、「阪」の区点コードは「2669」となります。

参考

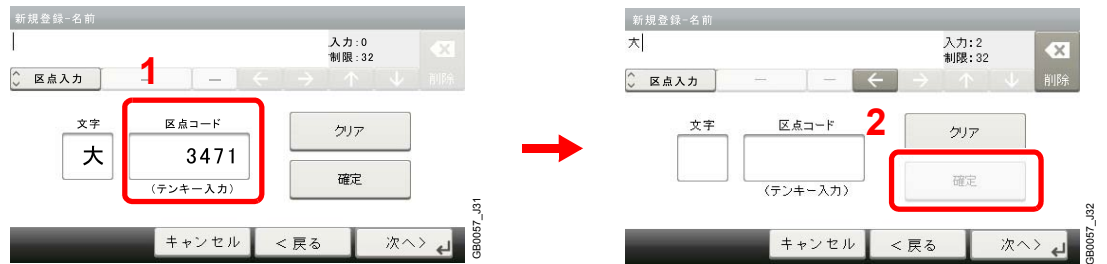
入力できる文字は全角文字に限ります。半角文字は入力できません。

各文字の区点コードは、本体の**使用説明書**を参照してください。

漢字を探すときは、音読みで探してください。

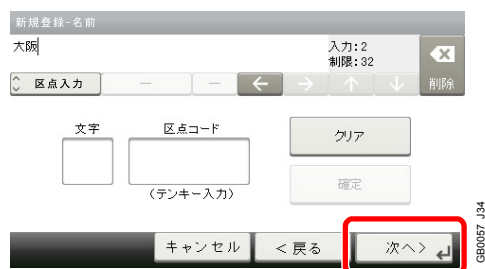
1 入力方式を[区点入力]にする

[かな漢字]または[ローマ漢字]を押して、[区点入力]を表示させてください。

2 「大」を入力する

テンキーを使って、「3」、「4」、「7」、「1」を入力すると、入力文字表示部に「大」が表示されます。[確定]を押すと「大」が入力されます。

3 「阪」を入力する

同様にして、区点コード「2669」を入力して[確定]を押すと、「阪」の文字が「大」の後に続いて入力されます。

4 入力した文字を登録する

[次へ>]を押してください。入力した文字を登録します。

仕様

重要
仕様は性能改善のため予告なく変更することがあります。

項目	仕様
形式	オプションFAXキット
相互通信	G3
適用回線	加入電話回線、Fネット
伝送時間	3秒以下（33600 bps、JBIG、ITU-T A4-R #1 chart）
伝送速度	33600/31200/28800/26400/24000/21600/19200/16800/14400/12000/ 9600/7200/4800/2400 bps
符号化方式	JBIG/MMR/MR/MH
誤り訂正	ECM
原稿サイズ	最大原稿幅：297 mm、最大原稿長さ：432 mm
原稿自動給紙枚数	最大50 枚（原稿送り装置使用時）
走査線密度	主走査× 副走査 200 × 100 dpi ノーマル（8 dot/mm × 3.85 line/mm） 200 × 200 dpi ファイン（8 dot/mm × 7.7 line/mm） 200 × 400 dpi スーパー（スーパーファイン）（8 dot/mm × 15.4 line/mm） 400 × 400 dpi ウルトラ（ウルトラファイン）（16 dot/mm × 15.4 line/mm）
印刷解像度	600 × 600 dpi
中間調	256 階調（誤差拡散）
ワンタッチキー	100件
同報送信	最大100宛先
代行受信	700枚以上（ITU-T A4 #1 使用時）
画像蓄積用メモリー容量	標準メモリー（9.5 MB）（ファクス送受信原稿用）
印刷レポート類	送信結果レポート、受信結果レポート、通信管理レポート、ステータスページ
オプション	ハンドセット

メニューマップ

ファクス

ファクス	
ワンタッチキー(3-6ページ)	
アドレス帳(3-4ページ)	
拡張アドレス帳(京セラミタCOMMAND CENTER操作説明書参照)	
新規宛先(3-2ページ)	
機能一覧	原稿サイズ(4-8ページ)
	原稿セット向き(4-9ページ)
	原稿サイズ混載(4-10ページ)
	両面/見開き原稿(4-10ページ)
	送信サイズ(4-11ページ)
	ファクス送信解像度(4-12ページ)
	濃度(4-13ページ)
	原稿の画質(4-13ページ)
	縮小/拡大(4-14ページ)
	連続読み込み(4-14ページ)
	文書名入力(4-23ページ)
	ジョブ終了通知(4-22ページ)
	ファクスタイマー送信(4-17ページ)
	ファクスダイレクト送信(4-15ページ)
	ファクスポーリング受信(6-26ページ)
	ショートカット追加/編集(本体の使用説明書参照)

文書ボックス

文書ボックス
ジョブボックス(本体の使用説明書参照)
外部メモリー(本体の使用説明書参照)
Fコードボックス(6-13ページ)
ポーリングボックス(6-26ページ)

状況確認/ジョブ中止

状況確認/ジョブ中止
印刷ジョブ状況(本体の使用説明書参照)
送信ジョブ状況(本体の使用説明書参照)
保存ジョブ状況(本体の使用説明書参照)
予約ジョブ(4-18ページ)
印刷ジョブ履歴(8-3ページ)
送信ジョブ履歴(8-3ページ)
保存ジョブ履歴(8-3ページ)
スキャナー(本体の使用説明書参照)
プリンター(本体の使用説明書参照)

ファクス	メニュー	手動受信(5-7ページ)
		ファクス発信履歴(8-7ページ)
		ファクス着信履歴(8-7ページ)
		ファクス発信レポート(8-7ページ)
		ファクス着信レポート(8-7ページ)
トナー状況(本体の**使用説明書参照**)		
用紙状況(本体の**使用説明書参照**)		
外部メモリー(本体の**使用説明書参照**)		
USBキーボード(本体の**使用説明書参照**)		
ステープル(本体の**使用説明書参照**)		

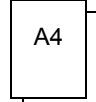
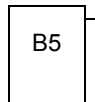
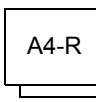
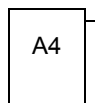
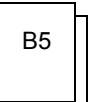
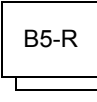
システムメニュー / カウンター

簡単セットアップウィザード	ファクスのセットアップ(1-6ページ)			
	用紙のセットアップ(本体の**使用説明書参照**)			
	省エネのセットアップ(本体の**使用説明書参照**)			
言語選択(本体の**使用説明書参照**)				
レポート(9-4ページ)	レポート印刷(9-4ページ)	ステータスページ(8-2ページ)		
		フォントリスト(本体の**使用説明書参照**)		
		ネットワークステータス(本体の**使用説明書参照**)		
		サービスステータスページ(本体の**使用説明書参照**)		
		部門管理レポート(本体の**使用説明書参照**)		
		Fコードボックスリスト(6-22ページ)		
		ファクスリスト(見出し)(2-11ページ)		
		ファクスリスト(番号)(2-11ページ)		
		ファクス発信レポート(9-4ページ)		
		ファクス着信レポート(9-4ページ)		
	管理レポート設定(8-7ページ)	ファクス発信レポート(8-7ページ)		
		ファクス着信レポート(8-7ページ)		
	結果通知設定	送信結果レポート	メール/フォルダー(本体の**使用説明書参照**)	
			ファクス(8-4ページ)	
			送信前の中止レポート(8-5ページ)	
		ファクス受信結果通知	ファクス(8-6ページ)	
			受信結果通知方法(8-10ページ)	
		終了通知設定(本体の**使用説明書参照**)		
	履歴送信(本体の**使用説明書参照**)			

カウンター（本体の**使用説明書参照**）		
ユーザー情報（本体の**使用説明書参照**）		
カセット/手差しトレイ設定 (9-5ページ)	カセット1（～3) (9-5ページ)	
	手差しトレイ (9-5ページ)	
共通設定	初期画面（本体の**使用説明書参照**）	
	音設定 (9-5ページ)	ブザー（本体の**使用説明書参照**）
		ファクススピーカー音量 (9-5ページ)
		ファクスモニター音量 (9-5ページ)
	原稿設定（本体の**使用説明書参照**）	
	用紙設定（本体の**使用説明書参照**）	
	機能初期値	ファクス送信解像度 (9-5ページ)
	排紙先 (9-6ページ)	
	部数制限（本体の**使用説明書参照**）	
	エラー処理設定（本体の**使用説明書参照**）	
	入力長さ単位（本体の**使用説明書参照**）	
	キーボード入力方式（本体の**使用説明書参照**）	
	USBキーボードタイプ（本体の**使用説明書参照**）	
コピー（本体の**使用説明書参照**）		
送信（本体の**使用説明書参照**）		
文書ボックス	Fコードボックス (6-13ページ)	
	ジョブボックス（本体の**使用説明書参照**）	
	ポーリングボックス (6-26ページ)	
ファクス (9-6ページ)	送受信共通設定 (9-6ページ)	暗号鍵登録 (6-35ページ)
		ファクスリモート診断 (9-6ページ)
	送信設定 (9-6ページ)	自局名登録 (9-6ページ)
		自局名登録（フリガナ) (9-6ページ)
		自局ファクスID (9-6ページ)
		自局ファクス番号 (9-6ページ)
		自局印字位置 (9-7ページ)
		回線種類 (9-7ページ)
		リダイヤル回数 (9-7ページ)

<table>
<tr><td rowspan="17">ファクス（9-6ページ）続き</td><td rowspan="15">受信設定（9-7ページ）</td><td>用紙種類（9-7ページ）</td></tr>
<tr><td>縮小受信（9-7ページ）</td></tr>
<tr><td>受信日時記録（9-7ページ）</td></tr>
<tr><td>両面印刷（9-7ページ）</td></tr>
<tr><td>2in1印刷（9-7ページ）</td></tr>
<tr><td>一括印刷（9-8ページ）</td></tr>
<tr><td>ベル回数(普通)（9-8ページ）</td></tr>
<tr><td>ベル回数(留守番電話)（9-8ページ）</td></tr>
<tr><td>ベル回数（ファクス／電話切替）（9-8ページ）</td></tr>
<tr><td>受信方式（9-8ページ）</td></tr>
<tr><td>リモート切り替えダイヤル（9-8ページ）</td></tr>
<tr><td>Fネット無鳴動受信（9-8ページ）</td></tr>
<tr><td>ダイヤルイン（9-8ページ）</td></tr>
<tr><td>暗号受信（6-35ページ）</td></tr>
<tr><td colspan="2">通信制限設定（9-10ページ）</td></tr>
<tr><td colspan="2">条件付き転送（6-2ページ）</td></tr>
<tr><td rowspan="4">アドレス帳/ワンタッチ</td><td colspan="2">アドレス帳（2-2ページ）</td></tr>
<tr><td colspan="2">ワンタッチキー（2-12ページ）</td></tr>
<tr><td>アドレス帳初期設定</td><td>表示順</td></tr>
<tr><td colspan="2">リスト印刷（2-11ページ）</td></tr>
<tr><td colspan="3">ユーザー/部門管理（本体の使用説明書参照）</td></tr>
<tr><td colspan="3">プリンター（本体の使用説明書参照）</td></tr>
<tr><td colspan="3">システム（本体の使用説明書参照）</td></tr>
<tr><td rowspan="13">日付/タイマー</td><td colspan="2">日付/時刻（1-9ページ）</td></tr>
<tr><td colspan="2">日付形式（本体の使用説明書参照）</td></tr>
<tr><td colspan="2">時差（1-9ページ）</td></tr>
<tr><td colspan="2">オートパネルリセット（本体の使用説明書参照）</td></tr>
<tr><td colspan="2">オートスリープ（本体の使用説明書参照）</td></tr>
<tr><td colspan="2">スリープレベル（本体の使用説明書参照）</td></tr>
<tr><td colspan="2">エラー後自動継続（本体の使用説明書参照）</td></tr>
<tr><td colspan="2">低電力モード時間（本体の使用説明書参照）</td></tr>
<tr><td colspan="2">パネルリセット時間（本体の使用説明書参照）</td></tr>
<tr><td colspan="2">スリープ時間（本体の使用説明書参照）</td></tr>
<tr><td colspan="2">割り込み解除時間（本体の使用説明書参照）</td></tr>
<tr><td colspan="2">エラー後自動継続時間（本体の使用説明書参照）</td></tr>
<tr><td colspan="2">使用禁止時間（9-21ページ）</td></tr>
<tr><td colspan="3">調整/メンテナンス（本体の使用説明書参照）</td></tr>
</table>

出荷時設定値一覧表

ファクス機能の設定範囲と出荷時設定値は次のとおりです。

項目	設定範囲	出荷時設定値
管理レポート設定 （ファクス発信レポート）	設定しない、設定する	設定する
通信管理レポート （ファクス着信レポート）	設定しない、設定する	設定する
送信結果レポート （ファクス）	設定しない、エラー時のみ、設定する	エラー時のみ
送信画像の添付	設定しない、一部を添付、全体を添付	一部を添付
送信結果レポート （送信前の中止レポート）	設定しない、設定する	設定しない
ファクス受信結果通知 （ファクス）	設定しない、エラー/転送時のみ、設定する	設定しない
受信結果通知方法	レポート印刷、メール（アドレス帳、拡張アドレス帳、アドレス入力）	レポート印刷
ファクススピーカー音量	1小、2、3中、4、5大、0消音	3中
ファクスモニター音量	1小、2、3中、4、5大、0消音	3中
暗号鍵登録	0～9、A～Fの16桁（暗号鍵番号01～20）	未登録
ファクスリモート診断	設定しない、設定する	設定しない
リモート診断ID	4桁（0000～9999）	0000
自局名登録	最大32文字	未登録
自局名登録（フリガナ）	最大32文字	未登録
自局ファクスID登録	4桁（0000～9999）	0000
自局ファクス番号登録	最大20桁	未登録
自局印字位置	設定しない、原稿外側、原稿内側	原稿外側
回線種類	プッシュ回線（DTMF）、ダイヤル回線（10PPS）、ダイヤル回線（20PPS）	プッシュ回線（DTMF）
リダイヤル回数	0～14回	3回
受信用紙種類	全用紙種類、普通紙、薄紙、再生紙、ボンド紙、厚紙、カラー紙、上質紙、カスタム1～8	全用紙種類
縮小受信	設定しない、設定する	設定しない
受信日時記録	設定しない、設定する	設定しない
両面印刷	設定しない、設定する	設定しない
2in1印刷	設定しない、設定する	設定しない
一括印刷	設定しない、設定する	設定しない
ベル回数（普通）	1～15回	2回
ベル回数（留守番電話）	1～15回	15回
ベル回数（ファクス/電話切替）	0～15回	0回

項目	設定範囲	出荷時設定値
受信方式	自動（普通）、自動（ファクス/電話）、自動（留守番電話）、手動	自動（普通）
リモート切り替えダイヤル	2桁（00～99）	55
Fネット無鳴動受信	設定しない、設定する	設定しない
ダイヤルイン	設定しない、設定する	設定しない
ダイヤルイン電話番号	4桁（0000～9999）	0000
ファクス番号	4桁（0000～9999）	0000
暗号受信	設定する（暗号鍵番号01～20）、設定しない	設定しない
送信制限設定	制限しない、許可リスト＋アドレス帳	制限しない
受信制限設定	制限しない、許可リスト＋アドレス帳、拒否リスト	制限しない
許可ファクス番号登録	最大20桁　（登録件数は最大25件）	未登録
拒否ファクス番号登録	最大20桁　（登録件数は最大25件）	未登録
許可ID番号登録	0000～9999　（登録件数は最大10件）	0000
番号不明受信の処理	拒否する、許可する	拒否する
メモリー転送設定	転送しない、転送する	転送しない
使用禁止時間	設定しない、設定する	設定しない
解除コード	4桁（0000～9999）	0000
送信開始速度	33600 bps、14400 bps、9600 bps	33600 bps
ECM	設定しない、設定する	設定する
暗号送信設定	設定しない、設定する	設定しない
送信先暗号用ボックス	使用しない、使用する	使用しない
送信済み文書削除	設定しない、設定する	設定しない
上書き保存許可設定	禁止する、許可する	許可する

受信サイズと印刷用紙優先順位表

受信した原稿のサイズと、同サイズ同方向の用紙がカセットにセットされていない場合、本機が印刷の際に自動で選択する用紙の優先順位は次の表のとおりです。

等倍優先

選択順位	受信サイズ A5	受信サイズ B5	受信サイズ A4-R	受信サイズ A4	受信サイズ B4	受信サイズ A3
1	* A5-R	B5	A4-R	A4	B4	A3
2	A4-R	* B5-R	* A4	* A4-R	A3	A4 (2枚)
3	* A4	B4	A3	A3	B5 (2枚)	* A4-R (2枚)
4	B5	A4	B4	* B4	* B5-R (2枚)	* B4 (2枚)
5	* B5-R	* A4-R	* A5-R (2枚)		A4 (2枚)	
6	A3	A3	B5 (2枚)		* A4-R (2枚)	
7	B4		* B5-R (2枚)			

（用紙サイズ）

* 受信サイズと用紙の向きが異なるため、画像を自動的に 90° 回転して印刷します。
（2枚の用紙記号）は 2 枚の用紙に分割して印刷されることを示しています。

参考

「受信用紙種類」で用紙の種類を選択している場合は、用紙種類が一致する給紙元から印刷します。(5-10ページ参照)

「受信用紙種類」で[全用紙種類]を選択している場合でも、ファクスの印刷に使用できない用紙種類がセットされた給紙元からは印刷できません。

縮小受信

選択順位	受信サイズ: A5	B5	A4-R	A4	B4	A3
用紙サイズ 1	* A5-R	B5	A4-R	A4	B4	A3
2	A4-R	* B5-R	* A4	* A4-R	A3	** B4
3	* A4	B4	A3	A3	** A4-R	** A4-R
4	B5	A4	B4	* B4	*, ** A4	*, ** A4
5	* B5-R	* A4-R	** B5-R	** B5	** B5-R	** B5-R
6	A3	A3	*, ** B5	*, ** B5-R	*, ** B5	*, ** B5
7	B4		** A5-R	*, ** A5-R		

*　受信サイズと用紙の向きが異なるため、画像を自動的に 90° 回転して印刷します。
**　用紙サイズに合わせて、受信データを縮小して印刷します。

参考

「受信用紙種類」で用紙の種類を選択している場合は、用紙種類が一致する給紙元から印刷します。(5-10ページ参照)

「受信用紙種類」で[全用紙種類]を選択している場合でも、ファクスの印刷に使用できない用紙種類がセットされた給紙元からは印刷できません。

索引

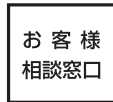
お客様相談窓口のご案内

京セラミタ製品についてのお問い合わせは、下記のナビダイヤルへご連絡ください。市内通話料金でご利用いただけます。

京セラミタ株式会社
京セラミタジャパン株式会社

〒103-0023　東京都中央区日本橋本町1-9-15

http://www.kyoceramita.co.jp

お客様相談窓口

受付時間
● 9:00～17:00
（但し、土曜日、日曜日及び祝日は除く）

市内通話料金でご利用いただけます。

Rev. 1 2010.12
5JRKMJA001